

## 第4章 C区の検出遺構と遺物

### 第1節 縄文時代の検出遺構と出土遺物

#### 調査概要

C区は、B区より比高差が約4mほど高い位置に当たる。現在の市道滝内・孫内線は三内沢部集落のある段丘の尾根筋にのびており、それに近い位置である。DFからDKラインにかけては急傾斜で、B区西側の沢斜面へ連続する。

検出された遺構は、縄文時代のものとしては竪穴住居跡4棟、掘立柱建物跡1棟、土坑48基、土器埋設遺構1基である。いずれも縄文時代中期中葉から後葉にかけてのものである。DA～DFの斜面落ち際に密に分布する。それ以南では土坑が散漫に分布する。また、時期不明の溝跡としたCSD02は轍痕である可能性が考えられる。

#### 1 竪穴住居跡

##### 第C1号竪穴住居跡

[位置・確認] DB～DD-25～26に位置する。第IV層上面で黒色の落ち込みを確認した。

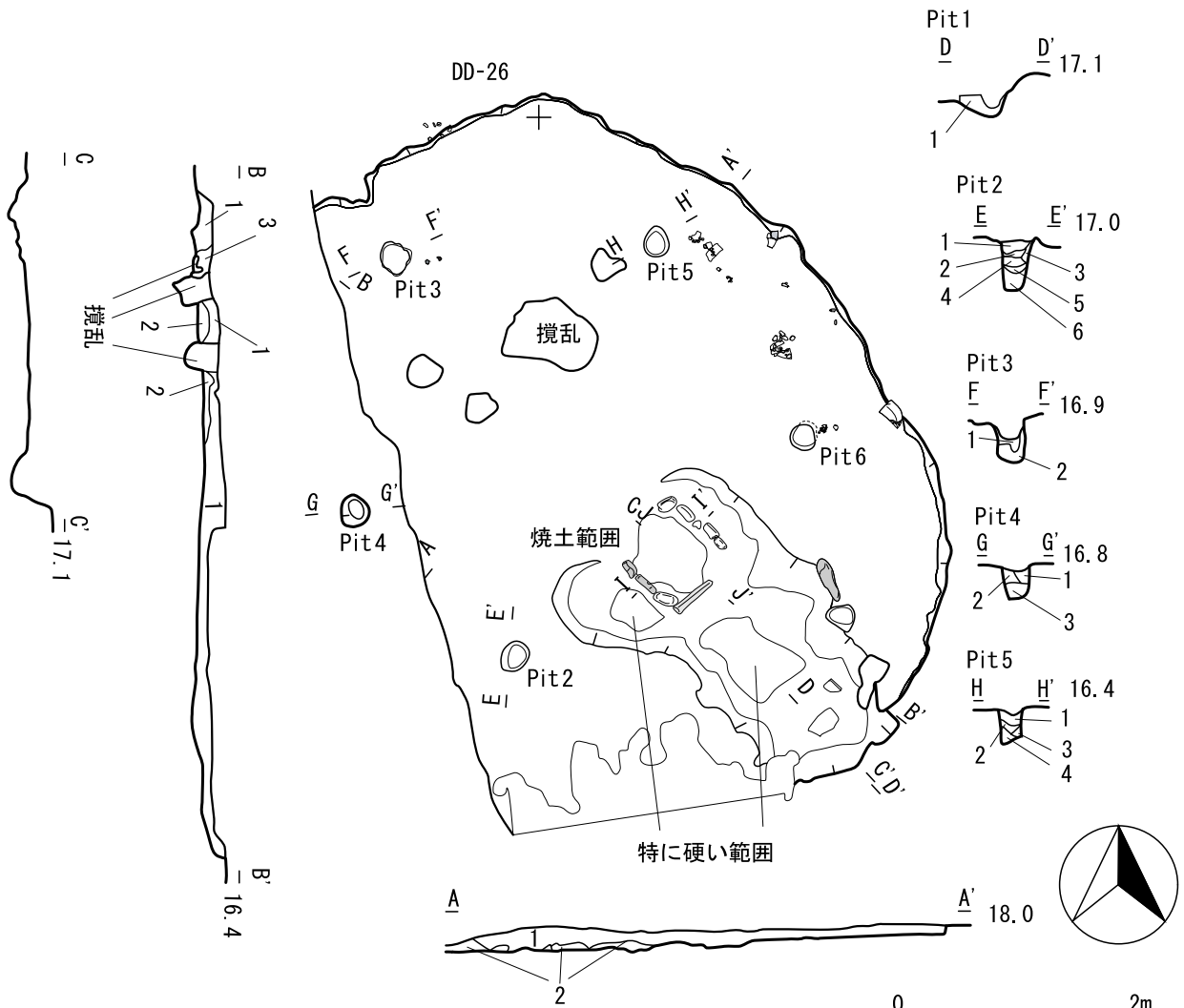
[平面形・規模] 住居南側と東側に攪乱があるため、はっきりとした平面形は把握できないが、不整形な楕円形であると思われる。長軸は6.4m、短軸は削平があり、最長部分で4.52mである。

[壁面・床] 確認面からの壁高が、東側で8cm、南側に12.9cm残存している。南側が緩やかに立ち上がるほかは、壁高が低いながら垂直に立ち上がっている。床は掘り込んだローム面をそのまま床にしており貼床は見られない。東側から西側にかけてなだらかに下っており、凸凹がある。

[壁溝] なし。

[ピット・柱穴] 床面から6個確認され、平面、断面観察でも柱痕は確認できなかった。柱穴の規模は径20～28cmで、深さは21～41cmである。柱穴はPit2～6の5個が五角形になるように配置され、その配置から支柱穴と判断される。

[炉] 住居中央部より長軸で約280cm、短軸は石囲炉周辺で178cm、硬化面の周辺で134cmの不整形楕円形の落ち込みが検出された。その住居跡中央に近い北側から石囲炉が検出され、その規模は礫の外法で南北85×東西86cmであり、石囲炉の北側は礫は確認されず、「コ」の字状に配置されている。礫は浅い掘方を持ち、設置されている。ただし、北側の礫が無い部分での掘方は確認されなかった。また、焼土は石囲炉内部に約10cmの厚さで形成されており、焼土を検出したのはこの範囲のみである。石囲炉の主軸方向南側には不整形な長方形の硬化面、そして西側にも不整形の硬化面が見られる。さらにその南側には壁に接するように55cm×39cm、深さ16cmの長楕円形の掘り込み(Pit1)が見られる。石囲炉の周辺を見渡してみると、①方形の石囲炉があり、②石囲炉に付属する硬化面が見られ、③その硬化面から壁側に長楕円形の掘り込みがあり、④その3つが直線状に並び、また、それらが床面より低いところに構築されている。



- CSI-01  
 1 10YR2/2 黒褐 黄褐色ロームブロック微量、黄褐色ローム粒少量  
 2 10YR3/3 暗褐色土10YR5/6黄褐色土との混合土、炭化物粒微量、黄褐色土ローム粒少量  
 3 10YR3/3 暗褐色土と10YR4/4褐色土との混合土、灰白色粘土小塊少量、黄褐色ローム粒微量

- PIT1  
 1 10YR3/3 暗褐 明褐色ローム小塊多量、炭化物小粒微量、赤褐色焼土微量

- PIT2  
 1 10YR3/3 暗褐 褐色ローム多量、明褐色ローム小粒少量、暗褐色土中塊少量  
 2 10YR5/8 黄褐 褐色ローム多量、明褐色ローム小粒微量  
 3 10YR5/8 黄褐 ローム主体  
 4 10YR4/6 褐 ローム主体  
 5 7.5YR5/8 明褐 ローム主体  
 6 10YR5/8 黄褐 褐色ローム小塊少量

- PIT3  
 1 10YR4/6 褐色ローム主体  
 2 10YR5/8 黄褐色ローム主体

- PIT4  
 1 7.5YR 褐 ローム主体 10YR2/1黒色砂微量  
 2 10YR4/4 褐 ローム主体 暗褐色土小塊微量  
 3 10YR4/6 褐 ローム主体

- PIT5  
 1 10YR4/6 褐 ローム主体 黒褐色土多量  
 2 10YR3/4 暗褐 黄褐色ローム  
 3 10YR5/8 黄褐 ローム主体、褐色土多量  
 4 10YR5/8 黄褐 ローム主体、褐色ローム多量

図46 第C1号竖穴住居跡(1)

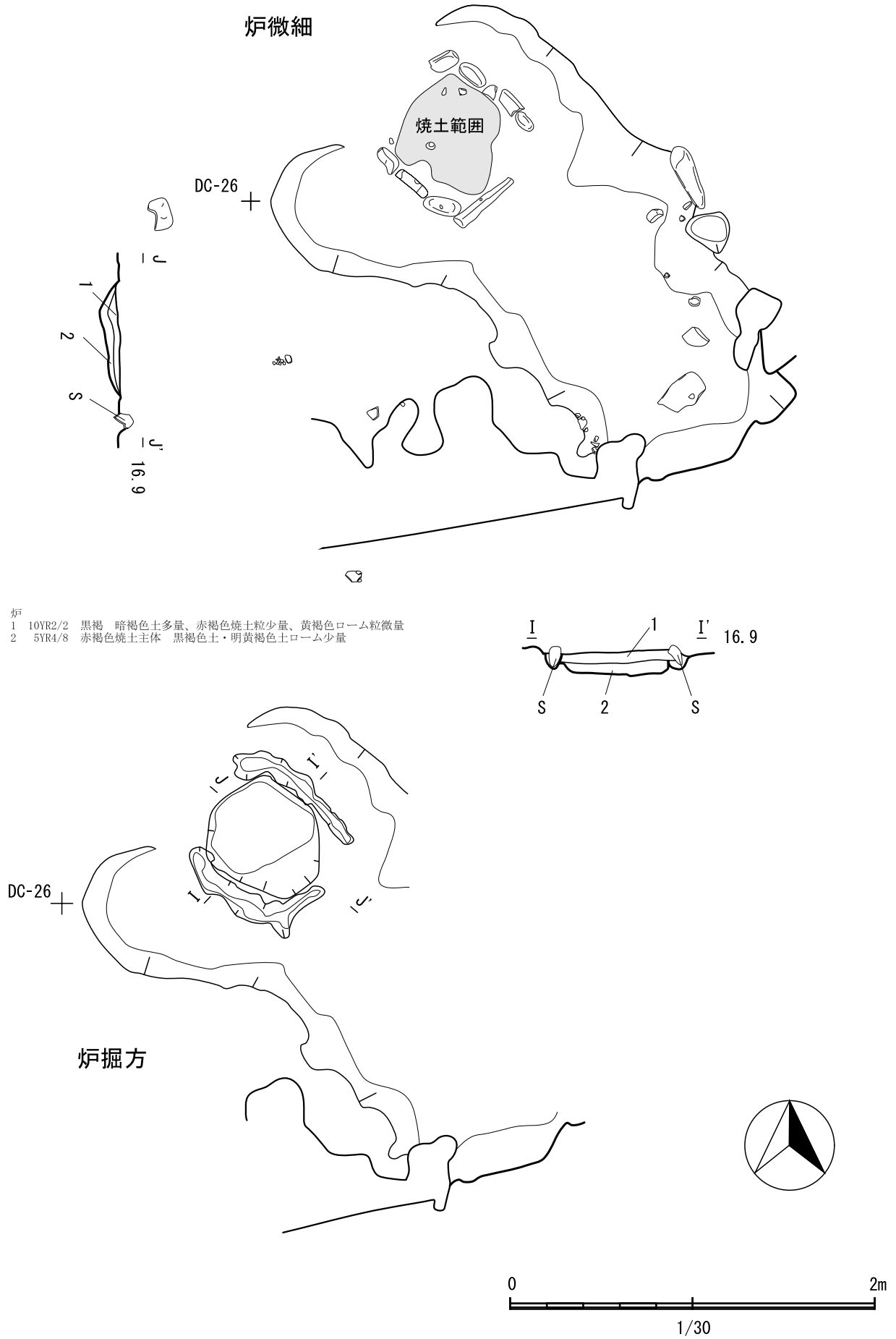


図47 第C1号竪穴住居跡(2)

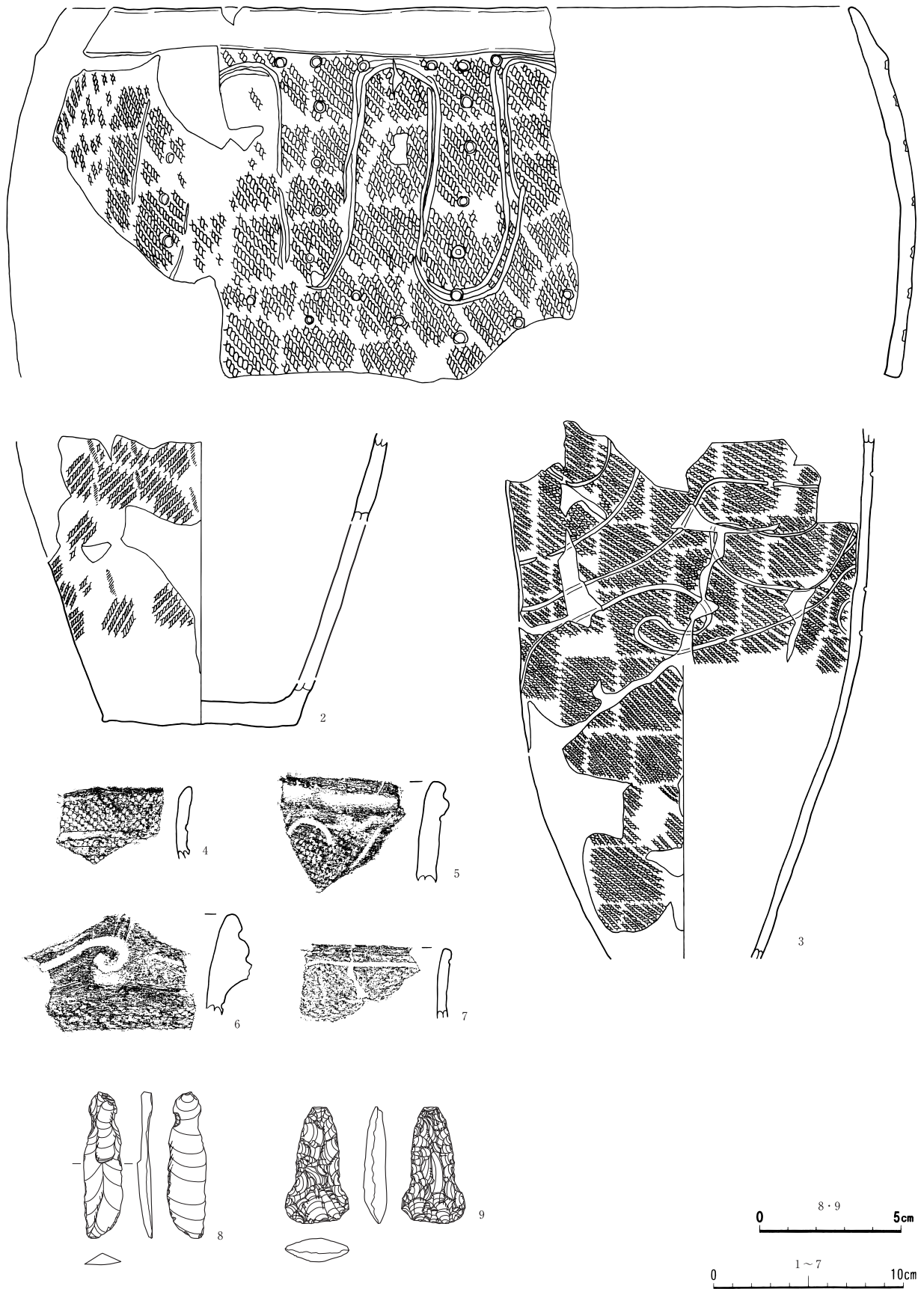


図48 第C1号竖穴住居跡出土遺物(1)

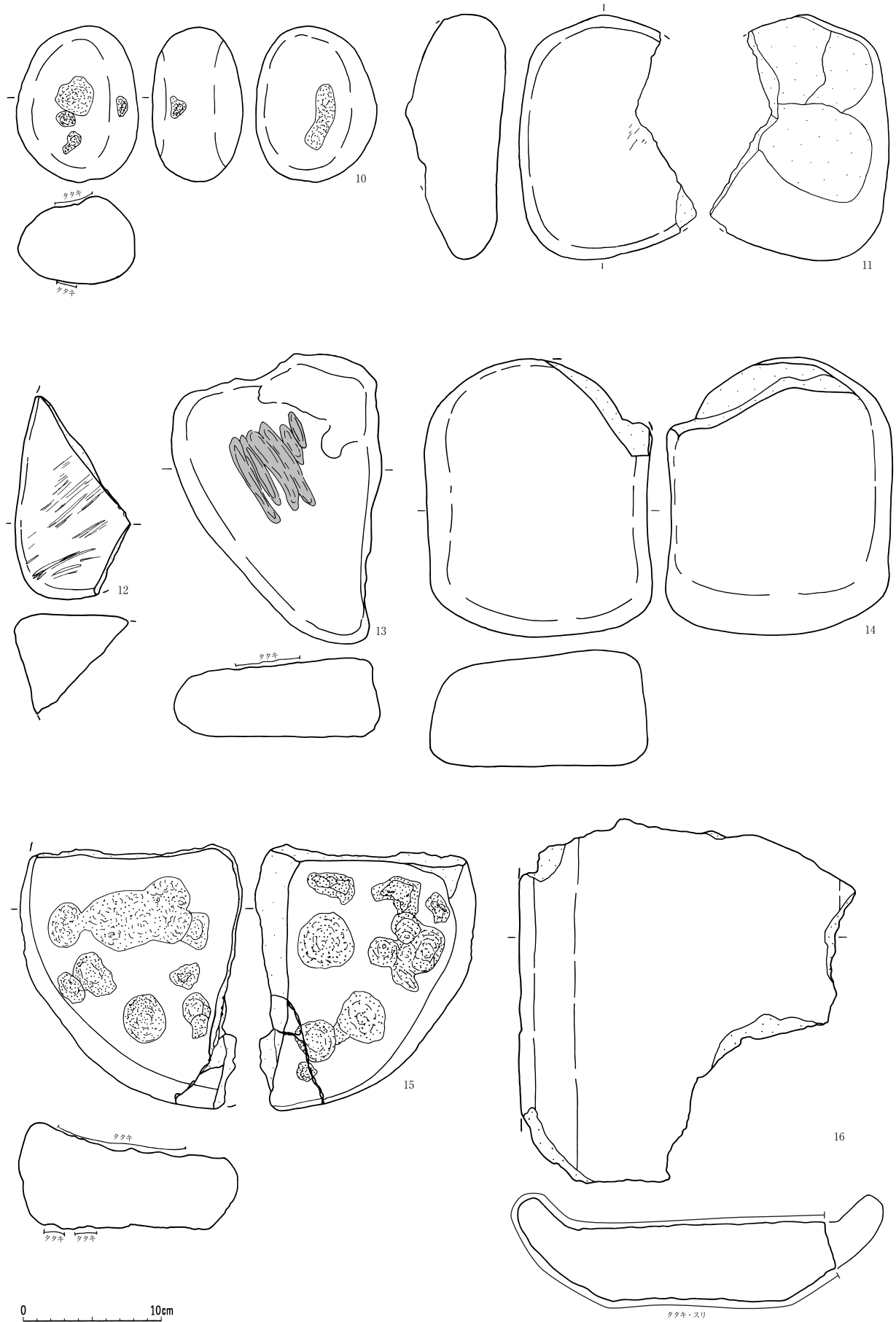


図49 第C1号竪穴住居跡出土遺物(2)

[堆積土] 3層に分層した。堆積土上部は1層は黒褐色土主体で、乾くと白っぽくなり、ぼそぼそして10mm程度のロームブロックが見られる。2層は黄褐色土主体、炭化物が少量含まれ、5～30mmのローム粒も見られる。3層は褐色土主体となり、灰白色の粘土がわずかに含まれる。堆積状況より、人為堆積の可能性が高い。

[出土遺物] 土器は、床面から最花式土器、第1層から大木10式併行期の復元可能な土器が出土した。剥片石器は、床直から石匙1点、床面から石筥1点が出土した。礫石器は、炉から敲石1点、玉砥石1点、台石2点が、床直からは凹みのある台石1点、擦痕のある台石1点、敲きと磨りによって縁が立ち上がるように整形された石皿1点(図49-16)が出土した。

[時期] 本遺構の時期は、床面出土土器から最花式期と考えられる。(小山内)

### 第C2号竪穴住居跡

[位置・確認] DA・B-22・23に位置する。第V層上面で確認した。

[重複] なし。ただし、上面は畑の作付けによる攪乱が激しい。

[平面形・規模] 北側での攪乱がやや激しいものの、平面形は南側に向かって窄まる卵形である。規模は長軸425cm×短軸343cmである。床面積は9.4㎡である。

[壁・床面] 確認面からの壁高は、北壁で22.1cm、西壁で17.1cm、東壁で27.2cm、南壁で16.8cmである。掘り込んだローム面をそのまま床にしている。床面は堅緻で、特に炉の周辺はそれが顕著である。

[壁溝] なし。

[柱穴] 床面から柱穴状のピットを1個検出した。Pit2は径25cmほどの不整形円で、深さは30.2cmである。また、竪穴外から柱穴状のピットが4個確認された。Pit3は径30cmほどで、深さは44cm、Pit4は径25cmほどで、深さは43.6cm、Pit5は45×35cmの不整形楕円形で、深さは53cm、Pit6は径30cmほどで、深さは59.8cmである。これらの竪穴外のピットも上屋に関連するピットの可能性がある。

[炉] 住居跡ほぼ中央から地床炉が検出された。36×22cmの楕円形に焼土が広がる。厚さは3cm程度である。掘方は42×24cmの楕円形で、深さは7cmである。焼土の下は炭化物が混入するローム主体土である。

[その他] 南西壁際で60×55cmの円形の落ち込みを確認した。底面は鍋底状で、深さは24cmである。堆積土は暗褐色土主体で、ローム粒・炭化物粒が少量混入する。

[堆積土] 2層に分層した。第1層の暗褐色土が主体である。褐色土塊やローム粒が少量混入する。第2層は炭化物主体層である。

[出土遺物] 第1層から中期中葉～後葉にかけての土器片が出土した。図51-6・7(同一個体である)は大木8b式土器そのものとも言える。また8・9は榎林式土器に円筒上層e式の要素が混在(残存)している。石器も同様に第1層から、基部にアスファルトの付着した石鏃1点、敲石1点、磨石1点、未製品の北海道式石冠1点が出土した。

[時期] 堆積土出土土器から、本遺構は中期後葉に近い時期と考えられる。

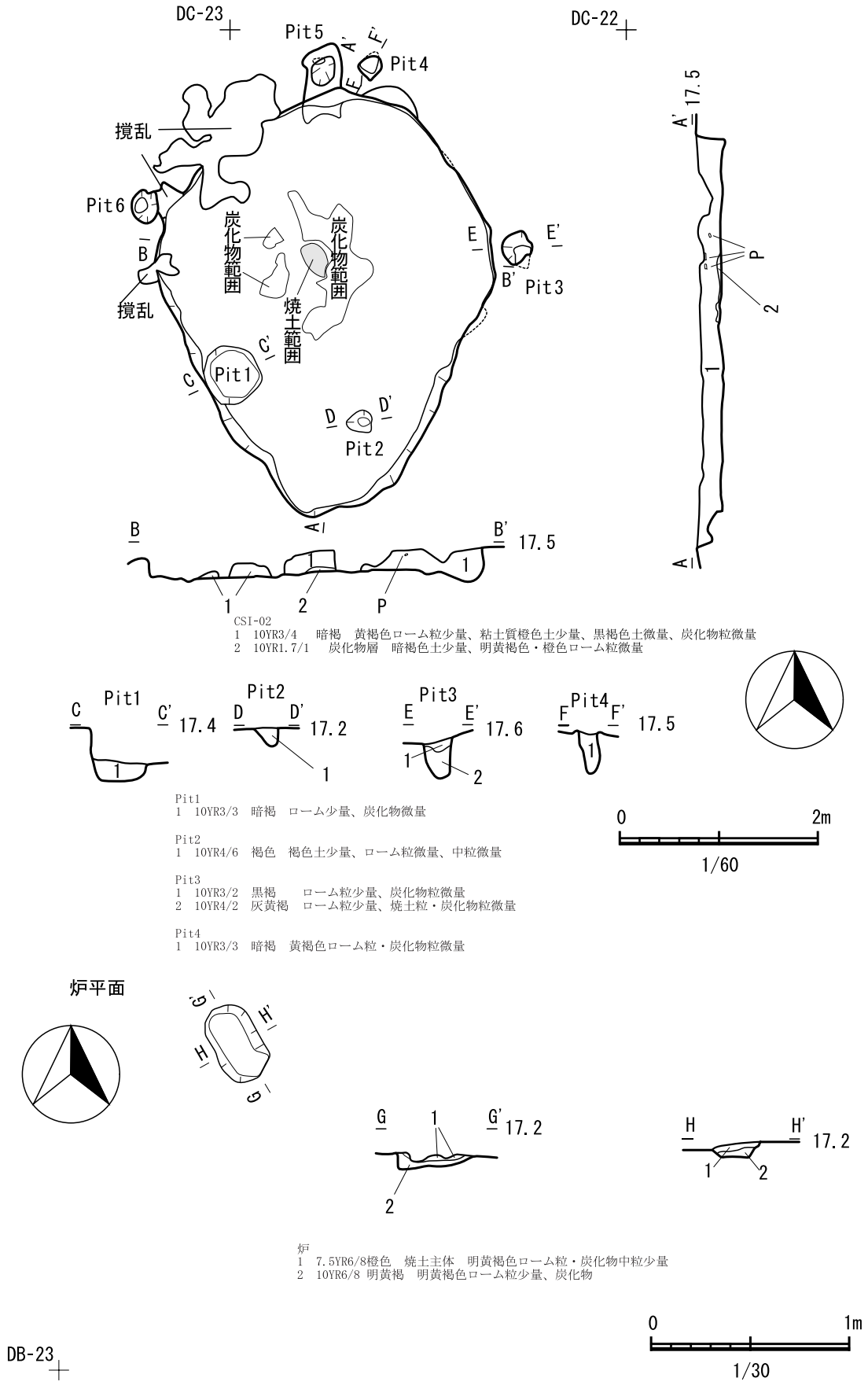


図50 第C2号竖穴住居跡

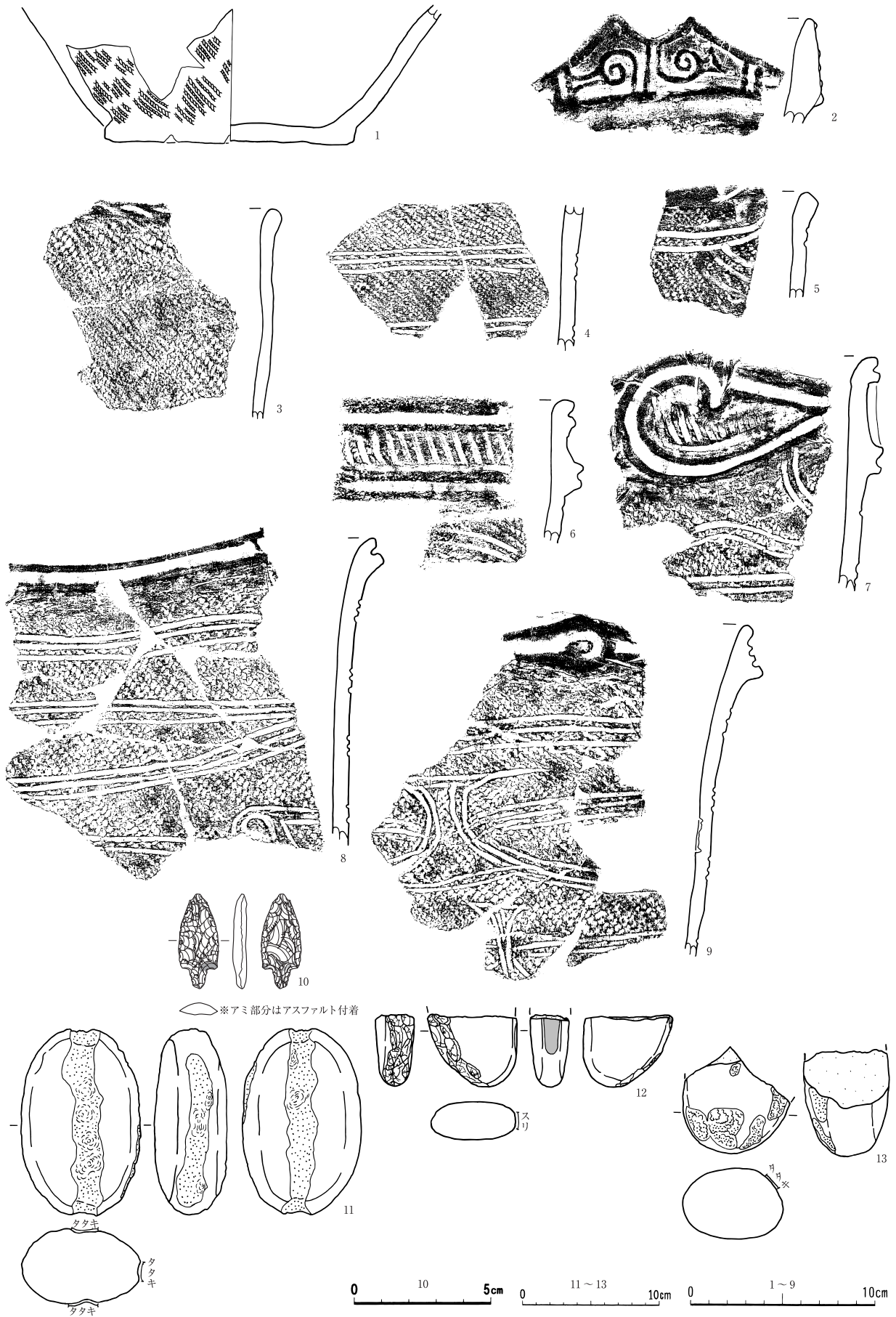


図51 第C2号竪穴住居跡出土遺物



### 第C 3号竪穴住居跡

[位置・確認] C Y・D A-22に位置する。第V層上面で炉及び床面の一部を確認した。

[重複] 第C 27号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 畑の攪乱により、壁は検出できず、半分ほどが調査区外へかかるため、平面形・規模ともに不明である。規模は炉を中心とした南北ラインで3.6mで、それよりは大きい。

[壁・床面] ローム面を床にしており、確認できた範囲では貼床はみられない。床面は堅緻である。

[壁溝] なし。

[柱穴] 床面からピットを3個検出した。しかし、規模から見て柱穴とは考えにくい。

[炉] 床面から土器片・石囲土器片敷炉が検出された。径80cmの掘方下場付近に土器片と礫を立て、その内部にも土器片を敷き詰めている。礫の東側にも楕円形の掘方が確認されたことから、礫の抜き取り痕の可能性が高い。炉堆積土中には焼土層は確認されず、敷いた土器片上面に焼土粒がわずかに広がる程度である。

[堆積土] 7層に分層した。第6・7層は炉堆積土と共通する。全体に黒褐色土主体で、部分的にローム粒、炭化物、焼土粒が微量混入する。

[出土遺物] 土器片敷炉に使われた土器は、地文のみの胴部片である。他に炉からは、磨りのある石皿片が1点出土した。また、第1層中から最花式土器を主体とした土器片や敲石1点、被熱礫1点が出土した。

[時期] 炉出土土器や、堆積土出土土器から縄文時代中期後葉を中心とした時期と考えられる。

(小笠原)

### 第C 4号竪穴住居跡

[位置・確認] D D～D E-27～28に位置する。第IV層上面で黒色の落ち込みを確認した。

[重複] 第30号土坑と重複し、本遺構が古い。

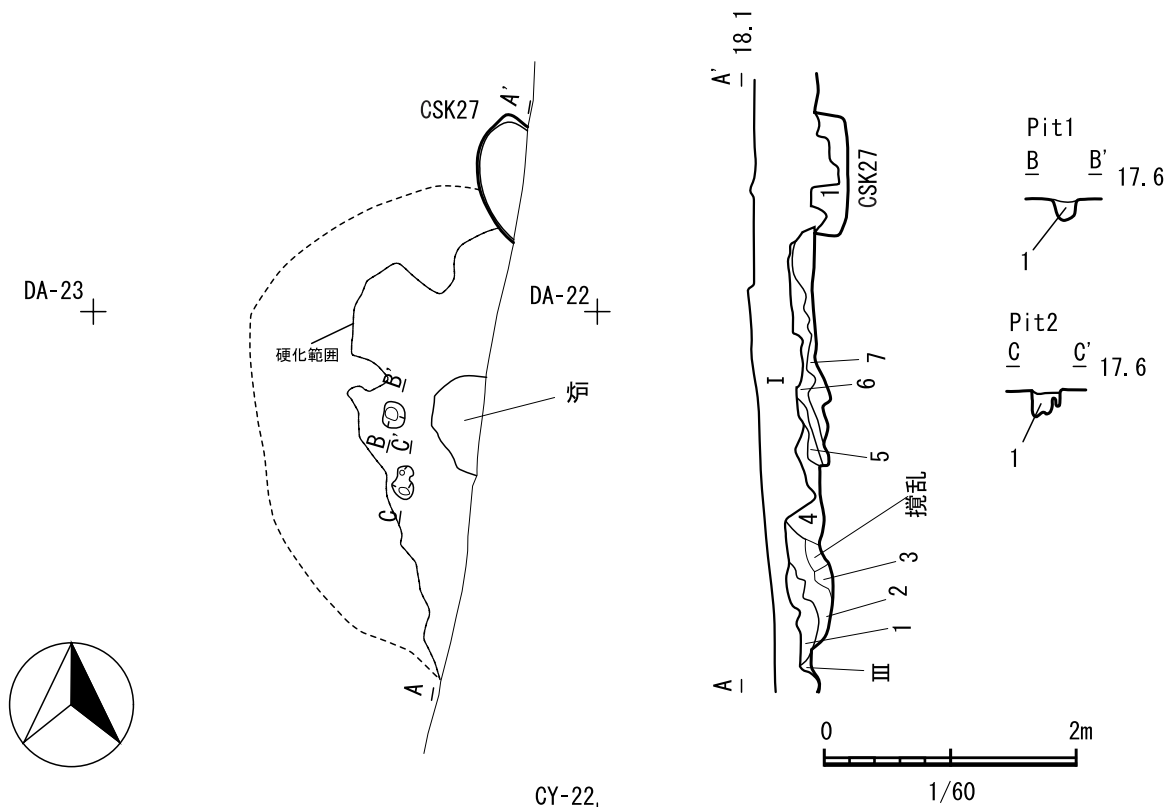
[平面形・規模] 長軸4.05m、短軸2.6mの長楕円形である。床面積は8.3㎡である。

[壁面・床] 確認面からの壁高が、北側で42cm、南側で40cm、東側で45cm、西側で43cm残存している。壁は全体的に垂直に立ち上がっている。床は掘り込んだローム面をそのまま床にしており貼床はみられない。

[壁溝] なし。

[ピット・柱穴] 床面から2個ピットが確認され、径は18～23cm、深さは18～48cmであった。住居外側からは6個確認され、径は20～30cmで深さは18.5～50.7cmである。いずれのピットも平面、断面観察共に柱痕は確認できなかった。ピットの配置を見ると、主軸に沿ったピット1～7～5の並び、そしてピット6～7～8～2～3の並びが先の並びを直行するように見受けられる。これらのピットがこの住居における柱穴である可能性がある。

[炉] 住居中央部より主軸方向でやや北よりに57cm×41cmの不整楕円形の地床炉が検出された。炉は床面をわずかに掘り下げて構築され、焼土は炉内部に3cmの厚さで形成されている。炉の周辺には197cm×95cmの不整楕円形の硬化面が見られる。

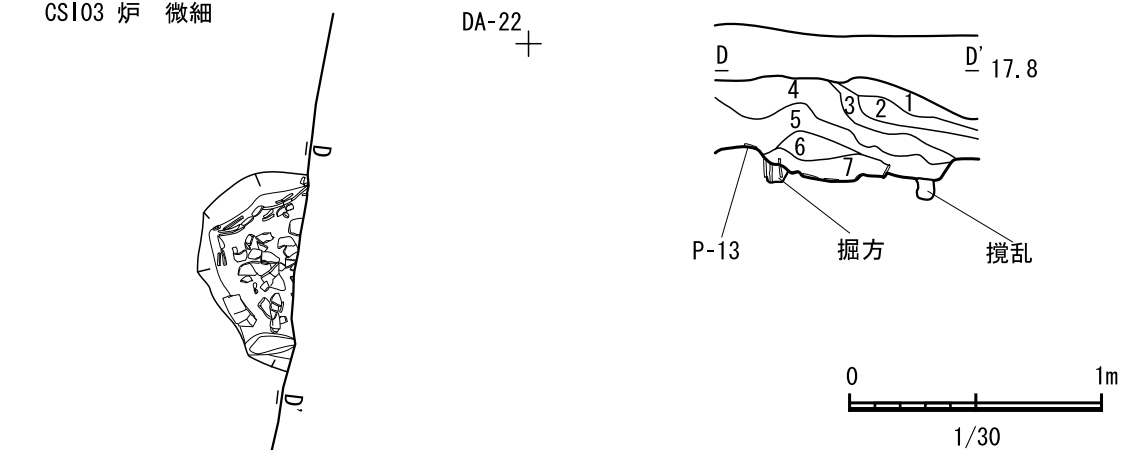


- CY-22+
- CSI-03
- |   |         |    |                            |
|---|---------|----|----------------------------|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐 | 黒褐色土・黄褐色ローム粒・炭化物粒微量        |
| 2 | 10YR2/2 | 黒褐 | 明黄褐色ローム粒少量、炭化物、焼土粒微量       |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐 | 明黄褐色ローム粒、炭化物微量             |
| 4 | 10YR2/1 | 黒  | 暗褐色土微量、黄褐色ローム・赤褐色焼土粒・炭化物微量 |
| 5 | 10YR2/2 | 黒褐 | 褐色ローム粒、炭化物微量               |
| 6 | 10YR2/2 | 黒褐 | 黄褐色ローム粒微量、炭化物微量            |
| 7 | 10YR2/2 | 黒褐 | 暗褐色土少量、明黄褐色ローム粒微量、炭化物粒微量   |

- Pit1
- |   |         |    |                        |
|---|---------|----|------------------------|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐 | 褐色土少量、黄褐色ローム粒少量、炭化物粒微量 |
|---|---------|----|------------------------|

- Pit2
- |   |         |   |                    |
|---|---------|---|--------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒 | 明黄褐色ローム中粒中量、炭化物粒少量 |
|---|---------|---|--------------------|

CSI03 炉 微細



- D-D'ライン
- |   |           |   |                               |
|---|-----------|---|-------------------------------|
| 1 | 10YR1.7/1 | 黒 | 明黄褐色ロームブロック中量                 |
| 2 | 10YR2/1   | 黒 | 黒色土中量、明黄褐色ロームごく微量             |
| 3 | 10YR1.7/1 | 黒 | 明黄褐色ロームブロックごく微量               |
| 4 | 10YR2/1   | 黒 | 黒色土少量、明黄褐色ロームブロック微量           |
| 5 | 10YR1.7/1 | 黒 | 炭化物中粒微量、明黄褐色ロームブロック少量         |
| 6 | 10YR2/1   | 黒 | 炭化物粒ごく微量、10YR6/8明黄褐色ロームブロック少量 |
| 7 | 10YR2/1   | 黒 | 明黄褐色ロームブロック・焼土粒・炭化物ごく微量       |
| 8 | 10YR2/2   | 黒 | 明黄褐色ローム粒少量                    |

図52 第C3号竪穴住居跡

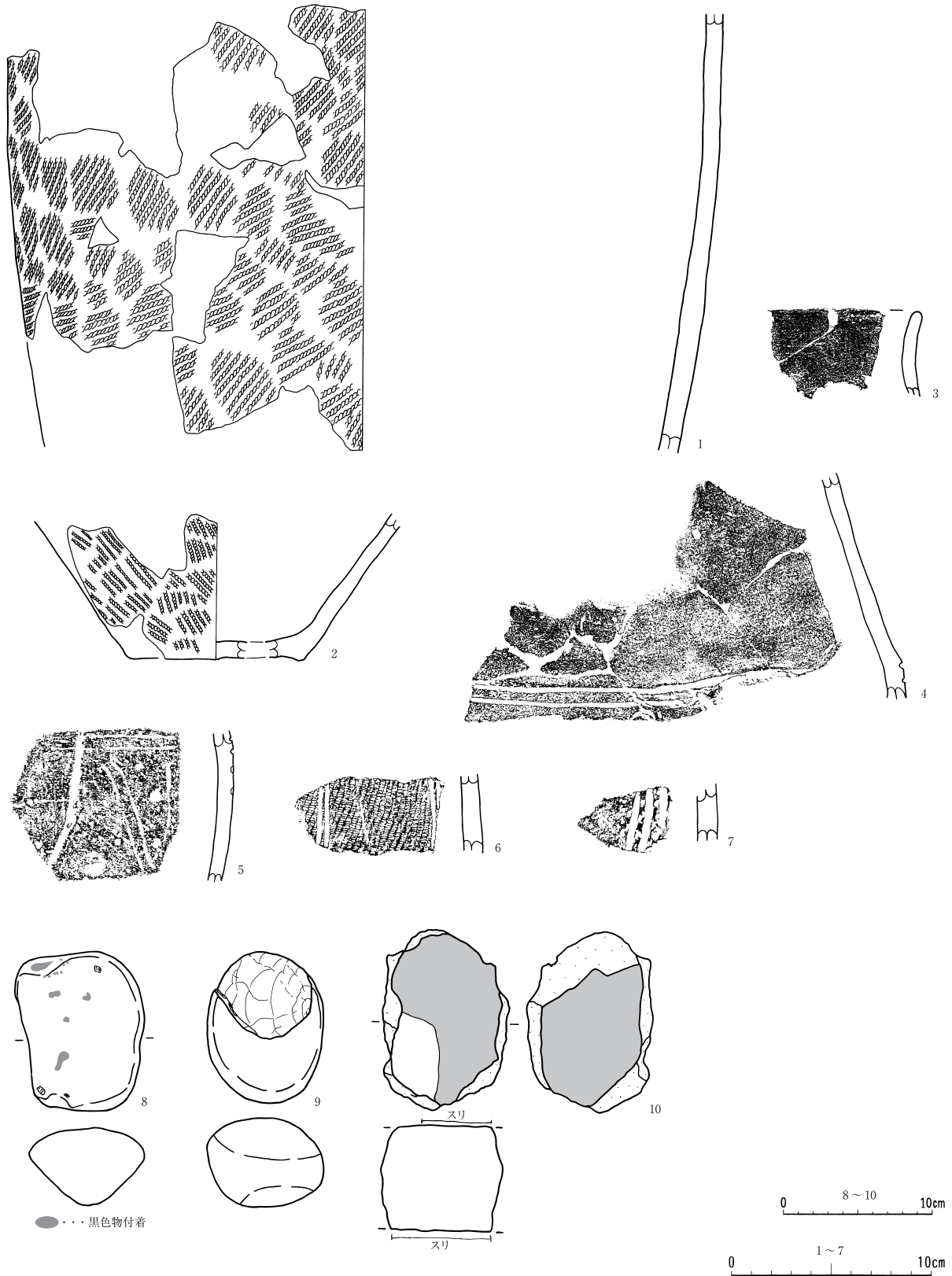
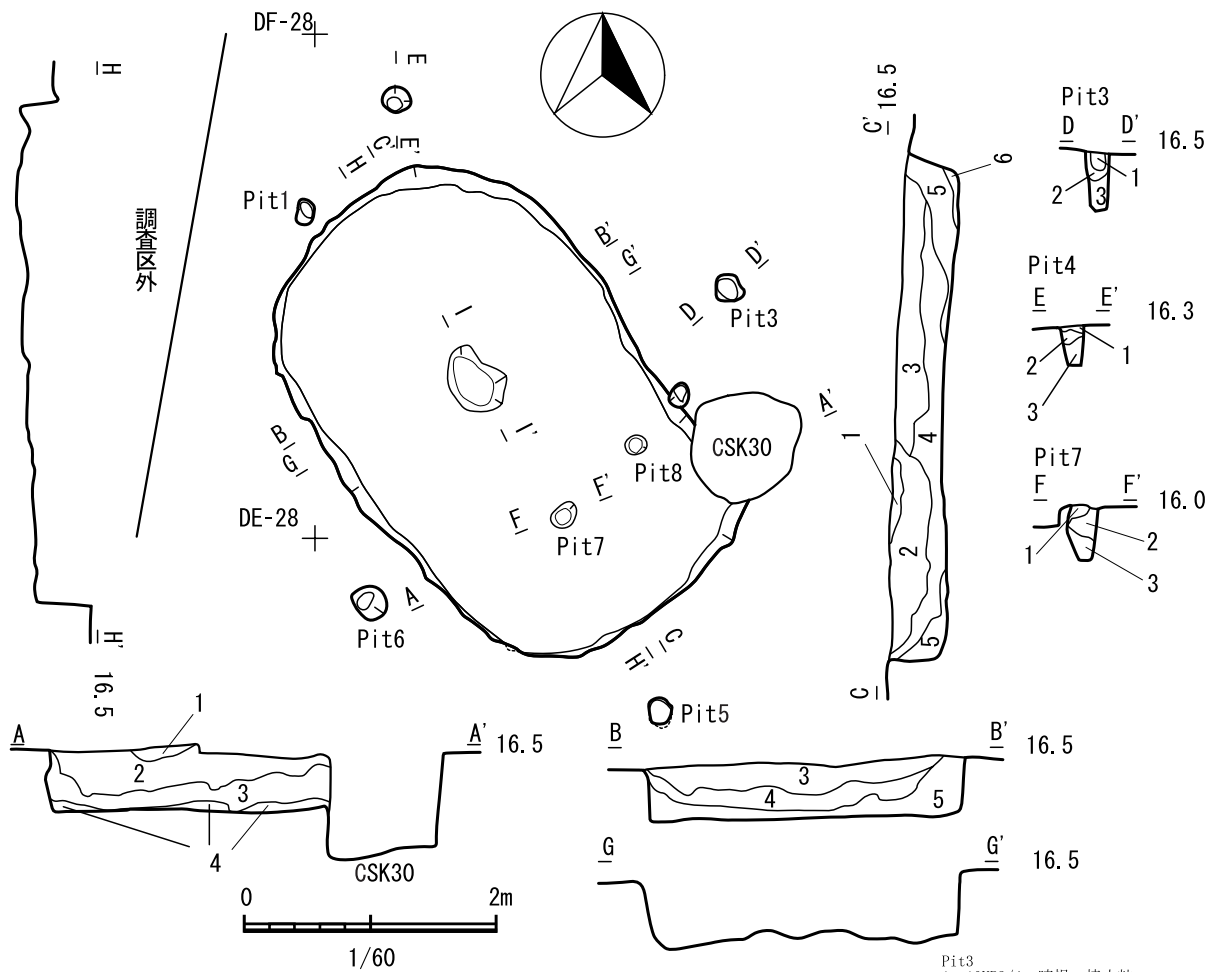


図53 第C3号竪穴住居跡出土遺物



CSI-04

- 1 10YR5/6 黄褐 赤褐色焼土少量、ローム粒・炭化物粒微量
- 2 10YR4/4 褐 黄褐色ローム粒微量、焼土粒・炭化物少量、褐灰色パミス微量
- 3 10YR5/6 黄褐 ローム主体、赤褐色焼土粒微量、炭化物粒・灰白色パミス粒微量
- 4 10YR5/8 黄褐 ローム主体、明赤褐焼土粒・炭化物粒・パミス粒微量
- 5 10YR4/6 褐 黄褐色ローム中量、炭化物粒・1灰白色パミス小粒微量
- 6 10YR4/4 褐 黄褐色ローム中量、灰白色パミス粒微量

Pit3

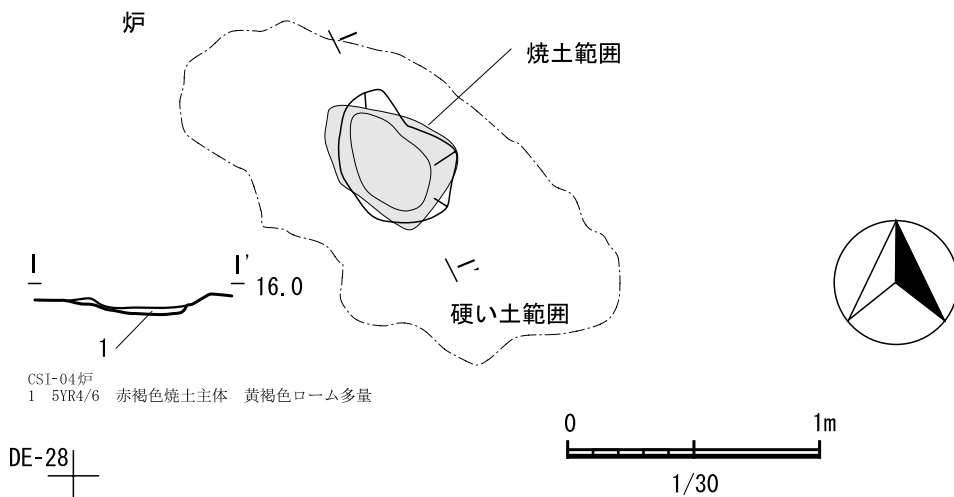
- 1 10YR3/4 暗褐 焼土粒・炭化物粒微量
- 2 10YR4/6 褐
- 3 10YR5/8 黄褐

Pit4

- 1 10YR4/6 褐 炭化物粒微量
- 2 10YR5/8 黄褐
- 3 10YR5/6 黄褐

Pit7

- 1 10YR5/6 黄褐色ローム主体
- 2 10YR5/8 黄褐色ローム主体
- 3 10YR5/4 にぶい黄褐色ローム主体



CSI-04 炉

- 1 5YR4/6 赤褐色焼土主体 黄褐色ローム多量

図54 第C4号竪穴住居跡出土遺物

[堆積土] 6層に分層した。全体的に黄褐色または褐色土主体である。第1層は焼土主体で、他の褐色土やロームは少ない。2層は褐色土主体で焼土が少量、炭化物が微量見られる。第3・4層は黄褐色土主体で焼土・炭化物の混入が見られる。堆積状況より、第3層以下が自然堆積、第1・2層は第3・4層を掘り込んだ人為堆積の可能性が高い。

[出土遺物] 床面からは敲石2点が出土した。堆積土中から円筒上層c式やd式土器片が出土した。

[時期] 堆積土出土土器から縄文時代中期中葉に近い時期と考えられる。 (小山内)

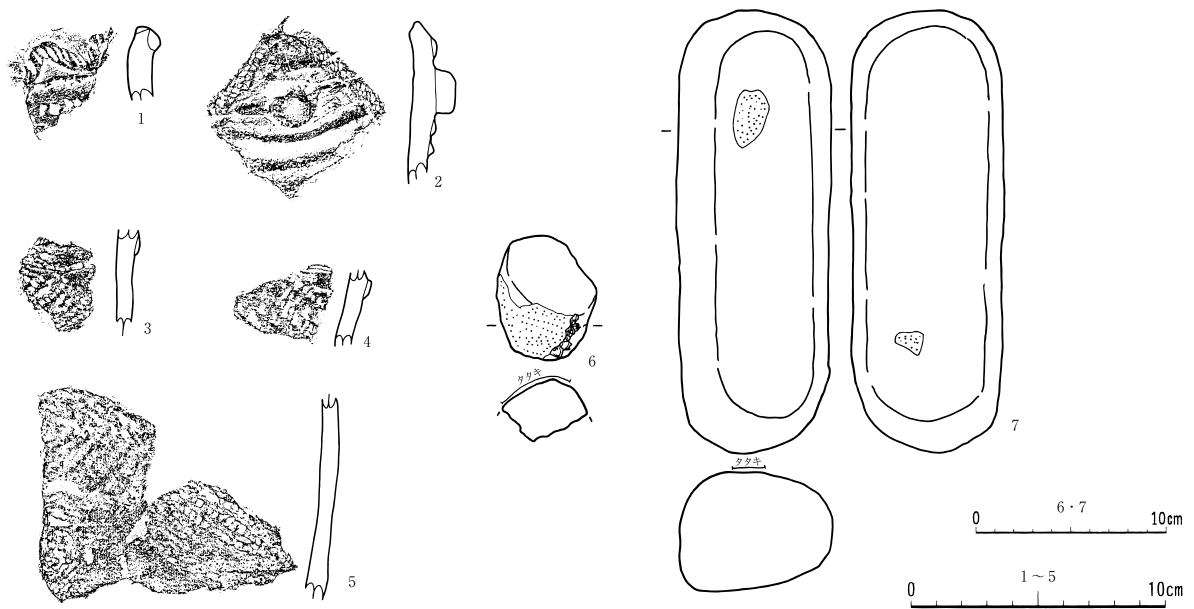


図55 第C4号竪穴住居跡出土遺物

2 掘立柱建物跡

第C1号掘立柱建物跡 (図56)

[位置と確認] CY~DA-23・24に位置する。第IV層上面で確認した。周辺は現在の畑によるものと思われる耕作痕が著しい。本遺構としたものはそれらに比べて形態が安定し、掘方の規模、深さとも大きく、1間×1間の建物跡としてとらえることが出来た。そのため、他のピット群とは区別して考えることができると思われる。

[平面形・規模] 平面形は梁間1間×桁間1間の正方形である。規模は、掘方芯一芯で計測すると、梁方向では2.3mと2.1m、桁方向で2.5mと2.7mである。個々のピットの規模は径40~50cmでほぼ円形である。ピットの深さは50~70cmである。建物跡の主軸はN-43°-Wである。

[堆積土] 土層を観察、図化したのはPit 12のみであるが、柱痕が認められ、またその周囲は埋め戻し土と判断される。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺物がないため不確実な要素が多いが、周辺の遺構の広がりとの関連から縄文時代中期の可能性が高いものと思われる。

(小笠原)

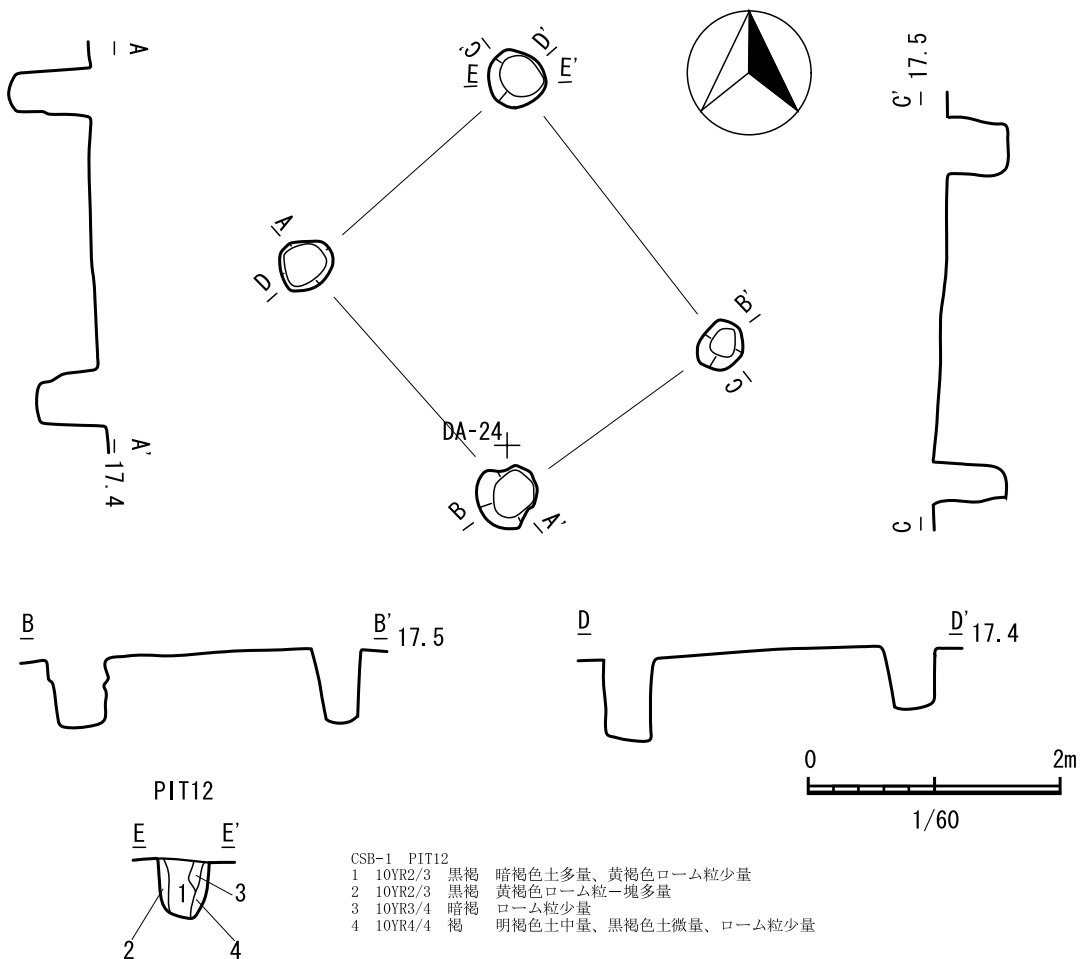


図56 第C1号掘立柱建物跡

CSK39

CSK52

CSK38

CSK41

CSK40

CSK19

CSK08

CSK18

CSK13

CSK14

CSK05

CSK15

CSK12

CSK16

CSK17

CS102

CSX01

CSK24

CSK27

CSK32

CS103

CSK45

CSK43

CSK44

CSK46

CSK21

CSK22

CSK26

CSK25

CSK34

CSK23

CSK31

CSK35

CSK28

CSK30

CSK29

CSK33

CSK06

CSK02

CSK03

CSK01

CSK04

CSK20

CSK10

CSK11

CSK09

CS101

CSR1

CSK07

CSB01

CSK42

CSK53

CSK48

CSK50

CSK51

CSK49

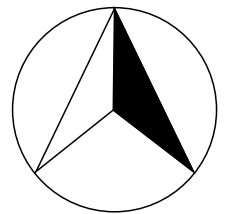
D K

D F

D A

C A

C P



0 20m

1/400

CSD01

図57 C区遺構配置図拡大

### 3 土 坑

本報告書は平成16、17年度の検出遺構・遺物を扱っているが、平成18年度に実施した本調査区の残りの部分は狭く、検出遺構もごくわずかである。そのため、ここで一括して記載する。

#### 第C1号土坑（図58・64）

壁はやや外傾して直線的に立ち上がる。部分的にはほぼ垂直に近い立ち上がりである。底面はほぼ平坦である。堆積土は4層に分層した。第3層は焼土層である。色調・混入物から第2層以下は人為堆積と考えられる。また、第1層は人為堆積後の窪みへ黒褐色土が入り込んだ自然堆積であると考えられる。遺物は堆積土中から円筒上層e式の土器片が出土した。時期は中期中葉に近い時期と考えられる。（小笠原）

#### 第C2号土坑（図58・64）

第IV層を壁に、ほぼ垂直に立ち上がる。攪乱は底面まで達するが、平坦である。堆積土は3層に分層した。第1層では一部攪乱を受けている。堆積状況は自然堆積であると思われる。遺物は第3層中央から北側で石鏃が1点出土した。遺構の時期は、周辺の状況から縄文時代中期の可能性が高い。（小山内）

#### 第C3号土坑（図58・64）

壁は東側はほぼ垂直に近い立ち上がりであるが、他は外傾して直線的に立ち上がる。底面はやや凹凸がある。堆積土は暗褐色を主体とし、褐色土が混在する。ローム粒や炭化物が混入し、人為堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は第1層から円筒上層e式の土器片、微細な使用痕剥離が認められた削器1点出土した。時期は中期中葉に近い時期と考えられる。

#### 第C4号土坑（図58・64）

壁は西側大凡半分がほぼ垂直に近い立ち上がりで、東側の大部分は底面から内傾し、開口部に近いところで垂直に立ち上がる。しかし、本来的な形状を止めていない可能性が高い。第VI層を底面としており、平坦で堅緻である。底面北西壁際で60×36cmの楕円形の落ち込みを確認した。深さは12cmほどで、底面は緩い鍋底状で、土坑の底面に比べると堅さはない。堆積土は11層に分層した。全体に褐色土から明褐色土を主体とする。第7層以下は粘土質ローム塊で構成され、壁の崩落土と見られる。特に第7・10・11層は締まりがなく、非常に脆い。第5・6層中には白色粘土塊が多量に混入する。第1層はローム層で、「蓋」をしたような状態だった。以上のことから、人為的な堆積・埋め戻しの様相が強いものと考えられる。遺物は堆積土中から円筒上層e式から榎林式の土器片が出土した。時期は中期中葉から後葉に近い時期と考えられる。（小笠原）

#### 第C5号土坑（図58）

壁は西側がほぼ垂直に立ち上がり、東側が底面から緩やかに立ち上がる。底面は攪乱を受けている



ため凹凸がある。堆積土は2層に分層した。第1層は褐色土主体でしまりがなく、ぼそぼそしている。また、ロームブロックが混入している。第2層の下には攪乱が見られる。堆積状況は人為堆積と思われる。遺物は出土しなかった。縄文時代のもと考えられるが、明確な時期は不明である。(小山内)

#### 第C7号土坑(図58)

壁は北東側のロームブロックを除き、ほぼ垂直に近く立ち上がっている。底面は柔らかく、ぼそぼそしており凹凸が多い。堆積土は2層に分層した。どちらの層もローム主体である。北東側にはロームブロックが見られる。堆積状況から人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のもと考えられるが、明確な時期は不明である。(小山内)

#### 第C8号土坑(図58・64)

壁は外傾して直線的に立ち上がる。底面は平坦である。堆積土は2層に分層した。第1層は暗褐色、第2層はローム質土を主体とする。褐色土やローム粒、炭化物が混入し、人為堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は堆積土中から円筒上層e式の土器片、石槍1点が出土した。中期中葉に近い時期と考えられる。

#### 第C9号土坑(図58・65)

壁は外傾して直線的に立ち上がる。底面は平坦である。堆積土は2層に分層した。第1層は黒褐色、第2層は暗褐色土を主体とする。ローム粒や焼土粒、炭化物が混入し、人為堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は第2層から円筒上層e式の土器片、第1層から最花式の土器片と台石片1点が出土した。第2層出土遺物から中期中葉に近い時期と考えられる。(小笠原)

#### 第C10号土坑(図59・65)

壁は東側が外傾しながらほぼ垂直に近く立ち上がる他は、やや緩やかに立ち上がる。底面は中心部が低く、外周に向けて緩やかに上っていく。全体的には凹凸である。堆積土は2層に分層した。第1層ではロームブロックが混入し、第2層ではV層起源のロームが見られる。堆積土、堆積状況から人為堆積と考えられる。遺物は堆積土中から地文のみの胴部小片が、確認面から磨石1点が出土した。遺構の形態・分布から縄文時代中期のもと考えられるが、明確な時期は不明である。

#### 第C11号土坑(図59・65)

壁は南西側が外傾しながら立ち上がる他は、ほぼ垂直に立ち上がる。底面は中央部が低く鍋底状で、全体的に凹凸している。堆積土は4層に分層した。第1層は暗褐色土主体であり、土坑の開口部を覆い、東側に広がって堆積している。また、第2層は底面に達している。堆積状況から見て人為堆積と考えられる。遺物は堆積土中から中期の地文のみの土器片が出土した。時期は、出土土器から中期と考えられる。(小山内)

## 第C12号土坑（図59）

壁は外傾して直線的に立ち上がる。底面は平坦である。堆積土は暗褐色土を主体とし、ローム粒・塊が混入する。人為堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

## 第C14号土坑（図59）

壁は外傾して直線的に立ち上がる。底面は平坦である。堆積土は2層に分層した。第1層は暗褐色、第2層は褐色土を主体とし、ローム粒、焼土粒などが混入する。人為堆積の可能性が高い。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

（小笠原）

## 第C15号土坑（図59・65）

壁は西側を除き、底面から内傾し直線的に立ち上がり、フラスコ状を呈している。底面は平坦である。堆積土は3層に分層した。第1層は黒褐色土主体で堆積土の大半を占めている。第2層は褐色土主体でロームの混入度合いが多い。堆積状況から第1・3層は自然堆積、第2層は壁が崩落したものと考えられる。遺物は堆積土中から円筒上層d式またはe式の土器小片が出土した。時期は、出土土器から中期中葉に近い時期と考えられる。

（小山内）

## 第C16号土坑（図59・65）

壁は外傾して直線的に立ち上がる。底面は平坦である。堆積土は3層に分層した。いずれも暗褐色土を主体とし、ローム粒、炭化物、焼土粒などが混入する。混入物から人為堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は堆積土中から円筒上層e式の土器片が出土した。時期は出土土器から中期中葉に近い時期と考えられる。

（小笠原）

## 第C17号土坑（図59・65）

壁は底面から内傾して立ち、中位付近から外側に開くように立ち上がり、断面形がフラスコ状を呈している。底面は中央部が低く、外側に向かい緩やかに上っている。堆積土は4層に分層した。第1層は暗褐色土主体で自然堆積と思われる。第2層が黄褐色ローム主体、第3・4層は黒褐色土主体でローム粒が中量含まれており、人為堆積と考えられる。遺物は堆積土中から円筒上層d式またはe式の土器片が出土した。時期は、出土土器から中期中葉に近い時期と考えられる。

（小山内）

## 第C18号土坑（図59・65）

壁は北西側半分が外傾しながら立ち上がり、南東側は断面が袋状で、底面から壁高の半分程度まで内傾し、それ以上は外傾して立ち上がる。壁は第C4号土坑同様、本来の形状を止めていない可能性が高い。底面は第Ⅵ層まで掘り込まれ、平坦で堅緻である。底面北壁際で42×30cmの楕円形の落ち込みを確認した。深さは15cmである。堆積土は6層に分層した。上部は黒色土から黒褐色土を主体とする。ローム粒・塊、炭化物などが混入する。第5層はローム土で、一見地山と見間違うほどで

あった。地山に比べ締まりがなく、壁の崩落土と見られる。中心部から西壁側にかけて平坦に近い堆積状況であることから、壁の崩落も自然のものというよりも、人為的な堆積・埋め戻しの様相が強いものと考えられる。遺物は第2・3層から円筒上層e式または榎林式の土器片、第2層から石鏃1点、第6層から搔器1点が出土した。時期は出土土器から中期中～後葉に近い時期である。

#### 第C19号土坑（図60・66）

壁は外傾して緩やかに立ち上がる。底面は鍋底状で凹凸が見られる。また、西壁際で70×62cmの楕円形の落ち込みを確認した。土坑底面からの深さは22cmである。堆積土は3層に分層した。黒褐色土から褐色土主体で、全体にローム粒・塊を多く含み、他に炭化物、焼土粒などが混入する。混入物から人為堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は底面から円筒上層d式またはe式土器片や敲石1点、壁面から磨製石斧1点、第2層から円筒上層e式土器片や石皿片1点が出土した。時期は、出土土器から中期中葉に近い時期と考えられる。（小笠原）

#### 第C20号土坑（図60・66）

壁は底面より内傾しながら直線状に立ち上がる。底面はやや凹凸が見られる部分もあるが、全体的に見るとほぼ平坦である。堆積土は3層に分層した。第1・2層ともにローム塊が混じり、第2層には焼土も見られる。第3層は焼土層である。焼土は底面で形成されたものではなく、廃棄されたものと思われる。全体の堆積状況より人為堆積と思われる。遺物は堆積土中から円筒上層d式の土器片が出土した。時期は、出土土器から中期中葉に近い時期と考えられる。（小山内）

#### 第C21号土坑（図60・66）

壁は外傾して直線的に立ち上がる。北半部は立ち上がりやや緩い。底面は平坦である。堆積土は4層に分層した。第1・4層が黒褐色土主体、第2・3層が黄褐色土主体である。いずれの層にもローム粒・塊を含み、他に炭化物が微量混入する。堆積状況から見ても人為的な堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は確認面から円筒上層式の胴部片と、片面調整の削器1点が出土した。時期は、出土土器から中期前半と考えられる。

#### 第C22号土坑（図60・66）

壁は外傾して直線的に立ち上がる。底面には凹凸が見られる。堆積土は3層に分層した。第1層は暗褐色土主体でロームが塊状に中量入る。第2・3層がローム質土主体の褐色土主体である。堆積状況・混入物から見て人為堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は底面中央やや南寄りで全体の1/3を欠失した石皿片、確認面から石槍1点が出土した。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

#### 第C23号土坑（図60・67・68）

壁は西側と北東側が底面から内傾し、開口部に近いところで外傾する。それ以外はほぼ垂直ないし、外傾して立ち上がる。壁は本来の形状を止めていないものと見られる。第VI層を底面としており、

平坦で堅緻である。堆積土は38層に分層した。全体に褐色土から明褐色土を主体とする。特に下1/3程を占める第21・23・25層は粘土質ローム塊で構成され、壁の崩落土や埋め戻し土と見られる締まりがない層である。これらは、壁際にレンズ状の堆積状況を示すものではなく、土坑全面に平坦ではないにせよ、均質な厚さをもって堆積する。その他の褐色土から明褐色土主体層も同様に人為的な堆積と考えられる。第7・11・19層は黒褐色土主体であるが、ローム塊、炭化物・焼土粒などが混入する。土坑の中央部に厚く堆積し、壁際にはほとんど堆積しないこと、特に第11層で遺物が多量に含まれることから、第7層については自然堆積の可能性があるものの、他の2層については人為的な堆積層と思われる。また、第5層は廃棄された焼土層である。第1層はローム層で、第C4号土坑と同様に「蓋」をしたような状態だった。以上のことから、全体的に見れば、人為的な堆積・埋め戻しの様相が強いものと考えられる。土器は堆積土中から多量に出土した。円筒上層d・e式で、中でもe式が目立つ。石器では堆積土から両面調整の削器1点、磨石・敲石・石錘1点、敲石1点、石皿片1点出土した。第11層から敲石1点、扁平打製石器1点、第7層から石皿片1点も出土した。時期は円筒上層d・e式に近い時期と考えられる。

#### 第C25号土坑（図61）

壁は北側から西側では外傾して立ち上がる。それ以外はほぼ垂直に近い立ち上がりである。底面はほぼ平坦である。堆積土は褐色土主体で、多量にローム塊が入る。混入物から見て人為的な堆積の可能性が高いと考えられる。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

#### 第C26号土坑（図61・69）

壁は全体に外傾して直線的に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層した。褐色土～黒褐色土主体で、いずれの層にもローム粒・塊が少量から中量入る。混入物から見て人為的な堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は堆積土中から円筒上層d式の土器片、磨製石斧の刃部片1点出土した。時期は出土土器から、中期中葉に近い時期と考えられる。

#### 第C27号土坑（図61）

壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。堆積土は暗褐色土主体で、ローム粒・塊が多量に入る。混入物から見て人為的な堆積の可能性が高いと考えられる。遺物はない。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

#### 第C28号土坑（図61）

壁は東側では外傾して、他はほぼ垂直に立ち上がる。底面は鍋底状に中央がやや低い。堆積土は2層に分層した。褐色土～暗褐色土主体で、いずれの層にもローム粒が少量入る。混入物から見て人為的な堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

### 第C29号土坑(図61)

壁は南西ではほぼ垂直に、他は外傾して立ち上がる。底面は平坦だが西側に向かって下がる。堆積土は3層に分層した。上半は暗褐色土主体で、混入物の違いから2層に分層した。第3層は黄褐色ローム土主体である。人為的な堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

### 第C30号土坑(図61)

壁はほぼ垂直に立ち上がるが、南東壁と西壁は部分的に若干の袋状となる。底面はほぼ平坦である。堆積土は4層に分層した。褐色土主体層と黄褐色ローム土主体層が互層となる。前者には黄褐色ローム塊が多量に混入する。堆積土・混入物から人為的な堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

### 第C31号土坑(図61・69)

南東壁はほぼ垂直に立ち上がる部分があるが、それ以外は外傾して直線的に立ち上がる。底面は緩い凹凸があるものの、ほぼ平坦である。堆積土は2層に分層した。第1層は暗褐色土主体で、黄褐色ローム塊が多量に混入する。第2層は黄褐色ローム土主体である。堆積土・混入物から人為的な堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は第1層から円筒上層e式の土器片、敲きと凹みのある石器が、第2層から磨石1点、敲石2点、石皿片1点が出土した。時期は、出土土器から中期中葉に近い時期と考えられる。

### 第C32号土坑(図61)

底面は鍋底状で、壁は底面から緩く立ち上がる。堆積土は2層に分層した。第1層は黄褐色ローム粒・塊が少量混入する。第2層は黄褐色ローム土主体で、粒・塊状のブロックが密集したような堆積土である。堆積土・混入物から人為的な堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

### 第C33号土坑(図61・69)

壁は南側半分が外傾して、北側半分がほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。堆積土は5層に分層した。第3～5層は黄褐色ローム土主体である。第4層は純粋なローム層と言えるほどで、他の2層も若干の混入物がある程度である。第2層は褐色土主体で、黄褐色ローム粒・塊が多量に混入する。第1層は黒褐色土主体でローム粒・炭化物が少量混入する。第2層以下は堆積土・混入物から人為的な堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は三角形土製品が1点出土した。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

### 第C34号土坑(図34)

壁は底面から緩く外傾し直線的に立ち上がる。底面は平坦で、北側に向かって低くなる。堆積土は2層に分層した。暗褐色から褐色土主体で、いずれもローム粒・炭化物が中から少量混入する。堆積

土・混入物から人為的な堆積の可能性が高いと考えられる。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。(小笠原)

#### 第C35号土坑(図61・69)

壁は北側は緩やかに立ち上がり、南東側は一部内側に傾いている。他はほぼ垂直に立ち上がっている。底面は凹凸がみられる。堆積土は3層に分層した。第1・2層は褐色土主体で、焼土や炭化物が少量見られる。第1層は第2層を掘り込むような形で堆積している。第3層はローム主体である。混入物と堆積状況から人為堆積と考えられる。遺物は堆積土中から円筒上層式の土器片が出土した。時期は中期前半と考えられる。(小山内)

#### 第C38号土坑(図61)

壁はほぼ垂直ないしやや外傾して直線的に立ち上がる。底面は平坦である。堆積土は3層に分層した。黒褐色土が主体で、いずれの層にもローム粒が微～少量混入する。自然堆積の可能性が高いものと思われる。遺物は出土しなかった。

#### 第C39号土坑(図62)

北壁と東壁はやや袋状に掘り込まれ、内傾しながら立ち上がり、西・南壁も若干袋状であるが、ほぼ垂直に立ち上がる。底は平坦である。堆積土は3層に分層した。黒色土主体で、第1層にはローム粒が中量、第3層には多量に混入する。混入物から人為堆積の可能性が高いと思われる。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

#### 第C40号土坑(図62・69・70)

壁は北半では緩く外傾して立ち上がり、南半では壁中位以下が袋状となる。底は平坦で堅緻である。堆積土は8層に分層した。全体に黒～黒褐色土が主体で、ローム粒が少～中量混入する。壁際の第5・6層にはロームブロックが多量に混入し、壁の崩落土と考えられる。また、上位の第1～3層には炭化物も少量含まれる。混入物の状況から、人為堆積の可能性が高いものと思われる。土器は第3層から円筒上層d・e式の土器片が出土した。石器は第3層及び覆土上位から片面調整の削器各1点、第2層から剥片1点が出土した。中期中葉に近い時期と考えられる。

#### 第C41号土坑(図62・70)

壁は全体にやや外傾して直線的に立ち上がる。底は平坦で堅緻である。堆積土は5層に分層した。全体に黒～黒褐色土が主体で、粒状・ブロック状のローム質土が多量に混入する。第3・4層はローム主体ないし多量に混入しており、ロームの廃棄または壁の崩落土と考えられる。混入物の状況から、人為堆積の可能性が高いものと思われる。遺物は底面直上から円筒上層e式から榎林式の土器片と欠損した北海道式石冠を敲石として使用したもの1点、ミニチュア土器1点が出土した。時期は中期中葉から後葉と考えられる。

#### 第C42号土坑 (図62)

壁は外傾しながら立ち上がる。底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層した。黒褐色土が主体で、ローム粒が微量混入する。自然堆積か人為堆積かは判断できない。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

#### 第C43号土坑 (図62)

壁は緩く外傾しながら立ち上がる。底面はやや凹凸がある。堆積土は黒褐色土が主体で、ロームが多量に混入する。自然堆積か人為堆積かは判断しにくい。混入物から後者の可能性が高いものと思われる。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

#### 第C44号土坑 (図62)

壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。堆積土は第C43号土坑とよく似た状況を示し、黒褐色土が主体でロームが多量に混入する。自然堆積か人為堆積かは判断しにくい。混入物から後者の可能性が高いものと思われる。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

#### 第C45号土坑 (図62)

確認面から非常に浅いため、壁の状況は不明な点が多い。底は東側にやや凹凸が見られ、北側に向かって弱く傾斜し低くなる。堆積土は黒褐色土が主体でロームが多量に混入する。自然堆積か人為堆積かは判断できない。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

#### 第C46号土坑 (図62)

壁は緩く外傾して立ち上がる。底は平坦である。堆積土は黒褐色土が主体で、ローム粒が少量混入する。自然堆積か人為堆積かは判断できない。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

#### 第C47号土坑 (図62・70)

壁は底面から中位にかけては外傾して直線的に、それよりも上部は段がつくように強く外傾し屈曲しながら立ち上がる。底面は平坦で堅緻である。堆積土は4層に分層した。上位の第1・2層は黒～黒褐色土が主体で、下位の第3・4層はローム質土主体ないしは混入度が大きい。堆積土下位は人為的、上位は自然的な堆積状況であると考えられる。遺物は堆積土中から榎林式期前後の土器片が出土した。時期は中期後葉と考えられる。

#### 第C48号土坑 (図63・70)

壁は直線的に外傾して立ち上がるが、南壁は中位から底面にかけて垂直ないしはやや袋状に掘り込

まれ、中位以上は屈曲しながら外傾して立ち上がる。底は平坦で堅緻である。堆積土は6層に分層した。第6層はローム質土主体で、壁の崩落土の可能性が高い。また第3層のローム大塊も崩落土または何らかの作用による一括での混入と思われる。それ以外は黒褐色土が主体で、自然堆積の可能性が高いものと思われる。遺物は、第1層から円筒上層d又はe式の土器片や敲石1点が出土した。時期は中期中葉に近い時期と考えられる。

#### 第C49号土坑（図63）

壁は外傾して立つ部分とほぼ垂直に立ち上がる部分があり、一定しない。底はやや凹凸がある。堆積土は3層に分層した。褐色土が主体で、ローム粒が少量混入する。人為堆積の可能性が高いものと思われる。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

#### 第C50号土坑（図63）

壁は中位にかけて屈曲しながら立ち上がる。底面は平坦で堅緻である。堆積土は3層に分層した。全体として暗褐色土が主体で、第1・2層にはローム粒が多量に混入する。混入物の状況から人為的な堆積状況であると考えられる。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

#### 第C51号土坑（図63）

壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は堅緻である。堆積土は2層に分層した。第2層は黄褐色土が主体で、第1層はローム粒を含む褐色土である。混入物の状況から人為的な堆積状況であると考えられる。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

#### 第C52号土坑（図63）

壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は堅緻である。堆積土は3層に分層した。第2層は粒状のロームと黒褐色との混合土で、人為堆積と思われる。第1層はローム粒を含む黒色土で、堆積状況は自然か人為か判断できない。遺物は出土しなかった。遺構の形態・分布から縄文時代中期のものと考えられるが、明確な時期は不明である。

#### 第C53号土坑（図63・70）

壁は底面際でやや袋状に掘り込まれる部分もある。底面は平坦である。堆積土は5層に分層した。第3層以下はローム粒・塊が多量に混入ないし主体となり人為堆積と思われる。第1・2層は黒褐色土で、混入物も少なく、自然堆積と考えられる。遺物は第1層から最花式土器の口縁部片や地文のみの胴部片が出土した。中期後葉を中心とした時期と考えられる。

（小笠原）



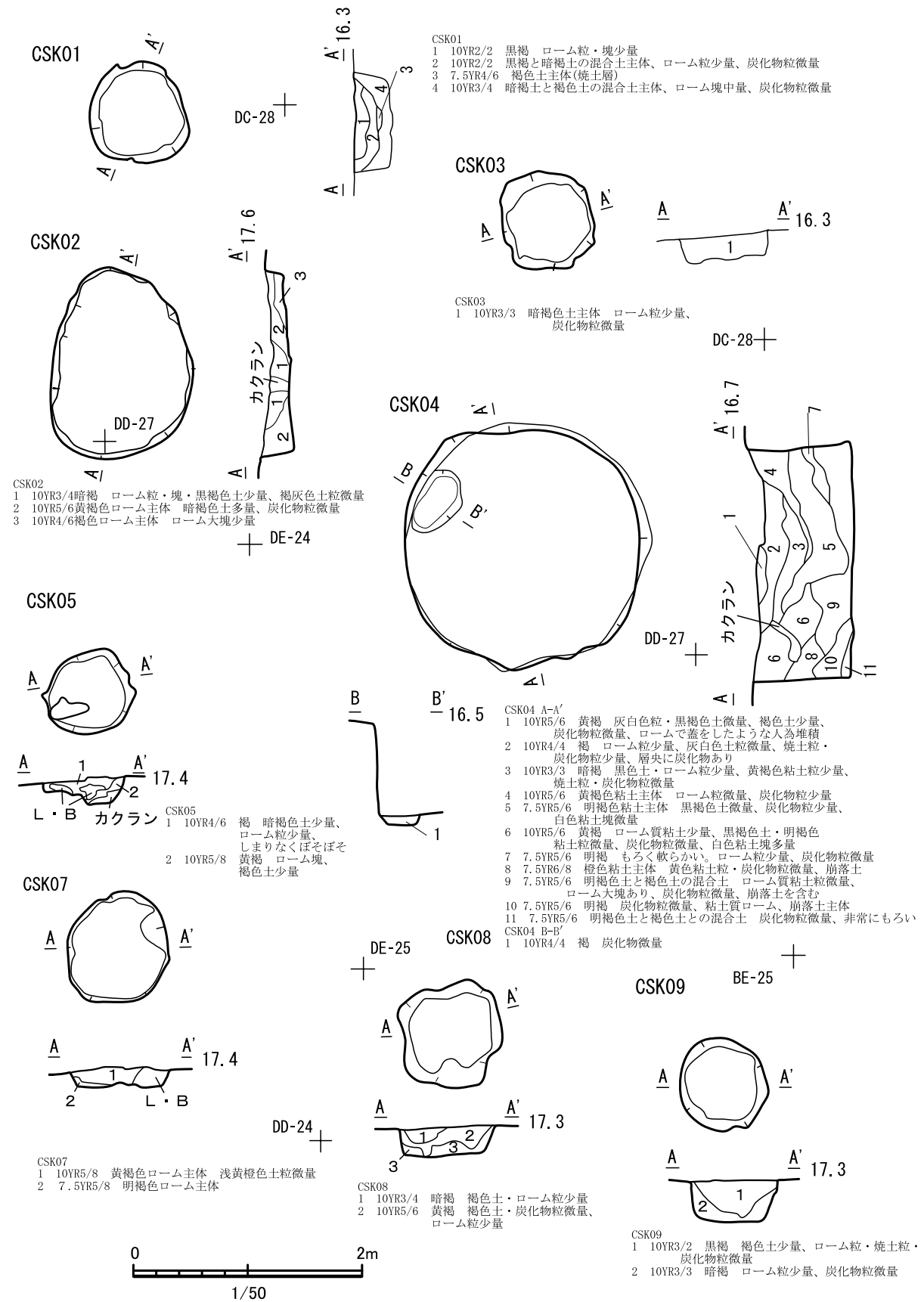


図58 C区土坑(1)

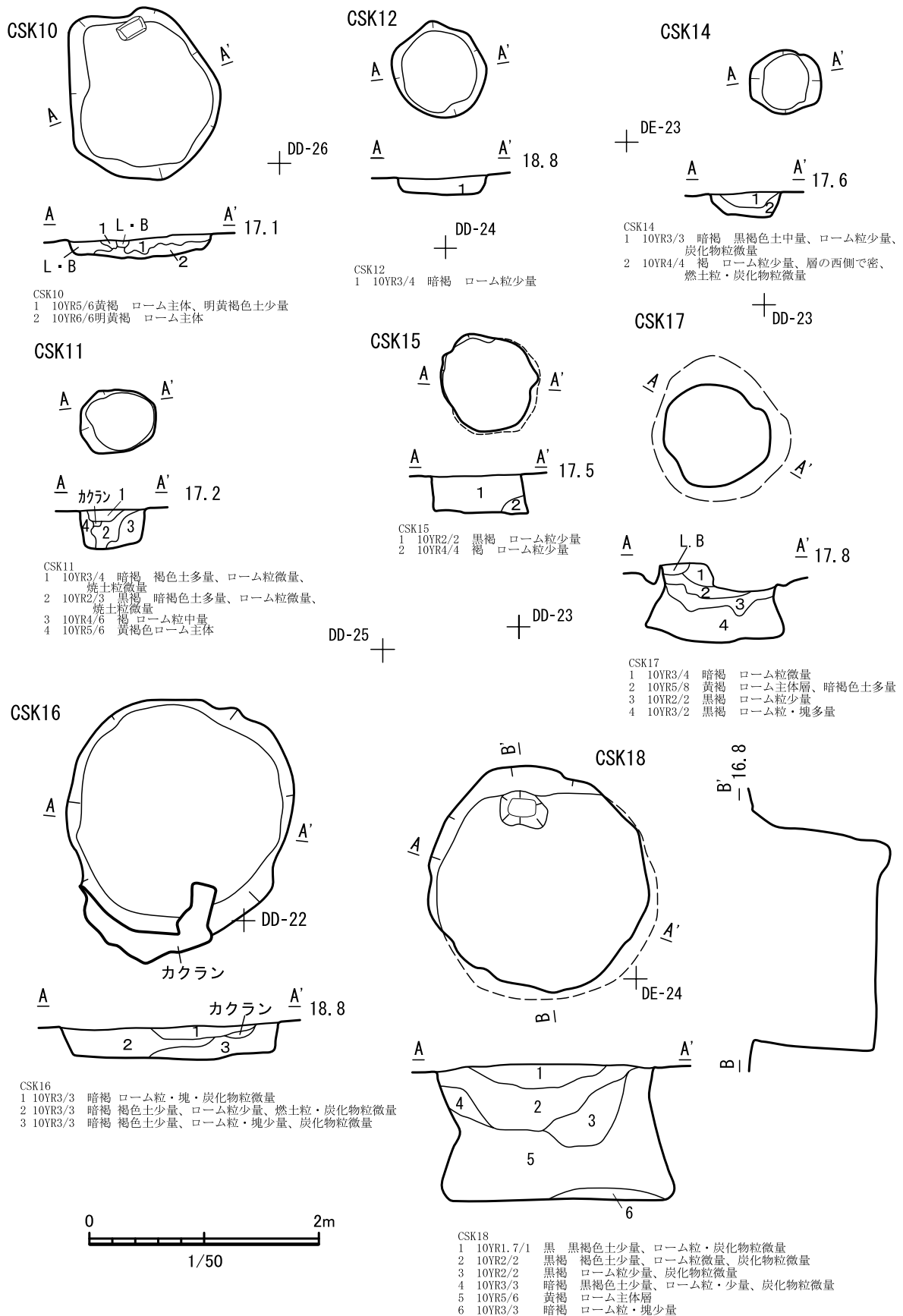


図59 C区土坑(2)

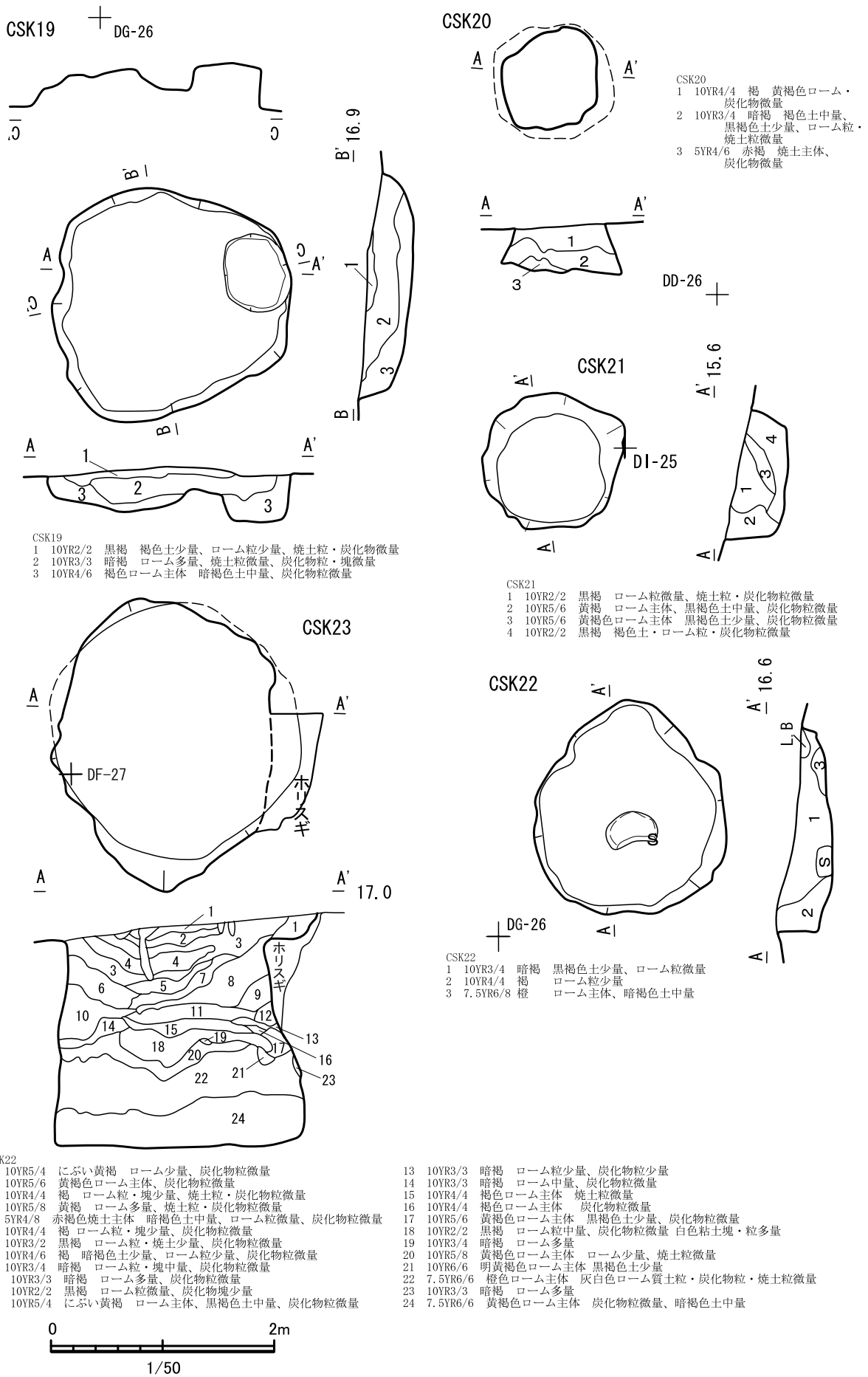


図60 C区土坑(3)

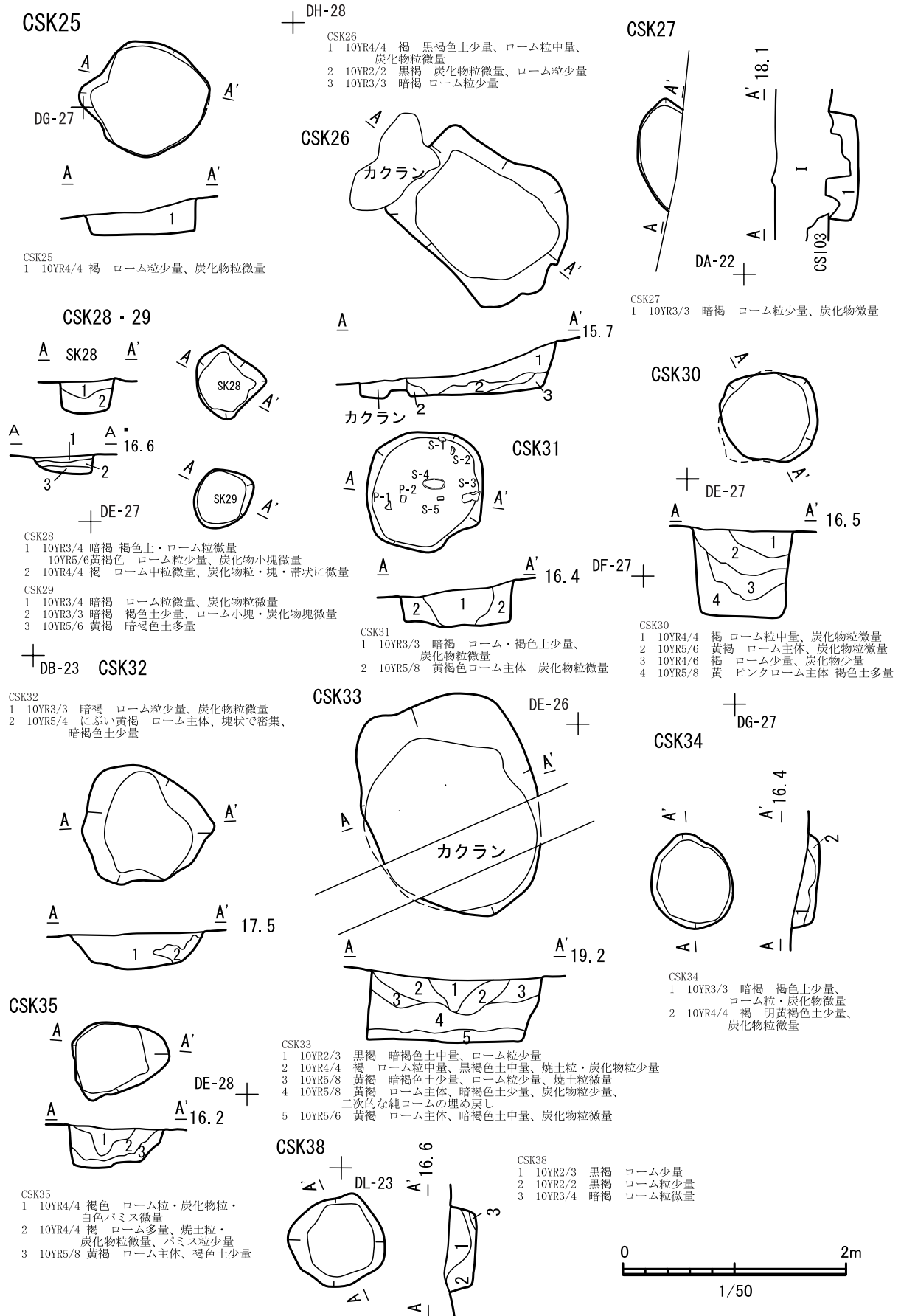


図61 C区土坑(4)

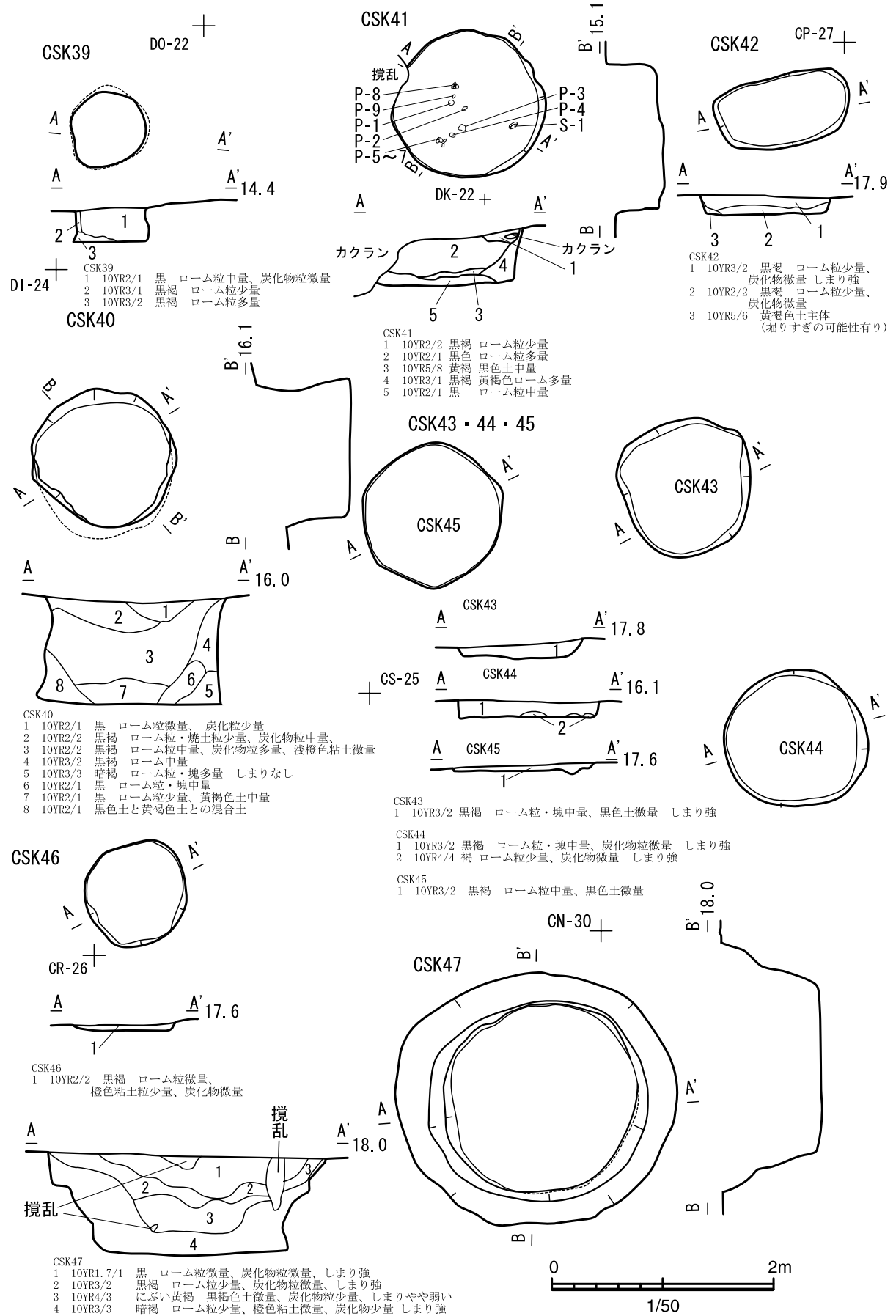


図62 C区土坑(5)

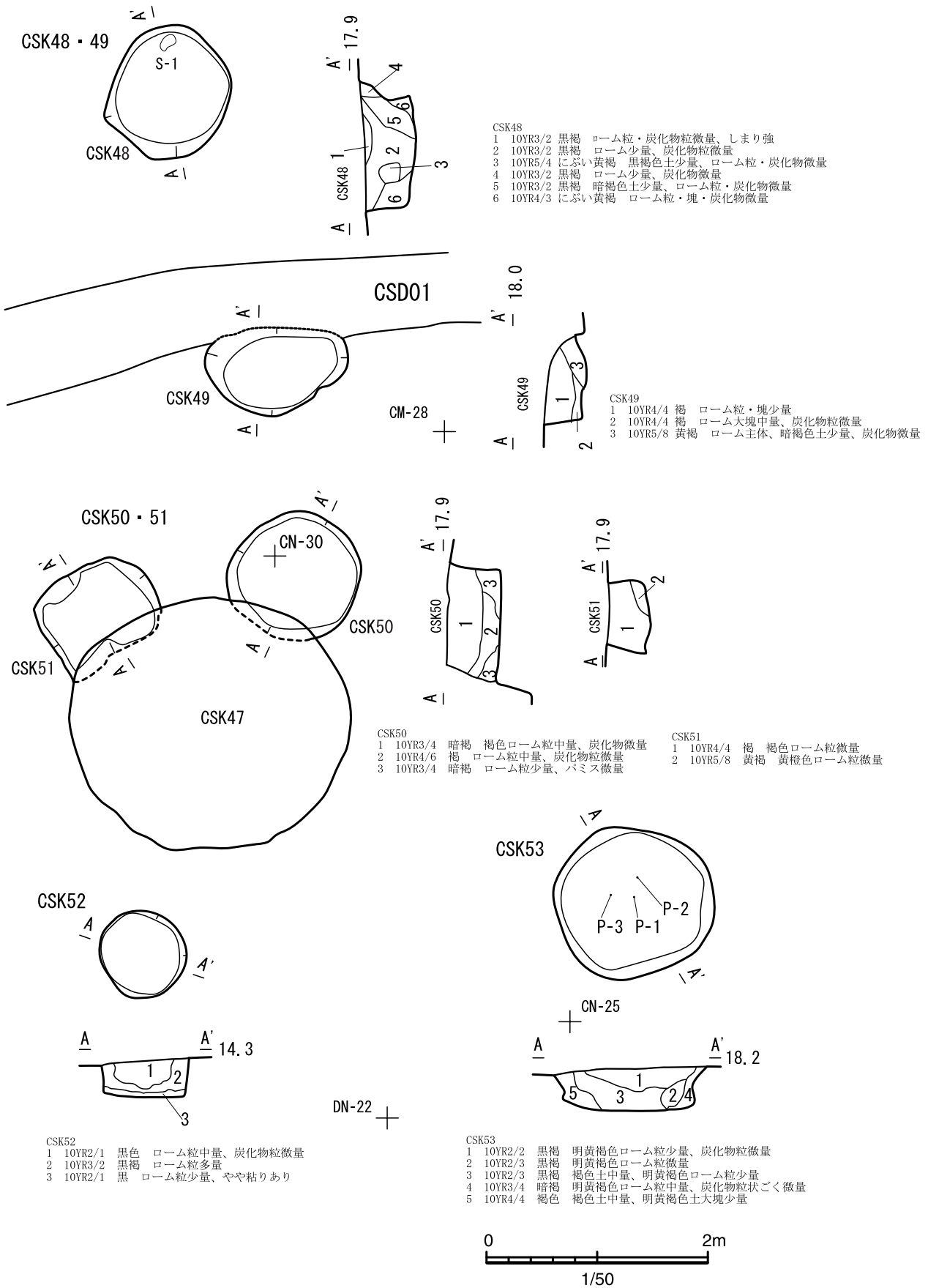


図63 C区土坑(6)

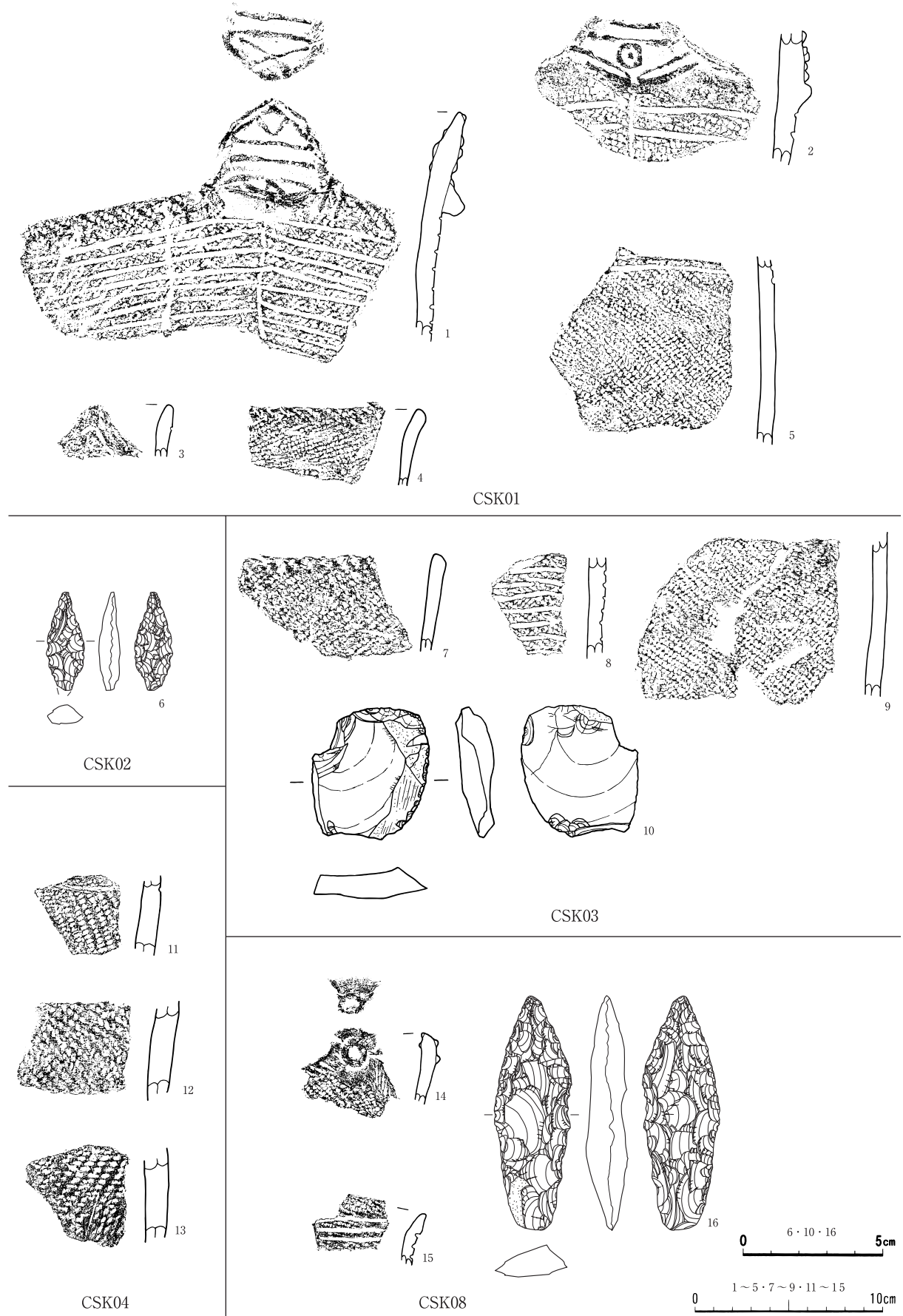


图64 C区土坑出土遗物(1)

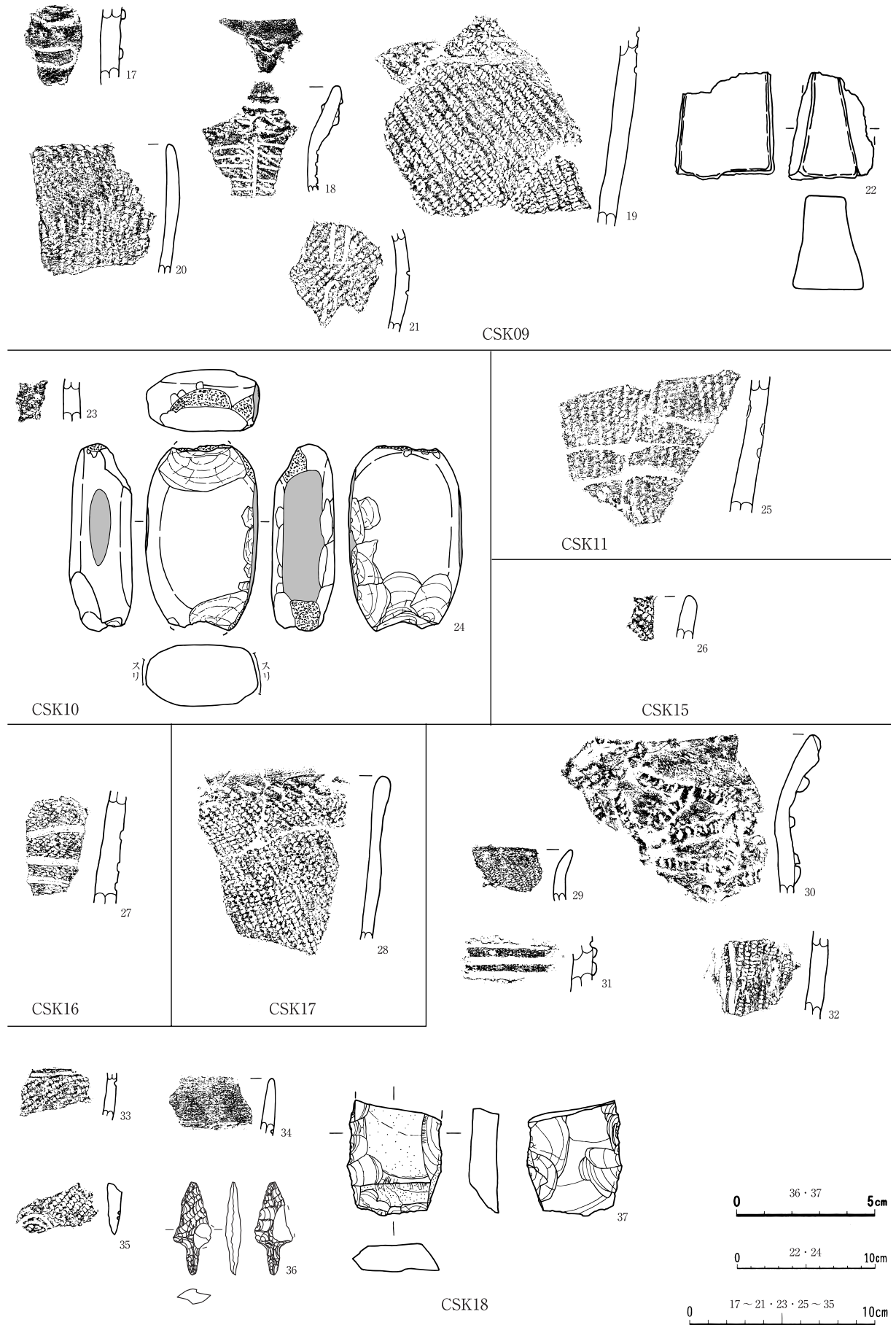


図65 C区土坑出土遺物(2)



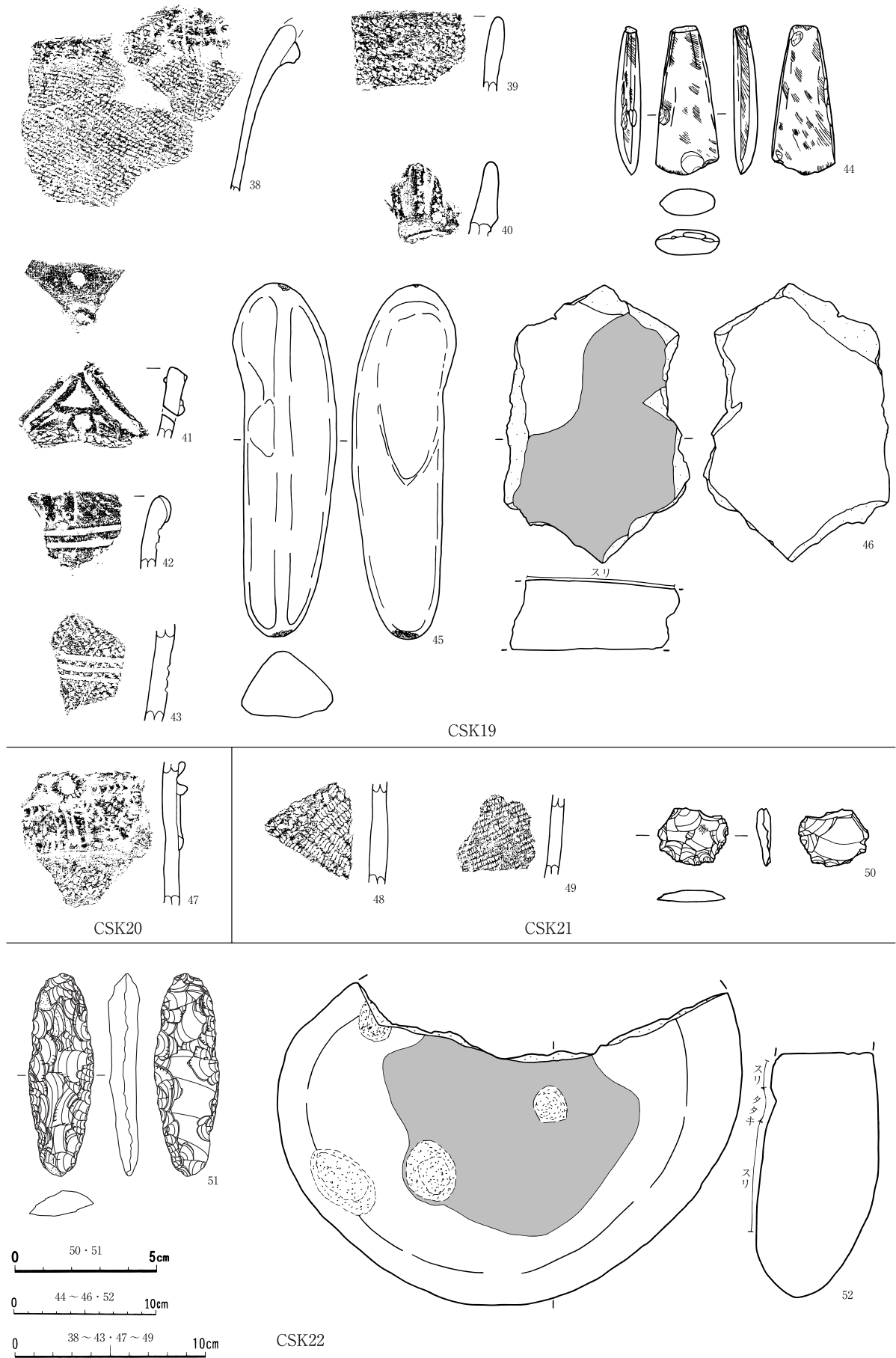


図66 C区土坑出土遺物(3)

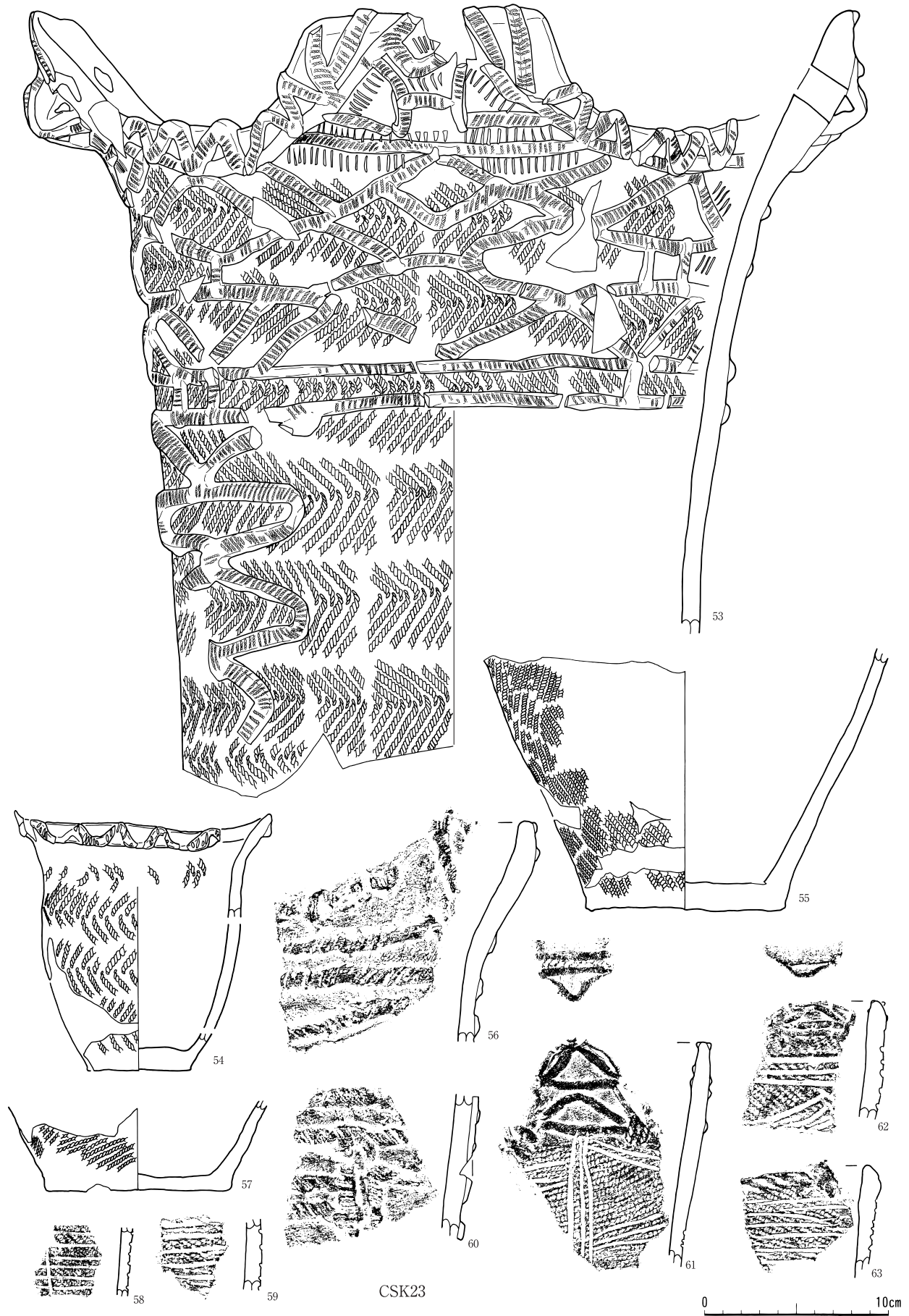


図67 C区土坑出土遺物(4)



CSK23

図68 C区土坑出土遺物(5)

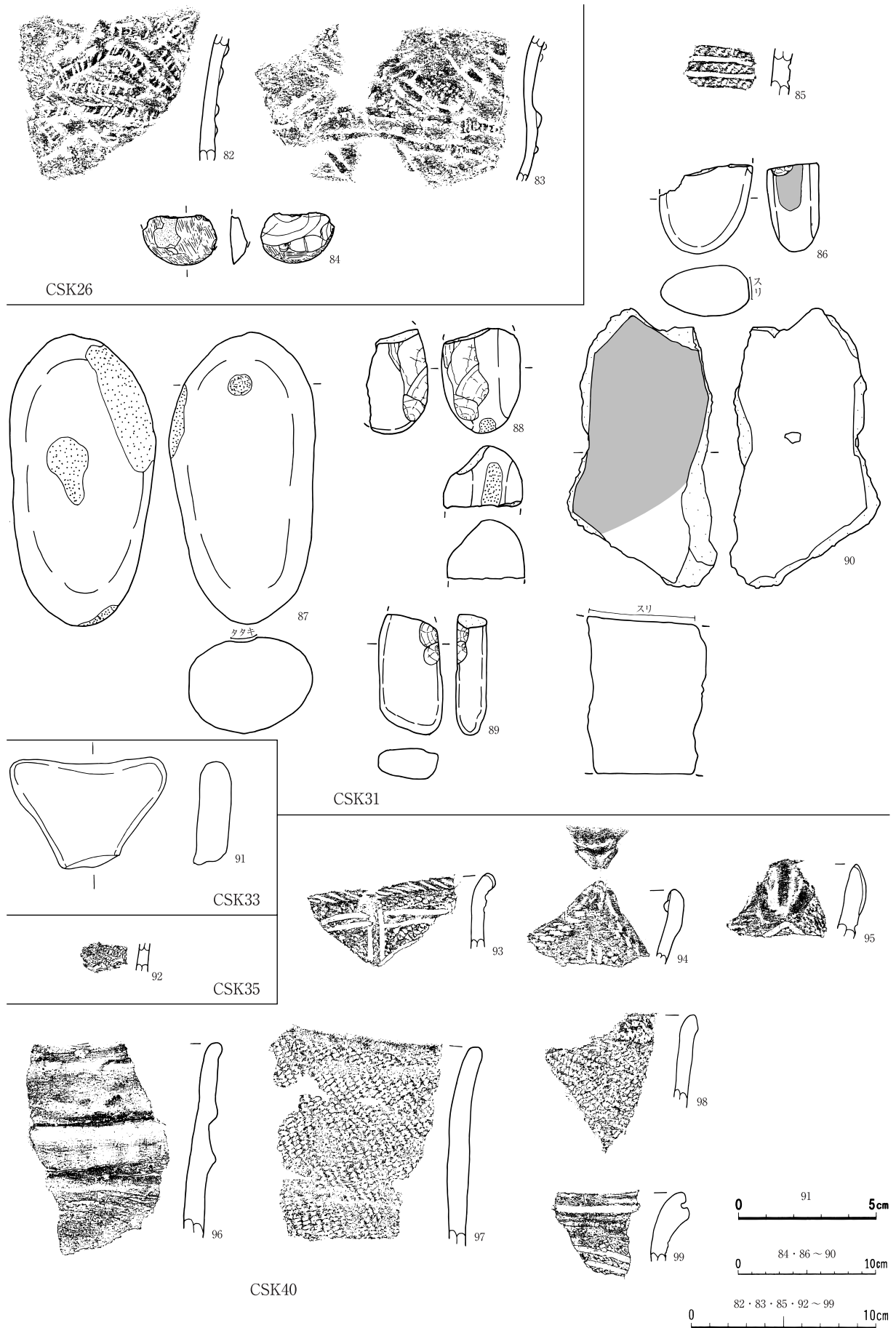


図69 C区土坑出土遺物(6)

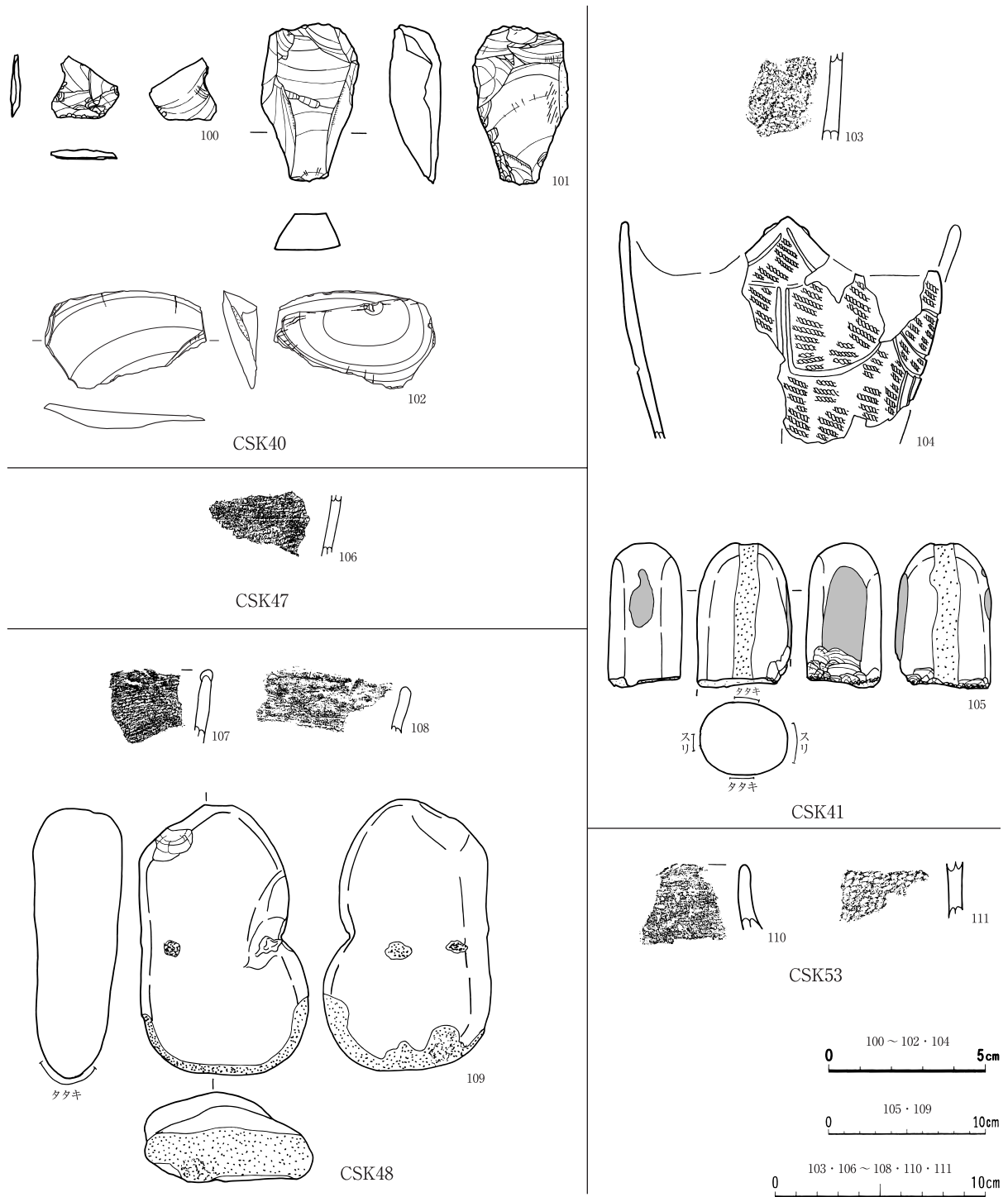


図70 C区土坑出土遺物(7)

4 土器埋設遺構

第C1号土器埋設遺構（図71）

[位置・確認] DC-25に位置する。第IV層上面で土器が円形に巡っているのを確認した。本遺構西側に第C1号竪穴住居跡がある。

[重複] なし。ただし、西側に攪乱が入る。

[埋設方法] 底部を欠失した土器が倒立状態で埋設されている。周辺が畑の耕作で全体に攪乱されており、本来的に底部を欠失していたかは判断できない。

[掘方形態・規模] 掘方は長軸34cm×短軸25cm、深さ17cmの不整楕円形で、土器よりも若干広く掘り込まれている。掘方底面は土器の径に合わせるような大きさである。

[堆積土] 第4層が掘方にあたり、黄褐色土主体で炭化物が微量混入。土器内の堆積土は、第1層が黄褐色土主体で炭化物が微量混入。第2層は褐色土主体。第3層は黄褐色ローム主体となり、下部中央には砂がブロック状に堆積する。

[出土遺物] 埋設された土器は円筒上層d式またはe式期のものである。

(小笠原)

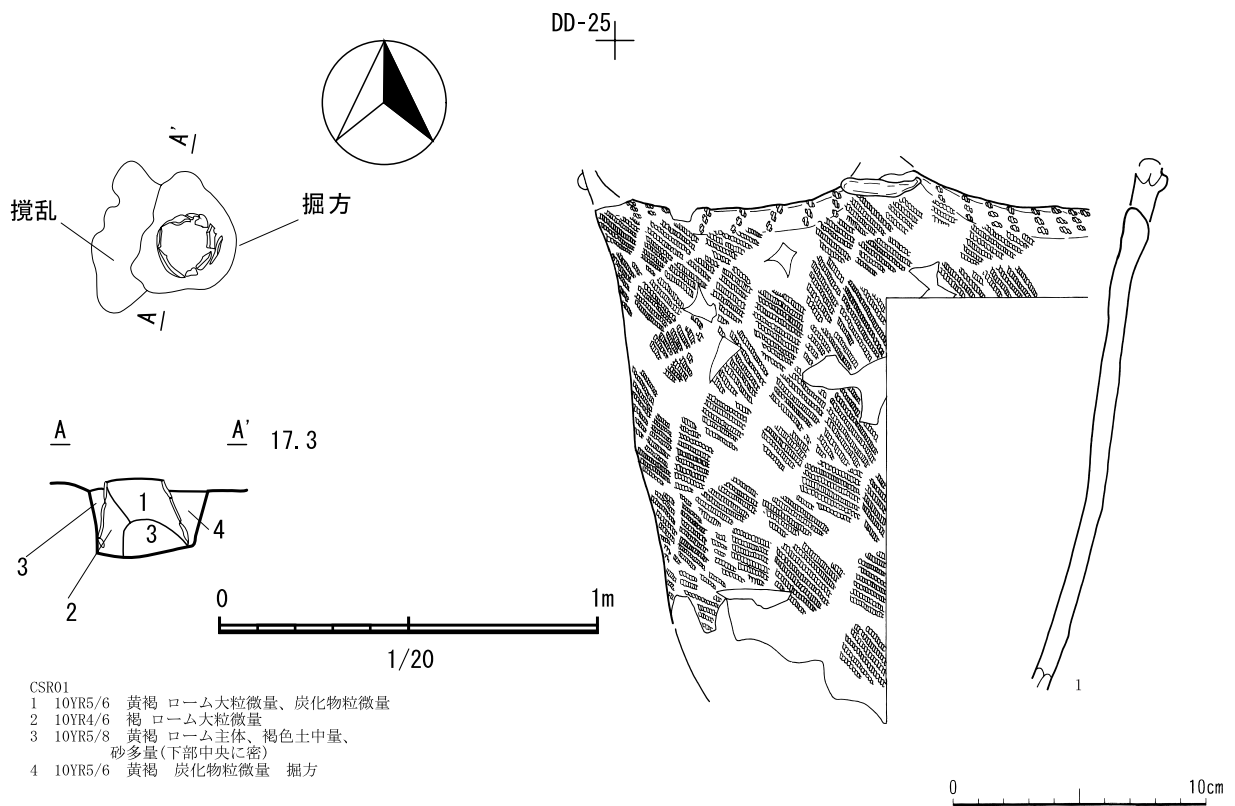


図71 第C1号土器埋設遺構・出土遺物

## 第2節 時期不明の検出遺構と出土遺物

### 1 性格不明遺構 (図72)

[位置と確認] DA-22に位置する。第Ⅳ層上面で確認した。

[重複] なし。ただし、北側が木の根により攪乱されている。

[形態・規模] 長軸250cm以上、短軸は凹凸があるが、90~105cmほどである。深さは約60cmである。

[壁・底面] 壁は直線的に立ち上がる部分が多いが、緩く外傾したり、垂直気味になるなど一定しない。底面はやや凹凸が見られる。

[堆積土] 2層に分層した。人為か自然か堆積状況は判断できない。

[出土遺物] 堆積土中から縄文時代中期の土器片、磨りの痕跡がある石皿片が1点出土した。しかし、本遺構が縄文時代のものであるか判断できなかったため、本節に含めた。 (小笠原)

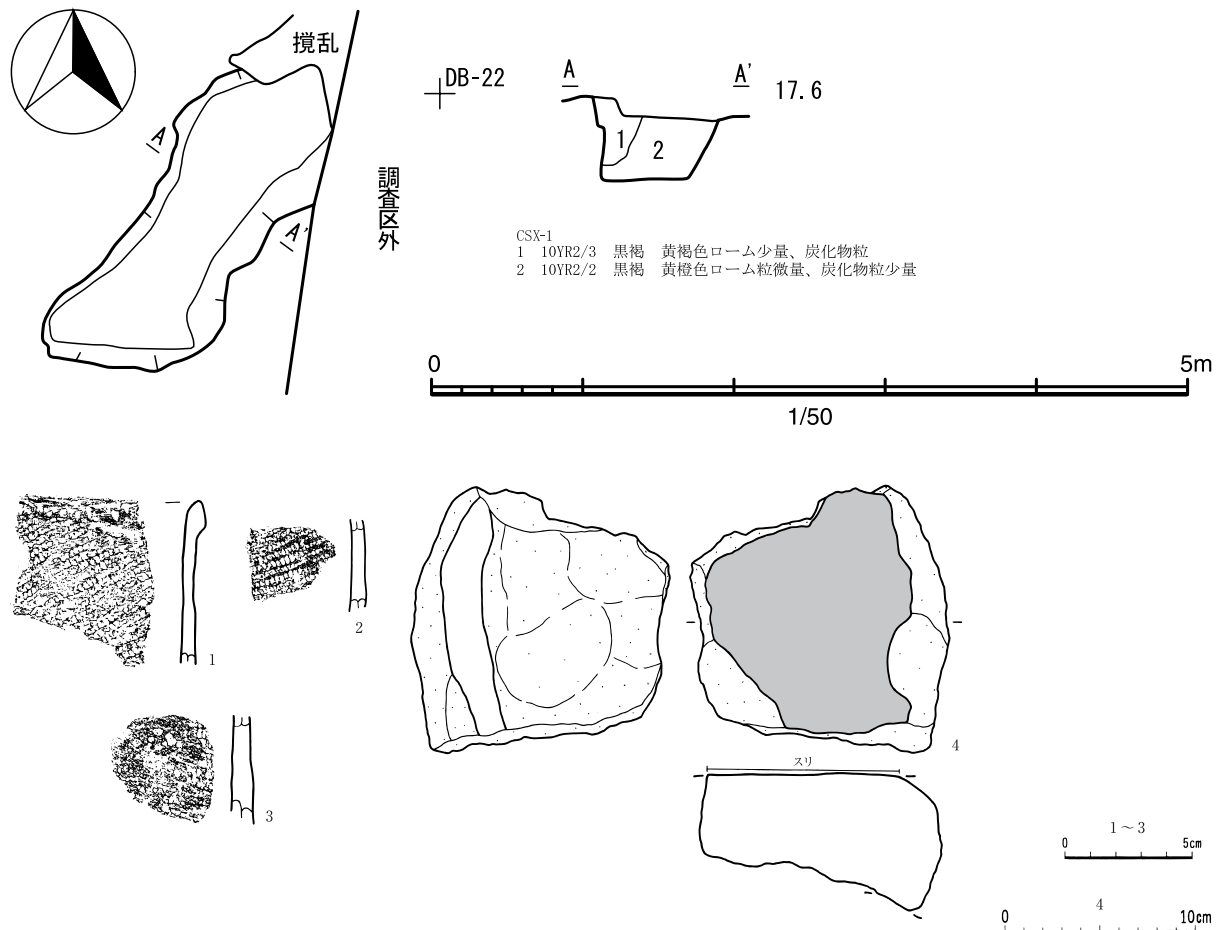


図72 C区性格不明遺構・出土遺物

## 2 溝跡

### 第C1号溝跡（図73）

[位置と確認] CL・M-22～30に位置する。第IV層上面で溝状の黒色土の落ち込みを確認した。

[重複] 第C49号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[形態・規模] 緩く屈曲しながら、東西に延びる。確認面上幅は68～111cmである。深さは20～42cmで、標高の低い西側ほど深い傾向にある。

[壁・底面] 壁は外傾しながら直線的に立ち上がる部分が大半である。底面は平坦で、壁にかけては逆台形状の形態である。また、底面から緩く立ち上がる部分も見られる。底面の高さは、西側ほど低くなっている。

[堆積土] 部分的に壁際で崩落によると見られるローム質土の堆積が確認された。堆積土で主体となるのは黒褐色土～暗褐色土で、粒状のロームがわずかに見られる。全体として、自然堆積の様相を示している。

[出土遺物] 堆積土から片面調整の削器1点が出土した。

### 第C2号溝跡（図74）

[位置と確認] CG～I-21～32に位置する。第IV層上面で複数の溝状の落ち込みを確認した。

[重複] 確認した複数の溝それぞれの重複関係にあるものもあるが、新旧関係をとらえることはできなかった。

[形態・規模] N-70°-Eに軸方向をもつものと、N-50°-Eに軸方向をもつものがある。前者が圧倒的に多い。単独で延びるものもあるが、密集している部分もある。後者は1条のみの検出である。その他に概ね東西方向に屈曲しながら延びるものも1条ある。確認面上幅は15～30cmである。深さは25cmにもなる部分もあるが、大部分は10～15cm前後である。標高の低い西側ほど深い傾向にある。

[壁・底面] 壁は外傾しながら直線的に立ち上がる部分が大半である。底面は平坦で、壁にかけては逆台形状の形態である。また、底面から緩く立ち上がる部分も見られる。底面の高さは、西側ほど低くなっている。

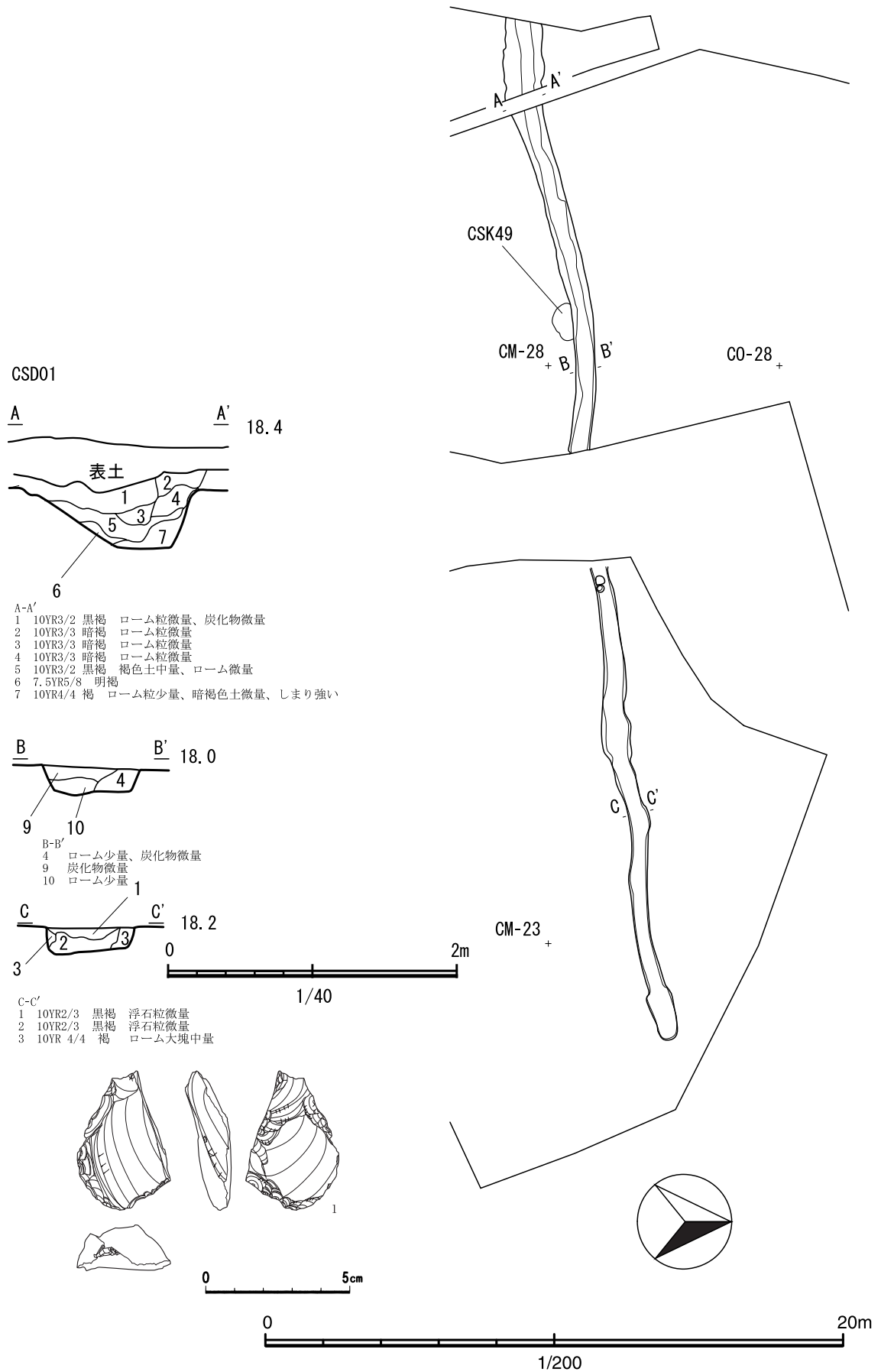
[堆積土] 褐～暗褐色土主体である。堆積土は締まりが非常に強いことで共通する。

[出土遺物] 出土遺物とは言い難いが、最北の溝跡の底面から礫が単独または連続して出土した。また、堆積土中から須恵器細片が1点出土した。

[小結] これらの溝跡は轍跡と考えられる。締まりの強い堆積土は、遺構の機能停止後に流入したのではなく、抉れた部分などへの修繕の土の可能性が高い。底面から出土する礫も、道路の機能を維持するためのものと考えられる。ほぼ平行して重複関係が不明確な状態で確認されるのも、それを裏付けているものと思われる。

（小笠原）





- A-A'
- 1 10YR3/2 黒褐 ローム粒微量、炭化物微量
  - 2 10YR3/3 暗褐 ローム粒微量
  - 3 10YR3/3 暗褐 ローム粒微量
  - 4 10YR3/3 暗褐 ローム粒微量
  - 5 10YR3/2 黒褐 褐色土中量、ローム微量
  - 6 7.5YR5/8 明褐
  - 7 10YR4/4 褐 ローム粒少量、暗褐色土微量、しまり強い

- B-B'
- 4 ローム少量、炭化物微量
  - 9 炭化物微量
  - 10 ローム少量

- C-C'
- 1 10YR2/3 黒褐 浮石粒微量
  - 2 10YR2/3 黒褐 浮石粒微量
  - 3 10YR 4/4 褐 ローム大塊中量

図73 第C1号溝跡・出土遺物

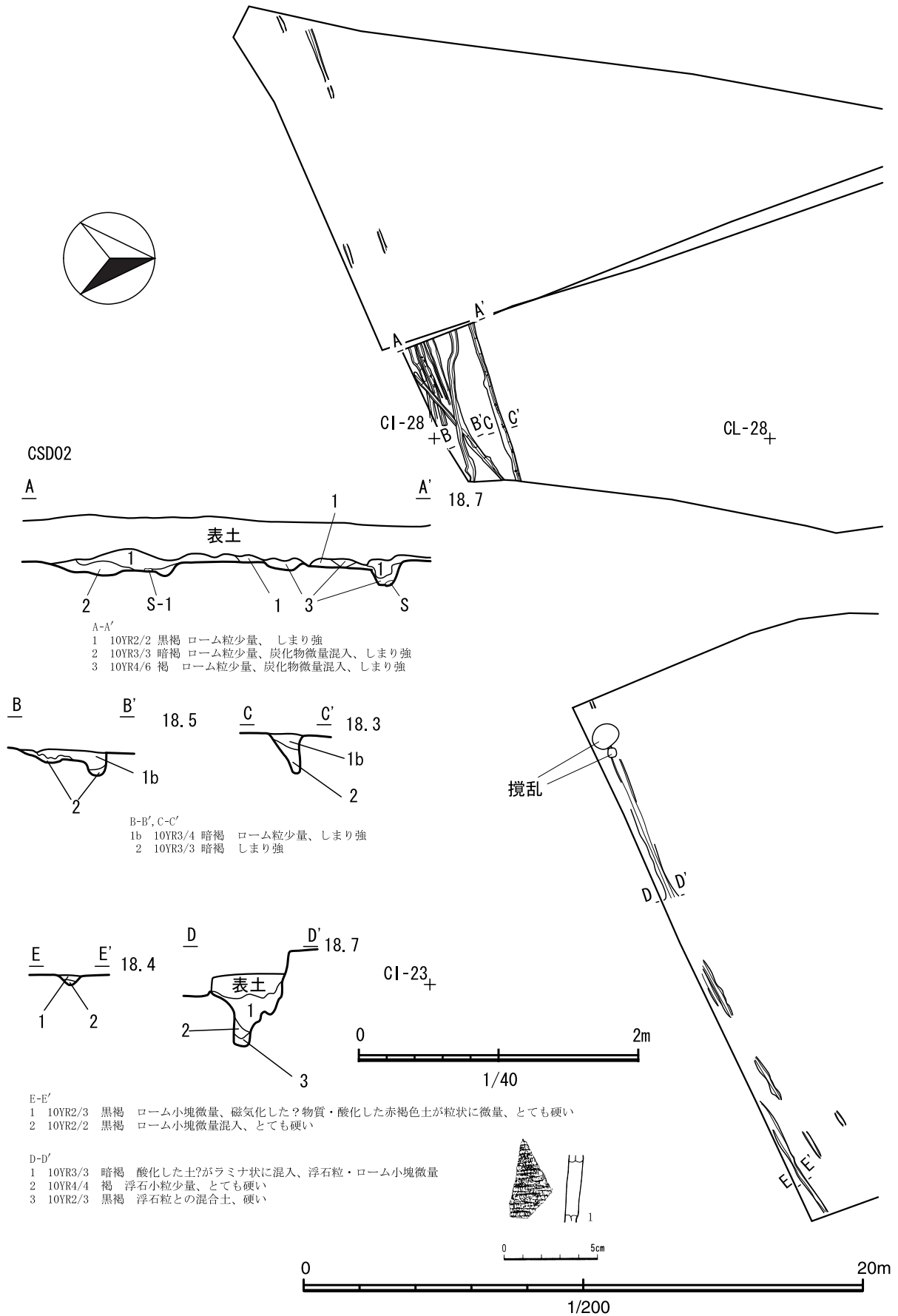


図74 第C2号溝跡・出土遺物

### 第3節 遺構外の出土遺物

#### 1 土器

##### 縄文時代

縄文時代前期に位置づけられるもの(図75-1)

1は絡条体回転が施文された円筒下層b式の口縁部片である。

縄文時代中期に位置づけられるもの(図75-2～図76-44)

2～18は中期前半代の円筒上層式土器、25～44は中期後半代の大木式系土器である。19～24はその間の過渡的・折衷的な土器である。8～13は円筒上層e式、25～29は榎林式、32～42は最花式に位置づけられるものと考えられる。31は大振りな弧状文と縦位の沈線による文様構成と思われる、榎林式の範疇のものであるが、より最花式に近いものと考えられる。

縄文時代後期に位置づけられるもの(図76-45・46)

量的には非常に少ない。45は沈線で平行に、46は櫛歯状の工具でカギ状に施文された十腰内I式である。

縄文時代晩期に位置づけられるもの(図76-49)

49は深鉢形で、胴部上半に平行沈線が施文された大洞A式である。

弥生時代(図76-50・51)

50・51は胴部片で、50は縦走、51は上部が横走、下部が縦走する帯縄文が観察される。

#### 2 土製品(図76-52)

52は三角形土製品である。図の上辺は挟りがやや深く、それに対し下二辺は直線状に作出されている。二等辺三角形を意識したものと考えられる。断面は屈曲がほとんどなく、他の類例などと比較しても直線的な作りである。中央には径15mm、深さ3mmほどの円形の挟りがある。なお、図左上の楕円形状の挟りは、欠損した痕跡である。(小笠原)

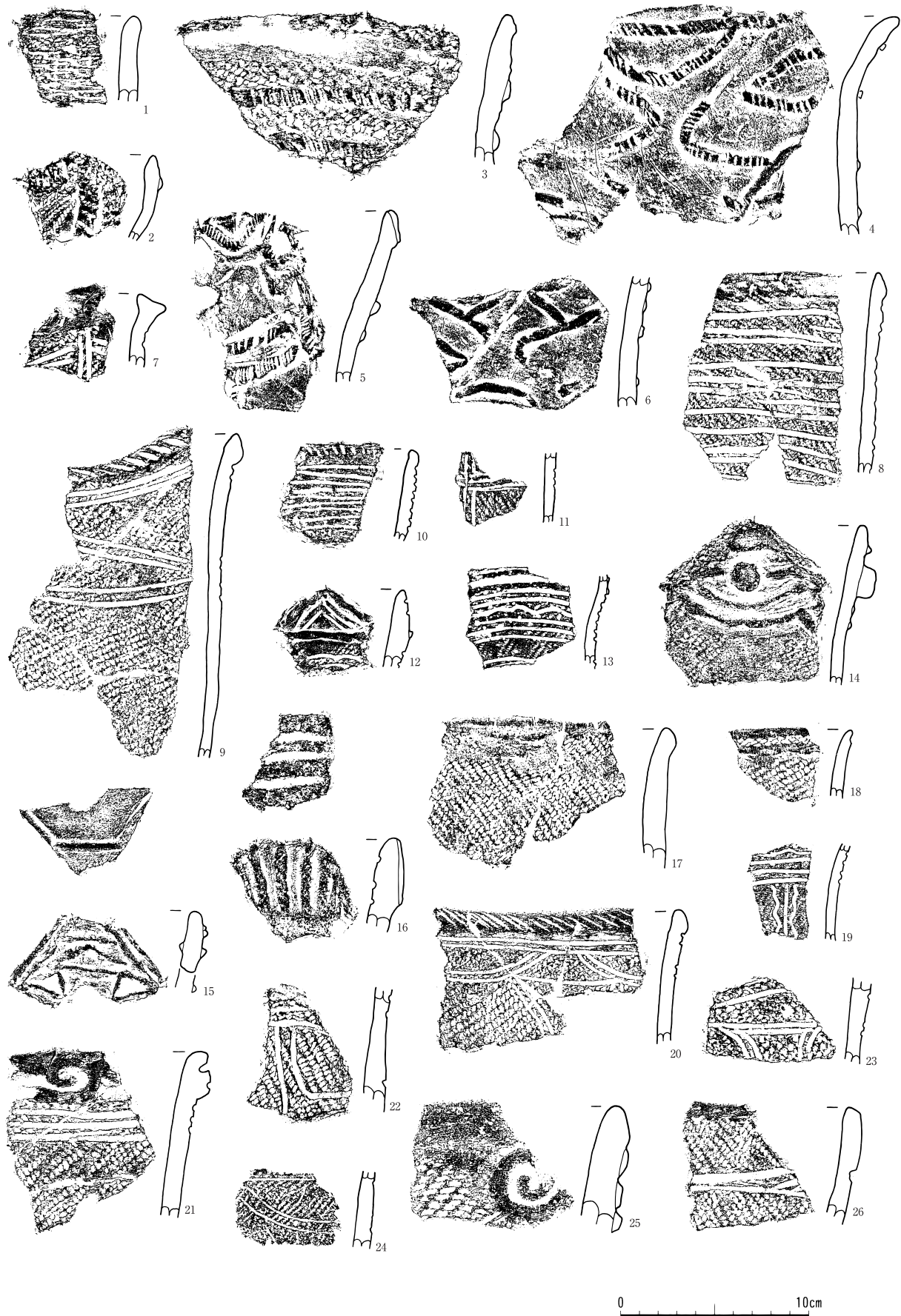


図75 C区遺構外出土土器(1)

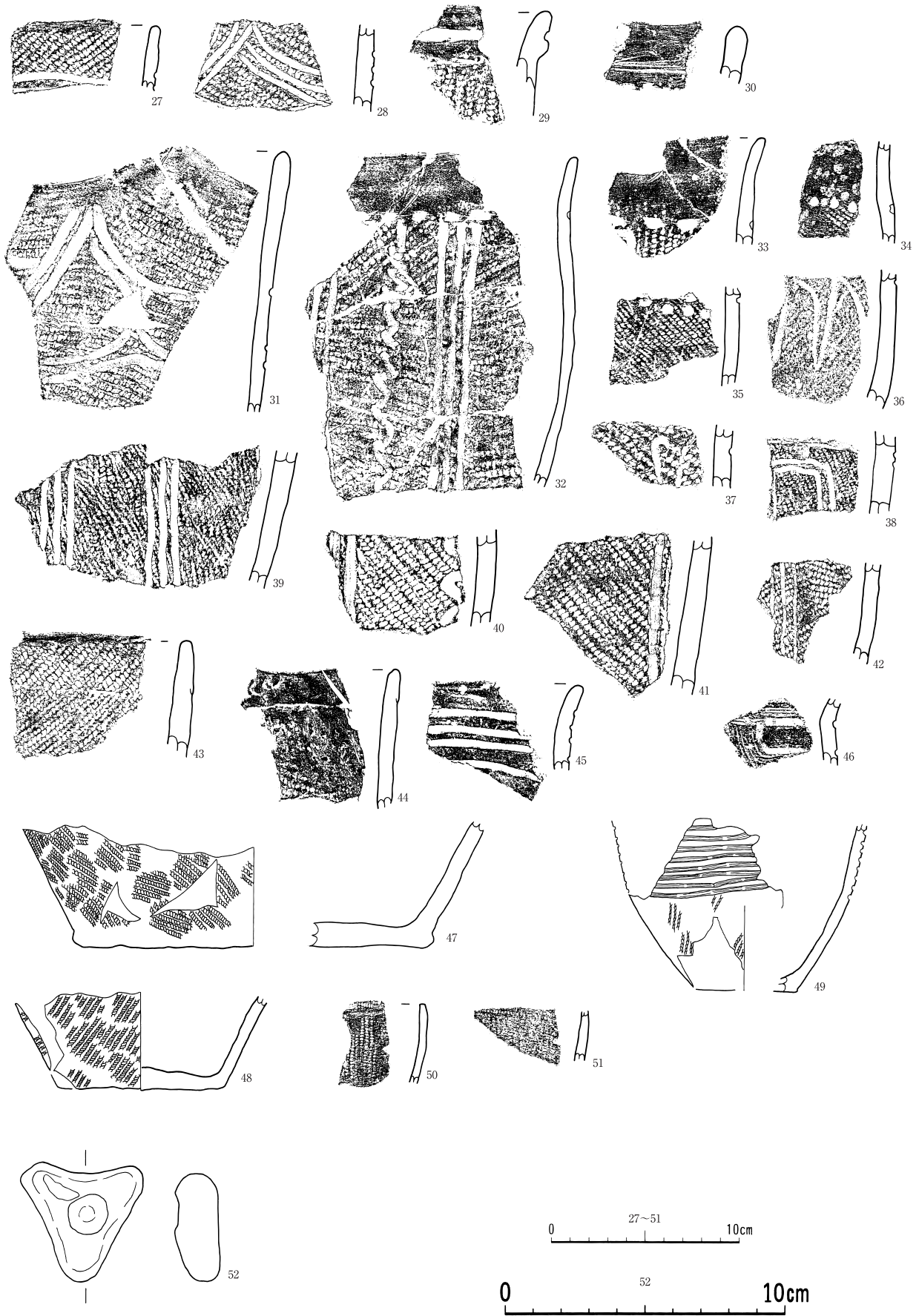


图76 C区遺構外出土土器(2)・土製品

### 3. 石器

C区遺構外からは剥片石器類24点、礫石器類39点が出土し、そのうち剥片石器20点、礫石25点を掲載した。

#### 剥片石器（図77・78）

剥片石器類は合計24点出土した。その内訳は、石鏃6点(25.00%)、石槍1点(4.17%)、石匙1点(4.17%)、石篋2点(8.33%)、搔器2点(8.33%)、削器9点(37.50%)、石核1点(4.17%)、剥片・チップ類2点(8.33%)である。これらのうち、図示した石鏃、石槍、石匙、石篋、搔器、削器、石核の20点について記載する。

石鏃は6点が出土し、尖基のもの(1)、茎部の明瞭でないもの(2)、有茎のもの(3～6)がある。6の茎部にはアスファルトが付着している。石槍の未製品(7)、石匙(8)、石篋は未製品(9)と刃部の断片と思われるもの(10)が出土した。

11は湾曲して急角度の刃部を有する搔器で、12～19は直線的な刃部を有する削器である。削器は、刃部調整の手法によって、Ⅰ類：両面調整のもの(12・13)、Ⅱ類：片面調整のもの(14～18)、Ⅲ類：微細な使用痕剥離が認められたもの(19)の3類に細分した。18は刃部裏面に使用による光沢が認められ、上部は石錐としても使用された可能性がある。20は石核である。

#### 礫石器（図78・79）

礫石器類は合計39点出土した。その内訳は、磨製石斧3点(7.69%)、北海道式石冠4点(10.26%)、磨石8点(20.51%)、敲石9点(23.08%)、凹石2点(5.13%)、石皿1点(2.56%)、擦痕のある礫1点(2.56%)、使用痕のない礫11点(28.21%)である。これらのうち、図示した磨製石斧、北海道式石冠、磨石、敲石、凹石、石皿、擦痕のある礫の25点について記載する。

21～23は磨製石斧であるが、いずれも破片資料である。

敲磨器の類は、主として24～27が北海道式石冠、28～35が磨石、35～41・44が敲石、37・42が凹石としたが、複数の機能を有する石器もある。

北海道式石冠は24～27で、25は平坦面の敲きが断続的で帯状に繋がっていない。26は断面形が平行四辺形の歪んだ形状をなしている。

磨石は、端部及び磨り面付近に加工が施されるもの(28)と、加工の施されないもの(29～35)とがある。29～31は断面形状が扁平もしくは楕円形の川原石を用いてその側縁部を磨り面としているが、32～34は断面形状が三角形の川原石を用い、鋭角な側縁部を磨り面としている。35は側縁部で敲打されており、剥落したものと思われる。

敲石は35～41・42・44で、使用痕跡の部位によってⅠ類：端部に敲打の痕跡があるもの(35～38)、Ⅱ類：平坦面もしくは側面に敲打の痕跡があるもの(39～41・42・44)があり、Ⅲ類：器体全体に敲打の痕跡があるものは本区で出土しなかった。Ⅰ類は棒状礫を用いるもの(35)と丸味のある礫を用いるもの(36・37)とがある。37は折れ面での敲打に加え、側縁部の敲打と平坦面の凹みもある。Ⅱ類には棒状礫を用いるもの(39)、塊状礫を用いるもの(40・41)、扁平礫を用いるもの(42・44)がある。

凹石は37・42で、42の平坦面には連続敲打で形成された凹みがあり、部分的に擦痕も認められる。

43は器面に磨り痕跡が認められる石皿で、45はわずかに擦痕があり、磨石の可能性もある。(神)



図77 C区遺構外出土石器(1)



図78 C区遺構外出土石器(2)



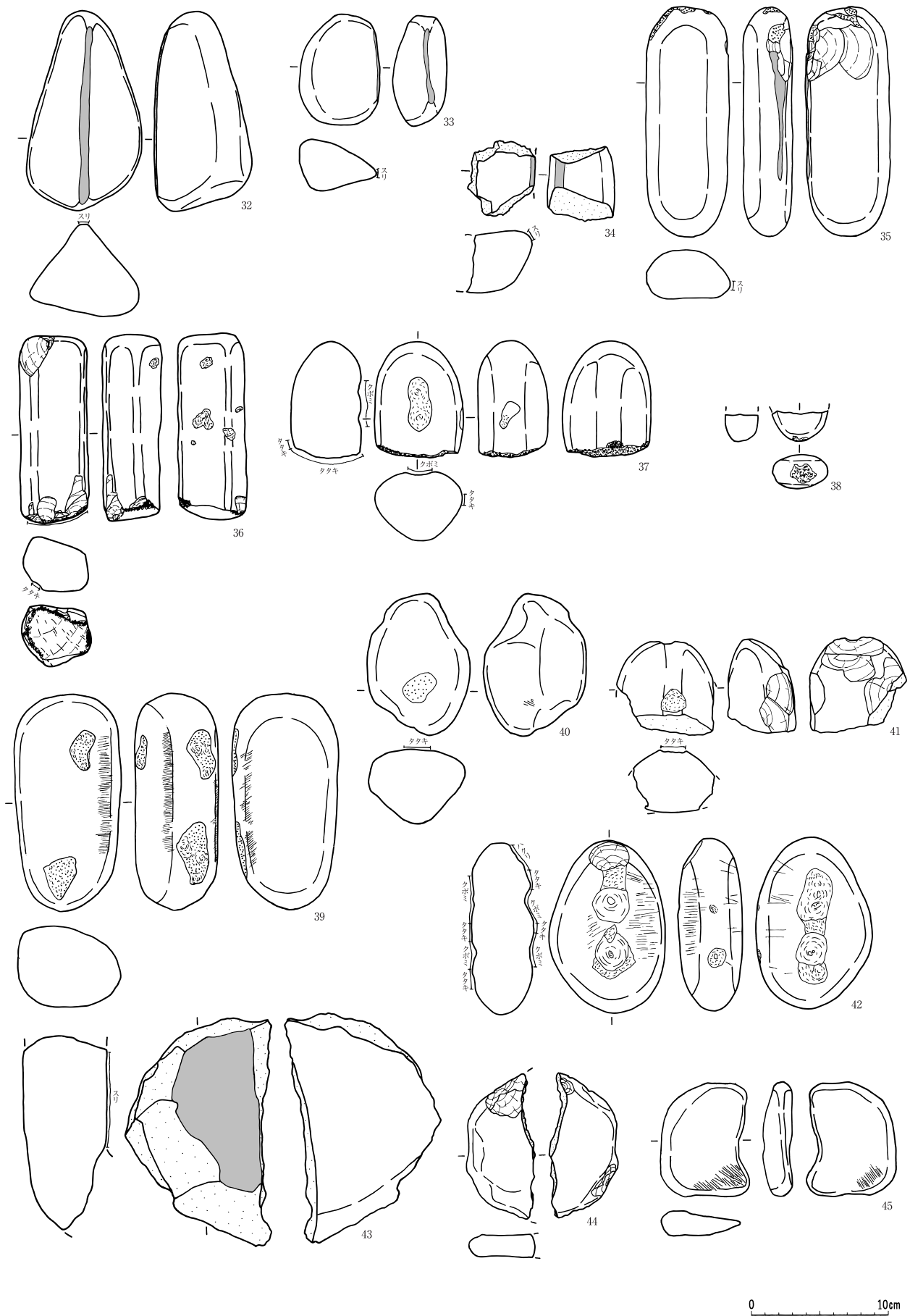


図79 C区遺構外出土石器(3)

## 第5章 自然科学分析

## 第1節-1 放射性炭素年代測定結果

青森県埋蔵文化財調査センター

様

No.1769

(株)地球科学研究所

件名: 放射性炭素年代測定

放射性炭素年代測定の依頼を受けました試料について、別表の結果を得ましたのでご報告申し上げます。

## 報告内容の説明

**未補正14C年代 (y BP)** : (同位体分別未補正) 14C年代 “measured radiocarbon age”  
試料の 14C / 12C 比から、単純に現在 (AD1950年) から何年前 (BP) かを計算した年代。

**14C年代 (y BP)** : (同位体分別補正) 14C年代 “conventional radiocarbon age”  
試料の炭素安定同位体比 ( 13C / 12C ) を測定して試料の炭素の同位体分別を知り 14C / 12C の測定値に補正值を加えた上で、算出した年代。  
試料の  $\delta^{13}C$  値を -25 (‰) に基準化することによって得られる年代値である。  
(Stuiver, M. and Polach, H.A. (1977) Discussion: Reporting of 14C data. Radiocarbon, 19 を参照のこと)  
暦年代を得る際にはこの年代値をもちいる。

**$\delta^{13}C$  (permil)** : 試料の測定 14C / 12C 比を補正するための 13C / 12C 比。  
この安定同位体比は、下式のように標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表現する。

$$\delta^{13}C (\text{‰}) = \frac{(13C/12C)_{\text{[試料]}} - (13C/12C)_{\text{[標準]}}}{(13C/12C)_{\text{[標準]}}} \times 1000$$

ここで、 $13C/12C$  [標準] = 0.0112372である。

**暦年代** : 過去の宇宙線強度の変動による大気中 14C 濃度の変動に対する補正により、暦年代を算出する。具体的には年代既知の樹木年輪の 14C の測定、サンゴの U-Th 年代と 14C 年代の比較により、補正曲線を作成し、暦年代を算出する。最新のデータベース (“INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration” Stuiver et al, 1998, Radiocarbon 40 (3)) により約 19000yBP までの換算が可能となった。\*

\*但し、10000yBP 以前のデータはまだ不完全であり今後も改善される可能性が高いので、補正前のデータの保管を推奨します。

“The calendar calibrations were calculated using the newest calibration data as published in Radiocarbon, Vol. 40, No. 3, 1998 using the cubic spline fit mathematics as published by Talma and Vogel, Radiocarbon, Vol. 35, No. 2, pg 317-322, 1993: A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates. Results are reported both as cal BC and cal BP. Note that calibration for samples beyond about 10,000 years is still very subjective. The calibration data beyond about 13,000 years is a “best fit” compilation of modeled data and, although an improvement on the accuracy of the radiocarbon date, should be considered illustrative. It is very likely that calibration data beyond 10,000 years will change in the future. Because of this, it is very important to quote the original BP dates and these references in your publications so that future refinements can be applied to your results.”

## 測定方法などに関するデータ

**測定方法 AMS** : 加速器質量分析

**Radiometric** : 液体シンチレーションカウンタによる  $\beta$ -線計数法

**処理・調製・その他** : 試料の前処理、調製などの情報

**前処理** acid-alkali-acid : 酸 - アルカリ - 酸洗浄  
acid washes : 酸洗浄  
acid etch : 酸によるエッチング  
none : 未処理

**調製、その他**

Bulk-Low Carbon Material : 低濃度有機物処理  
Bone Collagen Extraction : 骨、歯などのコラーゲン抽出  
Cellulose Extraction : 木材のセルロース抽出

Extended Counting : Radiometric による測定の際、測定時間を延長する

**分析機関** BETA ANALYTIC INC.

4985 SW 74 Court, Miami, FL, U.S.A 33155

## C14年代測定結果

青森県埋蔵文化財調査センター 様

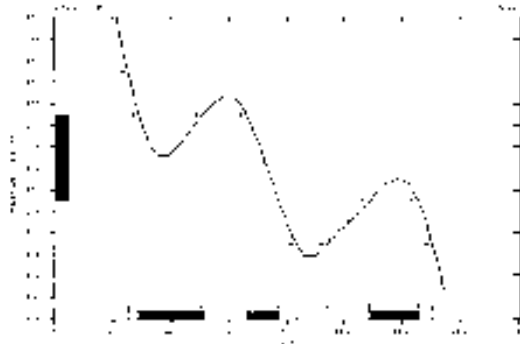
No.1769

試料データ	未補正14C年代(y BP) (measured radiocarbon age)	$\delta$ 13C(permil)	14C年代(y BP) (Conventional radiocarbon age)
Beta- 199674	4730 $\pm$ 40	-24.9	4730 $\pm$ 40
試料名 ( 26541) NO1-SA-W1 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など wood acid/alkali/acid			
Beta- 199675	2690 $\pm$ 40	-26.5	2670 $\pm$ 40
試料名 ( 26542) NO2-SB-CW2 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid			
Beta- 199676	3100 $\pm$ 40	-28.2	3050 $\pm$ 40
試料名 ( 26543) NO3-SB-W9 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など wood acid/alkali/acid			
Beta- 199677	2780 $\pm$ 40	-26.7	2750 $\pm$ 40
試料名 ( 26544) NO4-SB-W17 測定方法、期間 AMS-Standard 試料種、前処理など wood acid/alkali/acid			

年代値はRCYBP(1950 A.D.を0年とする)で表記。モダン リファレンス スタンドは国際的な慣例としてNBS Oxalic AcidのC14濃度の95%を使用し、半減期はリビーの5568年を使用した。エラーは1シグマ(68%確率)である。

**CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS**

Laboratory number: Beta-19676  
 Conventional radiocarbon age: 3790 ± 40 BP  
 Sample calibrated result: Cal BC 3640 to 3490 (1 σ) or 3540 to 3440 (2 σ) probability  
 Reservoir effect: none  
 Example intervals: none  
 Atmospheric correction: none  
 Marine reservoir effect: none  
 Sample type: none

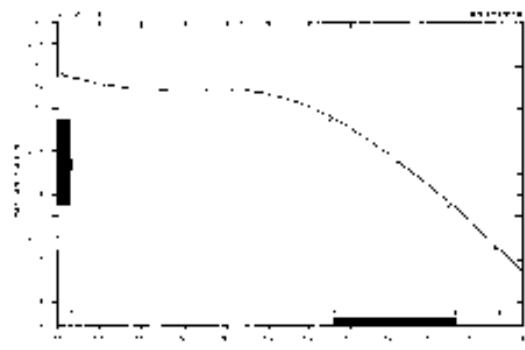


**Remarks:**  
 1. Sample ID: Beta-19676  
 2. Sample description: none  
 3. Sample location: none  
 4. Sample collection date: none  
 5. Sample preparation: none  
 6. Sample analysis: none  
 7. Sample storage: none  
 8. Sample handling: none  
 9. Sample disposal: none  
 10. Sample recovery: none

**Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory**

**CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS**

Laboratory number: Beta-19675  
 Conventional radiocarbon age: 3790 ± 40 BP  
 Sample calibrated result: Cal BC 3640 to 3490 (1 σ) or 3540 to 3440 (2 σ) probability  
 Reservoir effect: none  
 Example intervals: none  
 Atmospheric correction: none  
 Marine reservoir effect: none  
 Sample type: none

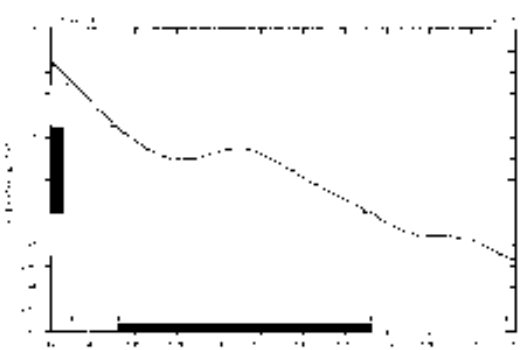


**Remarks:**  
 1. Sample ID: Beta-19675  
 2. Sample description: none  
 3. Sample location: none  
 4. Sample collection date: none  
 5. Sample preparation: none  
 6. Sample analysis: none  
 7. Sample storage: none  
 8. Sample handling: none  
 9. Sample disposal: none  
 10. Sample recovery: none

**Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory**

**CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS**

Laboratory number: Beta-19674  
 Conventional radiocarbon age: 3790 ± 40 BP  
 Sample calibrated result: Cal BC 3640 to 3490 (1 σ) or 3540 to 3440 (2 σ) probability  
 Reservoir effect: none  
 Example intervals: none  
 Atmospheric correction: none  
 Marine reservoir effect: none  
 Sample type: none

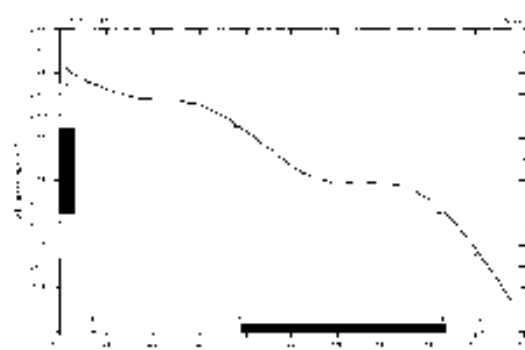


**Remarks:**  
 1. Sample ID: Beta-19674  
 2. Sample description: none  
 3. Sample location: none  
 4. Sample collection date: none  
 5. Sample preparation: none  
 6. Sample analysis: none  
 7. Sample storage: none  
 8. Sample handling: none  
 9. Sample disposal: none  
 10. Sample recovery: none

**Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory**

**CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS**

Laboratory number: Beta-19677  
 Conventional radiocarbon age: 3790 ± 40 BP  
 Sample calibrated result: Cal BC 3640 to 3490 (1 σ) or 3540 to 3440 (2 σ) probability  
 Reservoir effect: none  
 Example intervals: none  
 Atmospheric correction: none  
 Marine reservoir effect: none  
 Sample type: none



**Remarks:**  
 1. Sample ID: Beta-19677  
 2. Sample description: none  
 3. Sample location: none  
 4. Sample collection date: none  
 5. Sample preparation: none  
 6. Sample analysis: none  
 7. Sample storage: none  
 8. Sample handling: none  
 9. Sample disposal: none  
 10. Sample recovery: none

**Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory**

## 第1節-2 放射性炭素年代測定結果

IAA：加速器分析研究所

## 年代測定結果報告書

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用しています。
- 2) BP年代値は、1950年からさかのぼること何年前かを表しています。
- 3) 付記した誤差は、次のように算出しています。  
複数回(通常は4回)の測定値について $\chi^2$ 検定を行い、通常報告する誤差は測定値の統計誤差から求めた値を用い、測定値が1つの母集団とみなせない場合には標準誤差を用いています。
- 4)  $\delta^{13}\text{C}$ の値は、通常は質量分析計を用いて測定しますが、AMS測定の場合に同時に測定される $\delta^{13}\text{C}$ の値を用いることもあります。  
 $\delta^{13}\text{C}$ 補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載しておきます。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差(‰;パーミル)で表したものです。

$$\delta^{14}\text{C} = [({}^{14}\text{A}_S - {}^{14}\text{A}_R) / {}^{14}\text{A}_R] \times 1000 \quad (1)$$

$$\delta^{13}\text{C} = [({}^{13}\text{A}_S - {}^{13}\text{A}_{\text{PDB}}) / {}^{13}\text{A}_{\text{PDB}}] \times 1000 \quad (2)$$

ここで、 ${}^{14}\text{A}_S$ : 試料炭素の ${}^{14}\text{C}$ 濃度:  $({}^{14}\text{C}/{}^{12}\text{C})_S$  または  $({}^{14}\text{C}/{}^{13}\text{C})_S$

${}^{14}\text{A}_R$ : 標準現代炭素の ${}^{14}\text{C}$ 濃度:  $({}^{14}\text{C}/{}^{12}\text{C})_R$  または  $({}^{14}\text{C}/{}^{13}\text{C})_R$

$\delta^{13}\text{C}$ は、質量分析計を用いて試料炭素の ${}^{13}\text{C}$ 濃度( ${}^{13}\text{A}_S = {}^{13}\text{C}/{}^{12}\text{C}$ )を測定し、PDB(白亜紀のベレムナイト(矢石)類の化石)の値を基準として、それからのずれを計算します。

但し、IAAでは加速器により測定中に同時に ${}^{13}\text{C}/{}^{12}\text{C}$ も測定していますので、標準試料の測定値との比較から算出した $\delta^{13}\text{C}$ を用いることもあります。この場合には表中に〔加速器〕と注記します。

また、 $\Delta^{14}\text{C}$ は、試料炭素が $\delta^{13}\text{C} = -25.0$ (‰)であるとしたときの ${}^{14}\text{C}$ 濃度( ${}^{14}\text{A}_N$ )に換算した上で計算した値です。(1)式の ${}^{14}\text{C}$ 濃度を、 $\delta^{13}\text{C}$ の測定値をもとに次式のように換算します。

$${}^{14}\text{A}_N = {}^{14}\text{A}_S \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000))^2 \quad ({}^{14}\text{A}_S \text{として } {}^{14}\text{C}/{}^{12}\text{C} \text{ を使用するとき})$$

または

$$= {}^{14}\text{A}_S \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000)) \quad ({}^{14}\text{A}_S \text{として } {}^{14}\text{C}/{}^{13}\text{C} \text{ を使用するとき})$$

$$\Delta^{14}\text{C} = [({}^{14}\text{A}_N - {}^{14}\text{A}_R) / {}^{14}\text{A}_R] \times 1000 \quad (\text{‰})$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については、海洋中の放射性炭素濃度が大気中の炭酸ガス中の濃度と異なるため、同位体補正のみを行なった年代値は実際の年代との差が大きくなります。多くの場合、同位体補正をしない $\delta^{14}\text{C}$ に相当するBP年代値が比較的良好その貝と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致します。

${}^{14}\text{C}$ 濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として、pMC(percent Modern Carbon)がよく使われており、 $\Delta^{14}\text{C}$ との関係は次のようになります。

$$\Delta^{14}\text{C} = (\text{pMC} / 100 - 1) \times 1000 \quad (\text{‰})$$

$$\text{pMC} = \Delta^{14}\text{C} / 10 + 100 \quad (\text{‰})$$

国際的な取り決めにより、この $\Delta^{14}\text{C}$ あるいはpMCにより、放射性炭素年代(Conventional Radiocarbon Age; yrBP)が次のように計算されます。

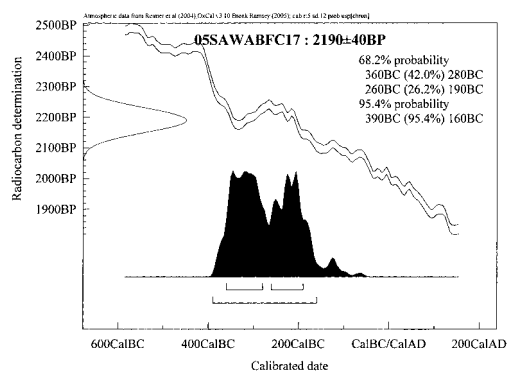
$$T = -8033 \times \ln [(\Delta^{14}\text{C} / 1000) + 1]$$

$$= -8033 \times \ln (\text{pMC} / 100)$$

IAA

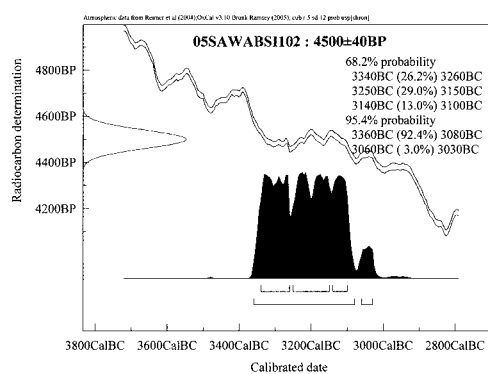
IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-51674 #1097-1	試料採取場所：青森市三内字沢部 試料形態：種子 試料名(番号)：05SAWABFC17	Libby Age(yrBP) : 2,190 ± 40 δ <sup>13</sup> C(‰)、(加速器) = -34.07 ± 0.80 Δ <sup>14</sup> C(‰) = -238.3 ± 4.0 pMC(%) = 76.17 ± 0.40
	(参考) δ <sup>13</sup> Cの補正無し	δ <sup>14</sup> C(‰) = -252.4 ± 3.8 pMC(%) = 74.76 ± 0.38 Age(yrBP) : 2,340 ± 40
IAAA-51675 #1097-2	試料採取場所：青森市大字三内字沢部 試料形態：炭化物 試料名(番号)：05SAWABSI102	Libby Age(yrBP) : 4,500 ± 40 δ <sup>13</sup> C(‰)、(加速器) = -29.06 ± 0.96 Δ <sup>14</sup> C(‰) = -428.8 ± 2.7 pMC(%) = 57.12 ± 0.27
	(参考) δ <sup>13</sup> Cの補正無し	δ <sup>14</sup> C(‰) = -433.6 ± 2.4 pMC(%) = 56.64 ± 0.24 Age(yrBP) : 4,570 ± 40

【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



使用プログラム・OxCal v3.10

【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



使用プログラム・OxCal v3.10

図 81

## 第2節 三内沢部(3)遺跡出土土器の胎土分析

松本建速 (東海大学文学部)

市川慎太郎・中山健一 (明治大学理工学部)

### 1. はじめに

青森県青森市三内沢部(3)遺跡出土の縄文時代中期の土器の化学成分の測定をおこなったので、以下にその結果を報告し、若干の考察をおこなう。三内沢部(3)遺跡は、縄文時代前期～中期の大集落である三内丸山遺跡に隣接して営まれたほぼ同時代の遺跡である。また、周辺には、他にも、近野遺跡、岩渡小谷遺跡といった縄文時代の遺跡が数多くある。したがって、本遺跡から出土する土器の比較検討をおこなうことは、同時代のこの地域の土器生産に関して多くの情報を与えることになるであろう。

本分析では、三内沢部(3)遺跡出土土器の化学成分についてのデータを蓄積することを第一の目的とし、利用された原料の産地を推定することを第二の目的とした。

なお、本分析では、試料作成準備を松本および東海大学学生前田浩孝が、試料作成・分析を市川、中山がおこなった。報告は、分析、結果を市川、中山が、他の項目と結果の一部を松本が作成した。

### 2. 試料

本遺跡出土の15点を試料とした。その内訳は、縄文時代中期の円筒上層d式5点、円筒上層e式5点、最花式5点である。出土試料の器種および出土地点については、分析値一覧表に掲載した。

### 3. 方法

分析には、波長分散型蛍光X線分析装置(以下ではWDXRFと略す)を用い、定量した。

### 4. 分析

#### (1) 試料作成

土器の一部を折り取り、器表面の風化した部分を電動やすりで削り、メノウ乳鉢を用いて、指先に粒子感が感じられなくなるまで粉碎した。その後、電気炉で500℃で2時間加熱し、炭素を除去したものを試料に供した。

試料は、試料と融剤の比率を1:10とするガラスビードとし、定量に用いた。ガラスビード作製の手順は以下である。試料約0.4gと融剤約4.0gを秤量、十分に混合した。融剤は、電気炉で700℃、8時間加熱した無水四ホウ酸リチウムを用いた。試料と融剤の混合物を白金るつぽに入れ、BEAD SAMPLER NT-1200を用いて熔融・成型した。800℃、120秒の予備加熱、1200℃、120秒の本加熱、1200℃、120秒の揺動加熱をおこない、その後、急冷してガラス化した。測定はガラスビードの下にアクリル板を敷き、30mmφのホルダーマスクに入れて実施した。

#### (2) 実験

明治大学理工学部設置の波長分散型蛍光X線分析装置(以下ではWDXRFと略す)、Rigaku Ri x3100を用いた。X線管球にはRhを、分光結晶はLiF(200), PET(002), Ge(111), TAP(001)

を用い、管電圧50 kV、管電流80 mAで動作させた。検出器は、ガスフロー型プロポーションナル・カウンターとシンチレーション・カウンターを用い、プロポーションナル・カウンターにはPRガスを50 cm<sup>3</sup> min<sup>-1</sup>で流した。測定は真空雰囲気下で、試料を30 rpmで回転させながらおこなった。

定量には、産業技術総合研究所発行の標準試料JG1（花崗岩）で作成したペレット状試料を同様の条件で測定し、その値を、各元素の分析値を標準化する際に用いた。

測定した元素は、Si、Al、Fe、Ti、Mn、Mg、Ca、Na、K、P、Zr、Sr、Rb、Yの14元素である。SiからPまでの10元素は、地殻を構成する主要元素であり、他地域の岩石および土壌、土器試料等との比較をおこなうさいの基礎となる。またZrからYまでの4元素は、地殻平均として20 ppm以上含まれ（メイスン, B. 1970）、今回の分析法でも、精度の高い測定ができる元素だからである。

## 5. 結果

測定した14元素のうち、主要10元素は、酸化物として計算し、分析結果を表1に掲載した。FeはFe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>として算出した。また、分析方法の正確さを検証するために旧地質調査所発行の岩石標準試料（JA-1）を測定したところ、その推奨値とよく一致した値が得られた（表2）。

なお、10元素の酸化物のトータル値が100%にならないが、その大部分は、土器中に含まれる水の値である。炭素が除去しきれていない場合もあるかもしれないが、その値はごく微量と考えられる。

## 6. 考察

### (1) 各元素のみの値の算出

表3として、主要10元素について、各々の元素単体として換算した値を掲載した。これまでに報告されている、ICP-AESを用いた分析値との比較をおこなうさいに便利だからである。

### (2) Mn濃度から推測する利用された粘土層

Mn濃度は、土器製作に利用された粘土層を推定するのに重要である。一般的には、白色系の粘土の場合、それは0.05%以下である（松本2003）。本試料の場合、試料9および14は0.07%であるが、他の13点は、0.02~0.03%であり、白色系の粘土層が利用されたと考えることができる。

### (3) Ca・Na・K濃度から見た胎土の比較

地殻を構成する鉱物は、石英や長石類のフェルシック鉱物と輝石、角閃石、黒雲母などのマフィック鉱物とに分けられる。そして、地殻の大半は前者が占めるのだが、長石類が約60%であると言われる（地学団体研究会編1995）。地質に差異がある場合、その基本的な特徴は、長石類の化学成分に反映される場合が多い。また、土器の胎土とされるシルトや粘土鉱物の多くは、長石類が基本となっている。したがって、長石類を構成する化学成分に差異が見られるならば、それは、地域差を反映している可能性が高い。

石英はSi、O、長石類はSi、Al、Ca、Na、K、Oで構成される。そして一般には、Ca・Na・Kの3元素を用いれば、産地ごとの粘土の差を見ることができ、東北北部地域の第四紀層の粘土を用いた場合には、長石の主要元素であるK、Na、Caを用いた、K/Na+CaとCa/Na+Kの2つの指標（以下では長石の指標と呼ぶ）が、産地ごとの成分の違いを良く反映することが知られている（松本2003）。その2指標のグラフを作成した（図1-1）。本試料の場合、3型式とも、多くは同じようなばらつきであるが、試料12と14は、多少、離れた値である。



図1-3として、本遺跡近隣に所在するの、三内丸山遺跡出土最花式試料(松本2004a)および岩渡小谷(4)遺跡出土円筒下層～上層土器試料(松本2004b)の分析結果との比較をおこなった。これらの2遺跡出土試料は、三内丸山遺跡や近野遺跡内にある白色系粘土等との比較から、ほぼ遺跡周辺の土を原料としていると推測されているものである。この結果から、本試料の大部分は、遺跡周辺の白色系粘土層が利用された可能性が高い。

一方、上記の2試料だけが離れている。したがって、これらの原料採集地は、他試料と異なると考えられるが、それが異なる地域から得られたものなのか否かは不明である。

#### (4) SrとRb濃度から見た胎土の比較

一般に、StはCaと、RbはKと同じ挙動を示すので、SrとRbとの相関は、先に(3)で見た結果と類似することになる。しかも、三辻の研究によれば、土器胎土の場合、地域差を見るには、SrとRbの相関図が、より適しているという(三辻1983)。そこで、Rb/StとK/Na+Caとの相関を見たのが図1-2である。それによっても、試料12・14だけが異なる値となる。ただし、その位置が、地域差を反映しているのか否かについては、まだデータが少なすぎて、明らかにはできない。

#### (5) Fe・Mg濃度から見た胎土の比較

マフィック鉱物中にはFeとMgが共存し、それらの比率あるいは相関図は、胎土成分の何らかの差を示す。そこで、地域差を示すことが多いK/Na+CaをX軸にとり、Mg/FeをY軸とした相関図を作った(図1-4)。しかしながら、Mg/Feでは、試料12・14と他の試料とを分けることはできなかった。

## 7. まとめ

(1) WDXRFを用いて、青森県青森市三内沢部(3)遺跡出土の円筒上層d式、円筒上層e式、最花式土器15点の化学成分を測定した。主要10元素については、酸化物として、微量元素については、元素単体として算出した。考察の過程では、過去の文献値との比較の利便性を考え、主要元素も、元素のみの値に換算した。

(2) Mn濃度は、13点の試料で0.02～0.03%、2点の試料で0.07%であった。どの型式の土器の作成においても、白色系の粘土層が利用されたと推測できた。

(3) 試料15点のうち、13点については、胎土の化学成分による差異を認められなかった。どの時期にも、同じ地域の土が利用されたと推測できる。ただし、最花式土器のうち、試料12および14の長石の指標およびRb/Stが、他の試料と若干異なっていた。しかしながら、この差異が原料の採取地地域の違いを反映しているのか否かは不明である。

(4) 周辺遺跡出土の同時代試料の文献値との比較の結果、本試料の大部分も、遺跡周辺の白色系粘土を利用していると推定できた。

## 8. おわりに

青森市三内沢部(3)遺跡から出土した縄文時代中期の土器の胎土分析をおこなった結果、それらの産地は、時代を越えて、ほぼ同じであろうと考えられた。ただし、最花式土器のなかに、長石の指標、Rb、St濃度に若干違いのある土器もあったが、それが何に由来するのかについては、データが足りず、明確な判断ができなかった。今後も、さらに多くの土器や粘土試料の分析につとめ、基礎資料の蓄積をおこなう必要がある。

謝辞 本分析において、明治大学工学部工業化学科教授、中村利廣先生には、たいへん多くの便宜をはかっていただきました。感謝申し上げます。

引用・参考文献

地学団体研究会編 1995『鉱物の科学 新版地学教育講座』3巻 東海大学出版会  
 松本建速 2003「誘導結合プラズマ発光分光分析(ICP-AES)による東北北部古代土器の胎土分析」  
 『第四紀研究』42巻1号 1-12頁 日本第四紀学会  
 2004a「円筒土器文化圏における土器・土偶の移動に関する研究」『特別史跡三内丸山遺跡年報』7号 54-58頁 青森県教育委員会  
 2004b「第9節 岩渡小谷(4)遺跡出土土器の成分分析」『岩渡小谷(4)遺跡Ⅱ』278-285頁 青森県教育委員会  
 三辻利一 1983『古代土器の産地推定法』ニュー・サイエンス社  
 メイスン,B.(松井義人・一国雅巳訳) 1970『一般地球化学』岩波書店 [Mason,B.1966 *Principles of Geochemistry.*]

表1 分析値一覧

単位：主要元素(重量%)、微量元素(ppm)

試料No.	SiO2	Al2O3	Fe2O3	CaO	Na2O	K2O	MgO	TiO2	P2O5	MnO	Total	Zr	Sr	Rb	Y	土器型式
No. 1	57.3	24.7	5.50	1.39	1.54	1.39	0.606	0.998	0.111	0.031	93.6	205	125	91.4	24.4	円筒上層d
No. 2	59.8	22.3	5.50	1.50	1.71	1.44	0.691	0.983	0.074	0.033	94.1	195	134	94.2	18.7	円筒上層d
No. 3	57.1	24.6	5.61	1.52	1.53	1.41	0.693	1.01	0.116	0.030	93.7	202	129	92.2	24.9	円筒上層d
No. 4	58.8	23.3	5.54	1.80	1.93	1.23	0.615	1.09	0.077	0.032	94.4	193	151	71.4	19.3	円筒上層d
No. 5	57.4	24.1	5.49	1.45	1.56	1.40	0.757	0.992	0.125	0.034	93.4	197	125	99.1	21.6	円筒上層d
No. 6	56.6	25.2	4.52	1.26	1.51	1.38	0.658	0.914	0.079	0.028	92.1	192	122	92.6	21.8	円筒上層e
No. 7	54.7	28.1	4.96	1.41	1.55	1.30	0.551	1.04	0.097	0.031	93.7	217	131	73.6	28.9	円筒上層e
No. 8	59.1	23.3	4.89	1.68	1.73	1.19	0.726	1.24	0.082	0.037	93.9	191	134	74.6	22.0	円筒上層e
No. 9	55.8	22.4	8.95	2.05	1.66	1.13	1.22	1.29	0.077	0.086	94.6	182	133	64.6	25.5	円筒上層e
No. 10	62.3	22.1	3.10	1.86	1.25	1.33	0.997	0.883	0.083	0.036	94.0	207	150	80.4	45.8	円筒上層e
No. 11	57.7	24.3	5.38	1.86	1.70	1.17	0.665	1.10	0.106	0.052	94.0	194	140	69.8	13.9	最花
No. 12	58.0	23.9	4.09	2.28	1.98	0.869	0.714	1.06	0.077	0.036	93.0	196	156	59.4	23.5	最花
No. 13	62.1	21.4	4.24	1.42	1.57	1.15	0.902	1.26	0.064	0.038	94.1	216	123	87.7	17.4	最花
No. 14	55.4	25.6	6.08	2.18	1.88	0.758	0.546	0.945	0.182	0.090	93.7	194	141	43.5	15.3	最花
No. 15	56.7	24.2	6.47	1.25	1.30	1.28	0.687	1.13	0.112	0.038	93.2	219	99.3	88.0	15.8	最花

表2 Table 7 Analytical results of major elements in the GSJ rock reference sample.

	JA-1 (andesite)	
	Present method	Recommended value <sup>a</sup>
Na <sub>2</sub> O	3.77 (0.4)	3.84
MgO	1.56 (0.4)	1.57
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	15.6 (0.5)	15.2
SiO <sub>2</sub>	63.8 (0.1)	64.0
P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0.161 (0.7)	0.165
K <sub>2</sub> O	0.788 (0.4)	0.77
CaO	5.63 (0.1)	5.70
TiO <sub>2</sub>	0.877 (0.3)	0.85
MnO	0.147 (0.4)	0.157
Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> <sup>b</sup>	7.31 (0.2)	7.07
Total	99.6 (0.2)	99.3

<sup>a</sup> Ref. 1.

<sup>b</sup> Total Fe as Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>.

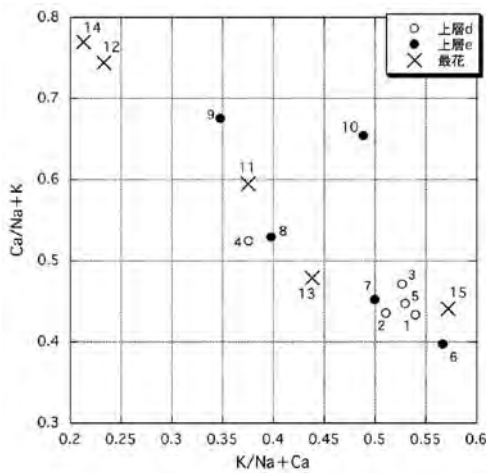
( ), Relative standard deviation % (n = 5). Major elements, in mass%, with 1:10 glass beads.

1) N. Imai, S. Terashima, S. Itoh, A. Ando, *Geostandards Newslett.*, **19**, 135 (1995).

表3 換算値

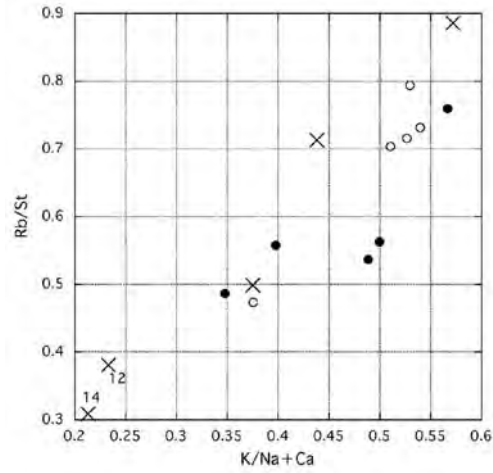
単位：主要元素(重量%)

試料No.	Si	Ti	Al	Fe	Mn	Mg	Ca	Na	K	P	K/Ca+Na	Ca/K+Na	Rb/St	Mg/Fe	Ti/Fe	土器型式
No.01	26.79	0.60	13.07	3.85	0.02	0.37	0.99	1.14	1.15	0.05	0.540	0.433	0.731	0.095	0.156	円筒上層d
No.02	27.95	0.59	11.80	3.85	0.03	0.42	1.07	1.27	1.20	0.03	0.511	0.435	0.703	0.108	0.153	円筒上層d
No.03	26.69	0.61	13.02	3.92	0.02	0.42	1.09	1.14	1.17	0.05	0.527	0.471	0.715	0.107	0.154	円筒上層d
No.04	27.49	0.65	12.33	3.87	0.02	0.37	1.29	1.43	1.02	0.03	0.376	0.524	0.473	0.096	0.169	円筒上層d
No.05	26.83	0.59	12.75	3.84	0.03	0.46	1.04	1.16	1.16	0.05	0.530	0.447	0.793	0.119	0.155	円筒上層d
No.06	26.46	0.55	13.34	3.16	0.02	0.40	0.90	1.12	1.15	0.03	0.567	0.397	0.759	0.126	0.173	円筒上層e
No.07	25.57	0.62	14.87	3.47	0.02	0.33	1.01	1.15	1.08	0.04	0.500	0.452	0.562	0.096	0.180	円筒上層e
No.08	27.63	0.74	12.33	3.42	0.03	0.44	1.20	1.28	0.99	0.04	0.398	0.529	0.557	0.128	0.217	円筒上層e
No.09	26.08	0.77	11.85	6.26	0.07	0.74	1.47	1.23	0.94	0.03	0.348	0.675	0.486	0.118	0.124	円筒上層e
No.10	29.12	0.53	11.70	2.17	0.03	0.60	1.33	0.93	1.10	0.04	0.489	0.654	0.503	0.277	0.244	円筒上層e
No.11	26.97	0.66	12.86	3.76	0.04	0.40	1.33	1.26	0.97	0.05	0.375	0.595	0.499	0.107	0.175	最花
No.12	27.11	0.64	12.65	2.86	0.03	0.43	1.63	1.47	0.72	0.03	0.233	0.744	0.381	0.151	0.222	最花
No.13	29.03	0.76	11.33	2.97	0.03	0.54	1.01	1.16	0.95	0.03	0.438	0.479	0.713	0.183	0.255	最花
No.14	25.90	0.57	13.55	4.25	0.07	0.33	1.56	1.39	0.63	0.08	0.213	0.770	0.309	0.077	0.133	最花
No.15	26.51	0.68	12.81	4.53	0.03	0.41	0.89	0.96	1.06	0.05	0.572	0.441	0.886	0.092	0.150	最花



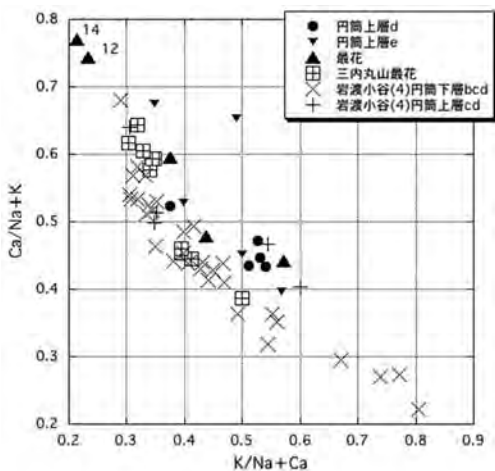
三内沢部(3) K/Na+CaとCa/Na+Kとの相関

1.



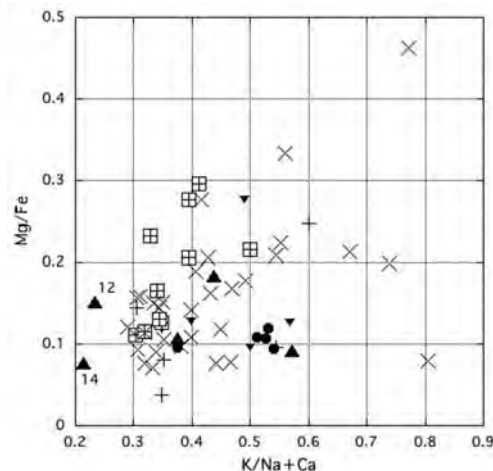
三内沢部(3) K/Na+CaとRb/Stとの相関

2.



三内沢部(3)と周辺遺跡土器との比較(1)

3.



三内沢部(3)と周辺遺跡土器との比較(2)

4.

図1 三内沢部(3)遺跡出土土器胎土の化学成分の特徴

B区土坑計測表

番号	グリッド	検出面	重複	平面形	規模(cm)			時期
					検出面	底面	深さ	
B1	EP-21	V		円形	114~118	90×85	30	
B2	EK-22	V		円形	100	80×75	45	
B3	EL-22	V		円形	105×93	100×75	43	
B5	EL-23	V		不整楕円形	?×115	?×115	36	
B6	EM-22・23	V		不整楕円形	?×?	?×96	51	
B107	DW-20・21	V		円形	92~96	80×80	40	
B108	DX-22	V		円形	105~112	111×110	12	
B109	DY-21・22	V		楕円形	96×85	90×70	10	縄文中期中～後葉
B110	DY-21・22	V		楕円形	100×75	110×70	22	
B111	EA-22	V	>BSI101	楕円形	63×56	35×25	24	
B112	EA-22	V		円形	78	85×80	40	縄文中期中葉
B113	EA-20	V		円形	77×62	75×70	35	
B114	EB-20	V		円形	80~86	80×80	30	
B115	EC-20	V		円形	85~95	84×80	30	縄文中期中葉
B116	EC-20	V		円形	88×75	75×65	36	縄文中期中～後葉
B117	EB・C-21	V		楕円形	180×130	165×104	27	
B118	DY-22	V		円形	57~60	35×28	28	
B119	DT-21	V		円形	86×78	80×72	22	
B120	DU-22	V		円形	90×75	68×56	30	
B121	DS-21	V		不整方形	120×108	95×45	54	
B122	EF-19	V		不整円形	168×152	112×60	24	
B123	EF-19	V		円形	110~125	65×60	10	
B124	EL・M-21	V		楕円形	72×57	64×44	10	
B125	EF-21・22	V		円形	125~134	120×120	14	縄文中期中葉
B126	EG-21	V		円形	105	110×95	15	
B127	EF-22	V		卵形	104×96	92×80	8	
B128	EG-22	V		円形	115	96×72	20	
B129	EG-22	V		円形	72×60	60×50	15	
B130	EG-21	V		不整円形	130×115	112×88	16	
B131	EE-23	V		円形	102~105	96×80	25	
B132	EI・J-21	V		円形	75	72×68	22	
B133		V		円形	74×60	64×56	15	
B134	DW-24	V		円形	65	68×64	24	
B135	DW-24	V		円形	86×70	92×88	41	
B136	DW-25	V		円形	80×65	72×56	11	
B137	DV・W-25	V		円形	69~74	70×60	15	
B138	DU-25	V		円形	70	60×60	50	
B139	DX-23	V		不整円形	90×72	72×64	10	
B140	DY-23	V		不整円形	86×75	76×64	22	
B141	DW・X-24	V		円形	50	44×40	21	
B142	DX-24	V		円形	84×75	72×68	20	

C区土坑計測表

番号	グリッド	検出面	重複	平面形	規模(cm)			時期
					検出面	底面	深さ	
C1	DB・C-28	V		円形	90×86		30	縄文中期中葉
C2	DD-26・27	IV		不整楕円形	170×120	160×110	20	
C3	DC-28	V		円形	86×76	76×76	22	縄文中期中葉
C4	DD-27	V		円形	205~210		83	縄文中期中～後葉

C5	DD-24	IV		不整円形	85×70	72×68		時期不明
C6	欠番							現代の穴
C7	DD-24	IV		円形	103×90	92×60		時期不明
C8	DD-24	V		不整円形	85~90	80×60	25	縄文中期中葉
C9	DD-25	V		円形	78~84	68×64	36	縄文中期中葉
C10	DD-26	IV		不整楕	156×125	144×108	10	時期不明
C11	DD-25	IV		不整楕	70×55	60×52	45	縄文中期
C12	DD-23・24	V		円形	80~85	70×68	15	
C13	欠番							
C14	DE-22	V		円形	62×56	52×40	26	
C15	DD-23	IV		円形	80×78	92×84	35	縄文中期中葉
C16	DD-22	V		円形	205~200	185×175	28	縄文中期中葉
C17	DC-23	IV		不整円形	90×86	125×120	68	縄文中期中葉
C18	DE-24	V		円形	192~200	195×190	120	上層eor榎林式
C19	DF-25	V		不整円形	218×206	215×175	42	縄文中期中葉
C20	DD-26	IV		不整楕	102×80	115×105	48	縄文中期中葉
C21	DH・I-25	V		円形	125	105×90	48	円筒上層式
C22	DG-25	V		円形	145×128	180×135	32	
C23	DE・F-26	V		円形	210	230×215	210	縄文中期中葉
C24	欠番							カクラン
C25	DF・G-26	V		不整円形	118×105	105×95	28	
C26	DG-27	V		不整隅	155×124	130×95	36	縄文中期中葉
C27	DA-22		<SI03	楕円形	100×60	90×35	30	
C28	DE-26	V		円形	60×50	55×45	28	
C29	DE-26	V		不整円形	70×62	68×40	18	
C30	DE-26	V	>SI04	円形	85	92×76	78	
C31	DF-27	V		不整円形	118×98	100×92	35	縄文中期中葉
C32	DA-22	V		不整円形	121×103	100×68	32	
C33	DD-26	V	攪乱有	不整円形	200×156	165×140	58	
C34	DF-27	V		円形	87×75	76×64	20	
C35	DE-28	IV		不整楕	87×65	75×55	38	縄文中期前半
C36	欠番	IV						
C37	欠番	IV						カクラン
C38	DK-22・23	IV		円形	90×80	68×60	27	時期不明
C39	DN-22	IV		円形	72×64	76×72	30	
C40	DH-23	IV		円形	127×120	128×124	68	時期不明
C41	DK-21・22	IV	攪乱有	円形	135	183×180	45	縄文中期中～後葉
C42	CO-27	IV		楕円形	124×65	112×56	20	
C43	CS-24	IV		円形	122	124×108	15	
C44	CR・S-23・24	IV		円形	125~130	120×120	15	
C45	CS-24	IV		円形	125	128×124	8	
C46	CR-25	IV		円形	94~100	96×84	6	
C47	CM-29・30	IV	>CSK50、 >CSK51	円形	255×225	172×168	90	縄文中期後葉
C48	CM-28	IV		円形	120	104×100	45	縄文中期中葉
C49	CM-28	IV	<CSD1	不整楕	130×80	104×68	35	不整楕円形
C50	CM・N-29	IV	<CSK47	円形	115	108×100	50	時期不明
C51	CM-30	IV	<CSK47	隅丸長	110×85	100×72	38	時期不明
C52	DN-22	IV		円形	80		35	時期不明
C53	CM-25	IV		円形	142×140	128×113	39	時期不明

## 遺物観察表

## B区 土器観察表

図	No	出土地点	層位	文様	時期	備考
4	1	BSI 101	フク土	無文	中期?	
4	2	BSI 101	フク土	貼付、L押、LR(横)	円筒上層a	
4	3	BSI 101	フク土	無文	中期?	
4	4	BSI 101	フク土	RL(斜)、沈線	榎林	
4	5	BSI 101	フク土	RL(縦)	中期後半	
4	6	BSI 101	フク土	RRL(横)	前期	
7	1	BSI 102	埋設炉1	LR	前期末	
7	2	BSI 102	埋設炉2	貼付(刺突)、LR押、結束第一種	中期初頭	
7	3	BSI 102	埋設3 床面	口唇上面刻み、二股小突起、円形貼付、R押、刺突	円筒下層d2	
7	4	BSI 102	床面	貼付、R押、刺突	円筒下層d2	
7	5	BSI 102	Pit1フク土	貼付(原体押)、L押	円筒下層d2	
7	6	BSI 102	Pit1 3	LR(横)	円筒下層d2	
7	7	BSI 102	Pitフク土	口唇上面刻み、L押、刺突	円筒下層d2	
7	8	BSI 102	Pit4 1	LR(横)	円筒下層d2	
7	9	BSI 102	1	口唇上面刻み、R押、刺突、LR	円筒下層d2	
7	10	BSI 102	1	LR押、LR(横)	円筒下層d2	
7	11	BSI 102	1	LR(横)	円筒下層d2	
8	1	BSI 103	周溝 フク	突起、円形貼付、口唇RL押、RL(横)、貼付	円筒上層d・e	
8	2	BSI 103	周溝 フク	RL(横)		
10	1	BSB1Pit4	フク土	無文帯、刺突	最花	
10	2	BSB1Pit4	フク土	LR(縦)	中期後半	
17	1	BSK 107	3	RL(縦)、沈線	最花	
17	2	BSK 107	3	RL(縦)、沈線	最花	
17	3	BSK 109	1	RL?、沈線	円筒上層e	
17	4	BSK 109	1	口唇部L押、LR?、沈線	円筒上層e	
17	5	BSK 109	1	貼付(指頭押)、LR?、沈線	円筒上層e	
17	6	BSK 110	フク土	口唇肥厚、LR(横)	円筒上層d・e	
17	7	BSK 110	フク土	突起、貼付(R押)	円筒上層d・e	内面にも貼付
17	8	BSK 110	フク土	口唇肥厚(RL押)、沈線	円筒上層e	
17	9	BSK 111	フク土	貼付、L押、結束第一種	円筒上層a	
17	10	BSK 111	フク土	無文	中期?	
17	11	BSK 111	フク土	L押、貼付(L押)、RL(横)	円筒上層a	
17	13	BSK 112	底面	口唇肥厚、貼付、RL押、結束第二種	円筒上層d・e	
17	14	BSK 112	1	結束第一種	円筒上層	
17	15	BSK 112	1	小突起、上面刻み	円筒上層d・e	
18	19	BSK 114	フク土	無文の底部	中期?	
18	20	BSK 115	1下	口唇肥厚、貼付、RL押、結束第一種	円筒上層d・e	
18	21	BSK 115	1下	口唇肥厚、貼付、縄押、結束第一種	円筒上層d・e	
18	22	BSK 115	1下	貼付、L押	円筒上層a	
18	23	BSK 115	1下	貼付	円筒上層d	
18	24	BSK 115	1下	結束第一種	円筒上層	
18	26	BSK 116	堆積土	口唇肥厚、LR	円筒上層d・e	
18	27	BSK 124	1	結束第一種	円筒上層	
18	28	BSK 125	3	LR(縦)	中期中~後葉	
18	29	BSK 125	3	口唇肥厚、LRL	円筒上層d・e	
19	30	BSK 125	3	沈線、LR	円筒上層e	
19	31	BSK 125	3	RL(横)	中期中~後葉	
19	32	BSK 125	3	波状、貼付、口唇肥厚、LR(横)	円筒上層d・e	
19	33	BSK 125	3	沈線	中期中~後葉	
19	34	BSK 125	3	R単軸絡条体1類押、RL(横)	円筒下層d2	
19	35	BSK 125	3	口唇肥厚(刺突)、沈線	円筒上層e	
19	36	BSK 125	3	口唇肥厚、貼付(L押)、L押	円筒上層a	
19	37	BSK 125	3	口唇肥厚、LR押、LR(横)	円筒上層d・e	
19	38	BSK 125	3	沈線(地文不明)	円筒上層e	注記無し
19	40	BSK 126	フク土	小突起、口唇上面LR、LR押	円筒下層d2	
19	41	BSK 128	1	口唇肥厚(L押)、LR(横)	円筒上層d・e	
19	42	BSK 128	1	結束第一種	円筒上層	
19	43	BSK 130	1	結束第一種	円筒上層	
19	44	BSK 132	1	縄文	中期	
19	45	BSK 135	フク土	単軸絡条体1類	円筒下層	繊維含む
19	46	BSK 135	フク土	R単軸絡条体1類	円筒下層	繊維含む
19	47	BSK 136	1	結束第一種	円筒上層	
19	48	BSK 136	1	L馬蹄形押	円筒上層b	
19	49	BSK 137	1	L馬蹄形押、貼付(縄押)	円筒上層b	
19	50	BSK 137	1	貼付、縄押、馬蹄形押		
19	51	BSK 140	1	突起、貼付(L押)、L押(直線状・馬蹄形状)	円筒上層a	
19	52	BSK 140	1	R押(直線状、鋸歯状)、貼付(R押)、RL(横)	円筒上層a	
19	53	BSK 142	1	R押	円筒下層d2	
20	1	BSR 1		R多軸絡	円筒下層d2	
23	1	BSX 1	黒	皿形、貼付(L押)、結束第一種	円筒上層	
23	2	BSX 1	黄	貼付、L押、結束第二種	円筒上層a	
23	3	BSX 1	黒	LR(横)、沈線	円筒上層e	
23	4	BSX 1	黒	LR押、LR(横)	円筒下層d1	
23	5	BSX 1	黒	LR(斜)、沈線	中期中~後葉	
23	6	BSX 1	黒	口唇上面LR押、LR押、刺突	円筒下層d2	
23	7	BSX 1	黒	口唇上面刻み、L・R押	円筒下層d2	
23	8	BSX 1	黒	口唇肥厚、貼付、L・R押	円筒上層a	
23	9	BSX 1	黒	口唇上面LR、LR押	円筒下層d2	
23	10	BSX 1	黒	R押、LR(横)	円筒下層d1	

図	No	出土地点	層位	文様	時期	備考
23	11	BSX	1	黄 波状、貼付(刺突)、LR押	円筒下層d2	
23	12	BSX	1	黒 口唇上面L押、L押、L結節回転	円筒下層d2	
23	13	BSX	1	黒 LR押、刺突	円筒下層d2	
23	14	BSX	1	黒 口唇肥厚、R押、刺突、LR	円筒下層d2	
23	15	BSX	1	黒 小突起、貼付、R押、刺突	円筒下層d2	
23	16	BSX	1	黄 小突起、L押、貼付(L押)	円筒下層d2	
23	17	BSX	1	黒 小波状、RL(横)	中期中葉	
23	18	BSX	1	黒 小波状、L押、鼓状貼付(刻み)、LR(横)	円筒下層d2	
23	19	BSX	1	黒 口唇上面L押、L押、LR末端刺突、LR(横)	円筒下層d2	
23	20	BSX	1	黒、ベルト3 R押(2条単位)、貼付剥落	円筒下層d2	
26	1	谷FK	13	3 沈線	ムシリ I	
26	2	谷FK	15	3 沈線	ムシリ I	FK-13-1に似る
26	3	谷FK	15	3 R単軸絡条体5類	円筒下層b	
26	4	谷FL	15	切り株下3 R単軸絡条体6類、貼付(LR押)、RLR押、絡条体回転	円筒下層b	地文原体不明
26	5	谷FM	16	4 R単軸絡条体1類押	円筒下層d2	
26	6	谷FM	15	4 R・LR押、LR(斜)	円筒下層d2	
26	7	谷FK	15	3 口唇肥厚、L押(2条単位)、刺突、LR(横)、R多軸絡	円筒下層d2	
26	8	谷FL	14	4 突起、貼付、LR押、刺突、RL、RL結節回転	円筒下層d2	
26	9	谷FL,FM	15	4.5 波状、LR押、LR	円筒下層d2	
26	10	谷FM	14	水路4 口唇上面・口縁部・貼付に単軸絡条体1類押	円筒下層d2	
26	11	谷FL	13	3 貼付(R押)、R押、刺突	円筒下層d2	
26	12	谷FL	14	4 II 突起、貼付(L押)、LR押、刺突	円筒下層d2	
27	13	谷FL	15	4 口唇部肥厚、LR押、RL(横)	円筒下層d2	
27	14	谷FM	14	4 波状、結束第一種(RL・RL)	円筒上層a	
27	15	谷FM	14	4 貼付、L押(直線状・馬蹄形状)、結束第一種	円筒上層a	
27	16	谷FM	15	4 口唇肥厚、貼付(L押)、L押(直線・馬蹄形)、RL(横)	円筒上層b	
27	17	谷FM	16	W-10下4 突起、貼付(R押)、貫通孔	円筒上層d	
27	18	谷FM	16	4 結束第一種、貼付(L押)	円筒上層d	
27	19	谷FK	15	3 口唇肥厚(RL押)、RL、沈線	円筒上層e	
27	20	谷FL	13	3 RL(横)、沈線	最花	
27	21	谷FM	15	4 LR(横)、楕円形状沈線	最花	
27	22	谷FK	16	III LR、沈線	最花	
27	23	谷FM	16	4 折り返し口縁、無文帯、LR(横)	中期中葉	
27	24	谷FK	15	3 無文帯、円形貼付、円形刺突、LR?	大木10	
27	25	谷FK	16	3 RL、渦巻き状沈線	十腰内 I	
27	26	谷FL	15	4 LR(横)、沈線	十腰内 II?	
27	27	谷FK	15	3 沈線、LR	十腰内 II?	
27	28	谷FL	14	4 沈線、RL磨消縄文	十腰内 II~V	
27	29	谷FL	15	3 沈線	十腰内 II	
27	30	谷FL	13	3 LR(縦・横・斜)、沈線	十腰内 II	
28	31	谷FL	13	4 突起、沈線、I磨消縄文	十腰内 VI	
28	32	谷FK	15	3 沈線、LR	十腰内 III~V	
28	33	谷FK	15	3 沈線、LR	十腰内 III~V	
28	34	谷FL	14	5 LR(横)、胴下部無文	十腰内 III~V	
28	35	谷FL	16	3 底部網代痕		
28	36	谷FM	14	4 LR	後期後半	
28	37	谷FM	16	3 LRとRLの羽状構成	後期後~末葉	
34	1	ER	22	II 貝殻復縁刺突	早期前葉	
34	2	ER	21	カクラン 貝殻復縁刺突	早期前葉	
34	3	EO	20	II 貝殻腹縁刺突	早期前葉	
34	4	EE	22	I 刺突	表館	
34	5	EO	20	II III 貝殻押引き	表館	
34	6	EJ	21	II L押、LR(横)	円筒下層d2	
34	7	EI	19			
34	8	EN	22	II L押、L結節回転	円筒下層d2	
34	9	EI	23	III L押、刺突、R結節回転、多軸絡条体	円筒下層d2	
34	10	EI	22	III LR押、刺突、LR(横)	円筒下層d2	
34	11	北FL	17	III 単軸絡条体5類・RL押、L・R単軸絡条体1A類	円筒下層d2	
34	12	北FM	19	III 小突起、LR押、鼓状貼付、RL(横)	円筒下層d2	
34	13	EI	19	III 口唇上面刻み?、R押、刺突	円筒下層d2	摩滅
34	14	EH	19	III 貼付、LR押、結節回転?	円筒下層d2	
34	15	EB	24	III 貼付(L押)、L押(直線状・馬蹄形)	円筒上層b	
34	16	EF	21	I 貼付(L押)、L押(直線状・馬蹄形)	円筒上層b	
34	17	EI	22	III 貼付(R押)、R押(直線状・馬蹄形)	円筒上層b	
34	18	EM	20	I 貼付、L・R押(直線状・馬蹄形)	円筒上層b	
34	19	ED	21	I 突起、貼付(R押)、刺突	円筒上層c	
34	20	EK	20	II III 刺突、貼付、L押	円筒上層c	
34	21	ED	20	I 二股突起、貼付(L押)、刺突	円筒上層c	突起1個欠
34	22	北FL	17	III 突起、貼付(L押)、刺突	円筒上層c	
35	23	北FK	17	III 波状口縁、貼付(刻み)、刻み	円筒上層c	
35	24	EB	24	III 口唇肥厚、LRL、貼付	円筒上層d	
35	25	EH	22	III 結束第一種、貼付	円筒上層d	
35	26	EB	21	I 突起、貼付(LR押)、LR、沈線	円筒上層e	
35	27	EP	21	II 貼付(LR押)、LR(横)、沈線	円筒上層e	
35	28	ED	19	III 口唇肥厚(LR押)、LR(縦)	円筒上層d+e	
35	29	北FL	18	III RL(縦)	後期?	
35	30	ER	22	I 凹状沈線、渦巻き状沈線、LR(縦)、沈線	榎林	
35	31	DX	24	II 凹状沈線、渦巻き状沈線、LR(縦・斜)、沈線	榎林	
35	32	EN	20	II RL(横)、沈線	榎林	
35	33	EP	22	I RL(横)、沈線(円形)	最花	

図	No	出土地点	層位	文様	時期	備考
35	34	ED	22	Ⅲ	RL(横)、沈線(縦位・渦巻き状)	榎林
35	35	EP	22	Ⅱ	円形貼付、無文帯	最花
35	36	EP	22	Ⅱ	無文帯、沈線、師突	最花
35	37	北FK	18	Ⅲ	RL(横)、沈線	最花
35	38	EP	22	Ⅰ	RL(斜)、沈線	最花
35	39	北FK	18	Ⅲ	小突起、LR(縦)、円形貼付	大木10
36	40	EB	20	Ⅰ	無文帯、RL(斜)、沈線(円形・U字状)	最花
36	41	DY	24	Ⅲ	LR(縦)、沈線	大木10
36	42	北FK	17	Ⅲ	無文帯、RL(横)、沈線	最花
36	43	北FM	18	Ⅲ	折り返し口縁、無文帯、RL(横)、沈線	最花
36	44	EB	20	Ⅰ	刺突、内面鱗状突起	大木10
36	45	北EV	20	埋土	無文帯、沈線、RL(縦)	大木10
36	46	北FK	18	Ⅲ	RL(縦)、刻み	最花
36	47	北FK	19	Ⅲ	沈線、LR磨消縄文	大木10
36	48	北FL	19	Ⅲ	LR磨消縄文、沈線	大木10
36	49	北FM	17	Ⅲ	LR(縦)、沈線	大木10
36	50	北FK	16,17	Ⅲ	折り返し口縁、RL(横・斜)	中期後葉
36	51	北FK	17	Ⅲ	L押、無文帯、RL	牛ヶ沢
36	52	北FK	18	Ⅲ	入り組み状沈線	十腰内Ⅰ
36	53	ER	20	カクラン	沈線	後期
36	54	北FJ	17	Ⅲ	沈線	十腰内Ⅰ
36	55	北FL	19	Ⅲ	格子目状絡糸体(R単絡5)	十腰内Ⅰ
36	56	北FM	17	Ⅲ	突起、沈線、LR	十腰内Ⅴ～Ⅵ
36	57	北FL	19	Ⅲ	小突起、沈線、LR(横)	十腰内Ⅴ～Ⅵ
36	58	北FM	17	Ⅱ	LR・RL、沈線、突起	十腰内Ⅴ
36	59	北FN	17	Ⅲ	沈線、RL(横)、円形貼付	十腰内Ⅴ
36	60	北FM	17	Ⅲ	RL(縦・横)、沈線	十腰内Ⅵ
36	61	北FM	17	Ⅱ	RL(斜)、沈線	十腰内Ⅵ
36	62	北FL	18	Ⅲ	沈線、RL(縦・横)による羽状構成	十腰内Ⅳ
36	63	北FK	18	Ⅲ	条痕	後期後半
36	64	北FK	18	Ⅲ	条痕	後期後半
36	65	北FK	19	Ⅲ	LR(縦)	後期？
36	66	北FK	17	Ⅲ	底面圧痕(原体不明)	後期？
36	67	FM	16	Ⅲ	注口部	後期後半
36	68	北FM	18	Ⅲ	突起、平行沈線	大洞A'
36	69	北FM	18	Ⅲ		大洞A'
36	70	北FM, FN	18, 19	Ⅰ Ⅲ	平行沈線	大洞A'
36	71	北FM	19	Ⅰ	平行沈線、LR(横)	大洞A'
36	72	北FM	18	Ⅲ	RL(縦)、	晩期
36	73	EL	20	Ⅰ Ⅱ	RL帯縄文、沈線、刺突	続縄文
36	74	ER	20	カクラン	LR帯縄文	続縄文

C区 土器観察表

図	No	出土地点	層位	文様	時期	備考
48	1	CSI	1	床面	無文帯、RL、円形刺突、U字状沈線	最花
48	2	CSI	1	1	LR、r結回？	中期後半
48	3	CSI	1	1	LR(縦)、沈線	大木10
48	4	CSI	1	底面	RL(横)、沈線	中期中～後葉
48	5	CSI	1	1	凹状沈線、RL(横)、沈線	榎林
48	6	CSI	1	1	凹状沈線、LR(縦)、沈線	榎林
48	7	CSI	1	1	沈線	中期中～後葉
51	1	CSI	2	1	LR(縦)	中期後半
51	2	CSI	2	1	口唇肥厚(沈線・貼付)	円筒上層e
51	3	CSI	2	1	口唇肥厚(刻み)、RL(横)	榎林
51	4	CSI	2	1	RL(横)、沈線	円筒上層e
51	5	CSI	2	フク土	口唇肥厚、RL(横)、沈線	円筒上層e
51	6	CSI	2	1	隆沈線、縦位沈線、RL(横)、沈線	大木8b
51	7	CSI	2	1	隆沈線、縦位沈線、RL(横)、沈線	大木8b
51	8	CSI	2	1	凹状沈線、RLR(横)、沈線	榎林
51	9	CSI	2	1	凹状沈線、RLR(横)、沈線	榎林
53	1	CSI	3	土	LR	中期後半
53	2	CSI	3	1	RL(横)	
53	3	CSI	3	1,フ	無文帯	中期後葉
53	4	CSI	3	1	無文帯、横位沈線、粘土粒貼付	最花
53	5	CSI	3	1,フ	RL(横・斜)、円形刺突、沈線	最花
53	6	CSI	3	フク土	LR(横)、沈線	最花
53	7	CSI	3	1	LR(横)、沈線	最花
55	1	CSI	4	床面	貼付(刻み)、刺突	円筒上層c
55	2	CSI	4	確	貼付	円筒上層d・e
55	3	CSI	4	確	貼付	円筒上層d
55	4	CSI	4	床面	貼付、結束第一種	円筒上層d
55	5	CSI	4	床面	結束第一種	円筒上層
64	1	CSK	1	1,4,フ	突起(貼付)、口唇肥厚(LR押)、LR(横)、沈線	円筒上層e
64	2	CSK	1	4	突起(貼付)、口唇肥厚(LR押)、RL(横)、沈線	円筒上層e
64	3	CSK	1	4	突起、L?押、沈線	円筒上層e
64	4	CSK	1	4	口唇肥厚(LR押)、LR(横)	中期中葉
64	5	CSK	1	4	RL(横)、沈線	円筒上層e
64	7	CSK	3	1,フ	口唇LR押、LR(横)	円筒上層d・e

図	No	出土地点	層位	文様	時期	備考
64	8	CSK	3	1	RL(横)、沈線	円筒上層e
64	9	CSK	3	1,フ	RL(横)	中期中葉
64	11	CSK	4	フク土	RL(横)、沈線	中期中～後葉
64	12	CSK	4	フク土	RLR(横)	中期中～後葉
64	13	CSK	4	フク土	RL(横)	中期中～後葉
64	14	CSK	8	2	突起(円形貼付)、口唇肥厚(刻み)、RL	円筒上層d・e
64	15	CSK	8	確	口唇肥厚(RL)、RL(横)、沈線	円筒上層e
65	17	CSK	9	2	LR?、貼付	円筒上層d
65	18	CSK	9	2	突起、貼付(R押)、口唇肥厚(R押)、RL、沈線	円筒上層e
65	19	CSK	9	1,フ	RL(横)、沈線	中期中～後葉
65	20	CSK	9	2	口唇L押、RL(斜)	円筒上層d・e
65	21	CSK	9	1	RL(横)、沈線	中期中～後葉
65	23	CSK	10	確	無文	中期?
65	25	CSK	11	1,2	RL(斜)	中期中～後葉
65	26	CSK	13	フク土	不明	不明
65	26	CSK	15	1	口唇RL押、RL	円筒上層d・e
65	27	CSK	16	2	LR(横)、沈線	円筒上層e
65	28	CSK	17	1	口唇上面刻み、RL(横)	円筒上層d・e
65	29	CSK	18	2	RL(横)	中期中～後葉
65	30	CSK	18	フク土	口唇肥厚(貼付)、結束第一種、貼付(刻み)	円筒上層d
65	31	CSK	18	3	貼付	大木8b?
65	32	CSK	18	2	RL(斜)、沈線	最花
65	33	CSK	18	確	LR(横)、沈線	円筒上層e
65	34	CSK	18	3	無文帯、沈線	最花
65	35	CSK	18	フク土	LR(横)、渦巻き状沈線	複林
66	38	CSK	19	底面	口唇突起(貼付)、口唇肥厚(RL押)、RL	円筒上層d・e
66	39	CSK	19	2	LR押、RL(横)	円筒下層d2
66	40	CSK	19	2	突起(貼付、RL?押)、沈線	円筒上層e
66	41	CSK	19	フク土	突起(貼付)、円孔、RLR、沈線	円筒上層e
66	42	CSK	19	2	口唇肥厚(貼付、LR押)、沈線	円筒上層e
66	43	CSK	19	フク土	RL(横)、沈線	円筒上層e
66	47	CSK	20		結束第一種、貼付(刻み)	円筒上層d
66	48	CSK	21	確	結束第一種	中期中半
66	49	CSK	21	確	LR(縦)	中期中～後葉
67	53	CSK	23	8	貼付(L押)、刺突、結束第一種	円筒上層c
67	54	CSK	23	フク土	貼付(刻み)、けっそくだい	円筒上層d・e
67	55	CSK	23	4	RL(横)	円筒上層
67	56	CSK	23	フク土	突起、貼付(L押)、RL?(横)、貼付(L押)	円筒上層d
67	57	CSK	23	フク土	LR	円筒上層
67	58	CSK	23	フク土	RL(横)、沈線	円筒上層e
67	59	CSK	23	11	RL(横)、沈線	
67	60	CSK	23	フク土	貼付(L押)	円筒上層d
67	61	CSK	23	フク土	突起(貼付)、LR(横)、沈線	円筒上層e 内面にも貼付
67	62	CSK	23	11	小突起(貼付)、RL(横)、沈線	円筒上層e
67	63	CSK	23	フク土	小突起、口唇RL押、RL(横)、沈線	円筒上層e
68	64	CSK	23	フク土	口唇貼付(L押)、橋状取っ手	円筒上層d・e
68	65	CSK	23	フク土	口唇肥厚(RL押)、沈線	円筒上層e
68	66	CSK	23	11,フク	突起、LR(横)	
68	67	CSK	23	フク土	突起(貼付)、LR(横)	
68	68	CSK	23	フク土	突起(貼付)	円筒上層d・e 内面にも貼付
68	69	CSK	23	フク土	突起(環状貼付)、口唇RL押、RL(横)	円筒上層d・e
68	70	CSK	23	フク土	LR(横)、沈線	
68	71	CSK	23	11	突起(RL押)、RL(横)	円筒上層d・e
68	72	CSK	23	フク土	突起(RL押)、RL(横)	円筒上層d・e
68	73	CSK	23	11	口唇肥厚(LR押)、RL(横)	円筒上層d・e
68	74	CSK	23	フク土	折り返し口縁、無文帯、LR(縦)	中期後葉
69	82	CSK	26	3	結束第一種、貼付(刻み)	円筒上層d
69	83	CSK	26	3,フク	結束第一種、貼付(刻み)	円筒上層d
69	85	CSK	31	1	LR(横)、沈線	円筒上層e
69	92	CSK	35	1	RL(横)、R結節回転	円筒上層
69	93	CSK	40	1,確	口唇上面刻み、LR(横)、沈線	円筒上層e
69	94	CSK	40	3	突起、口唇肥厚(L押)、沈線	円筒上層e 突起内面にも貼付
69	95	CSK	40	3	突起(貼付)、口唇R押、沈線	円筒上層e
69	96	CSK	40	3	隆線(3条)、内外面に赤色顔料	大木8b?
69	97	CSK	40	2,3	RL(横)	円筒上層d・e
69	98	CSK	40	3	口唇肥厚(RL押)、RL(横)	円筒上層d・e
69	99	CSK	40	1	凹状沈線、RL(縦)、沈線	複林
70	103	CSK	41	底	RL(横)	中期中～後葉
70	106	CSK	47	フク土	LR(横)	中期中～後葉
70	107	CSK	48	1	小突起、RL(縦)	中期中～後葉
70	108	CSK	48	1	無文?	中期中～後葉
70	110	CSK	53	堆	無文帯	最花
70	111	CSK	53		RL(縦)	大木系
71	1	CSR	1		口唇肥厚(RL押)、RL	上層d・e
72	1	CSX	1	2	口唇肥厚(LR押)、LR(横)	上層d・e
72	2	CSX	1	フク土	LR(縦)	中期中葉



図	No	出土地点	層位	文様	時期	備考
72	3	CSX	1	無文?(表面剥落)	中期中葉	
74	1	CSD	2	フク土 (外面)叩き、(内面)オサエ	須恵器	
75	1	DA	25	風 L単軸絡条体6A	円筒下層b	繊維含む
75	2	DI	22	II 突起、貼付(R押)、L・R押	円筒上層a	
75	3	DB	23	I 口唇貼付、RL(横)、貼付(L押)	円筒上層d	鉢または皿形
75	4	DJ	25	II 貼付(刻み)	円筒上層d	
75	5	DJ	23	II 突起、貼付(刻み)、楕円孔	円筒上層d	
75	6	DJ	26	II 貼付	円筒上層d	
75	7	DB	25	カクラン 突起、口唇上面刻み、LR(沈線)	円筒上層e	
75	8	DJ	24	II 口唇肥厚(RL押)、RL(横)、沈線	円筒上層e	
75	9	DG	22,23	II 口唇肥厚(刻み)、LR(横)、沈線	円筒上層e	
75	10	DA	26	I 口唇上面刻み、沈線	円筒上層e	
75	11	DH	23	II RL(横)、沈線	円筒上層e	
75	12	DA	22	風 突起(沈線)、LR(横)、沈線	円筒上層e	
75	13	DH	23	II RL(縦)、沈線	大木8b?	
75	14	DE	27	II 突起、貼付、LR(横)	円筒上層d・e	
75	15	DF	22	II 突起、貼付、円孔	円筒上層d・e	
75	16	CW	26	II 突起(貼付)	上層d・e	内面にも貼付
75	17	DH	23	II 口唇肥厚、RL(横)	円筒上層d・e	
75	18	DJ	22	II 口唇LR押、LR(横)	円筒上層d・e	
75	19	DG	22	II LR(横)、沈線	円筒上層e	
75	20	CV	27	II 口唇肥厚(刻み)、LR(横)、沈線	円筒上層e	
75	21	CW	25	II 凹状沈線、RL(縦)、沈線	榎林	
75	22	DB	22	I RL(横)、沈線	円筒上層e	
75	23	DB	22	I RL(横)、沈線	円筒上層e	
75	24	DJ	24	II LR(横)、沈線	円筒上層e	
75	25	DD	22	II 渦巻き状隆線、RL(縦)	榎林	
75	26	DH	23	II RL(横)、沈線	榎林	
76	27	DJ	23	II LR(横)、沈線	中期後葉	
76	28	DJ	27	II LR(斜)、沈線	榎林	
76	29	DJ	22	II 凹状沈線、RLR(斜)	榎林	
76	30	DB	23	I 無文帯	中期後葉	
76	31	DH	23	II 波状口縁、LR(縦)、沈線	榎林	
76	32	DI	22	II 無文帯、LR(縦・斜)、沈線(縦位・波状)	最花	
76	33	DJ	26	II 無文帯、刺突、RL(斜)	最花	
76	34	DJ	27	II 無文帯、円形刺突、LR(縦)	最花	
76	35	DJ	24	II 円形刺突、LR(縦)	最花	
76	36	CY	24	I RL(横)、沈線	最花	
76	37	CY	24	I LR(縦)、沈線	最花	
76	38	DJ	26	II RL(横)、沈線	最花	
76	39	DJ	22	II RL(横)、沈線	最花	
76	40	DJ	24	II LR(縦)、沈線(縦位・波状)	最花	
76	41	DJ	27	II LR(縦)、沈線	最花	
76	42	DI	27	II LR(縦・横)、沈線	最花	
76	43	DD	23	カクラン 折り返し口縁、LR(横)	中期後葉	
76	44	DJ	27	II 折り返し口縁、無文帯、LR(縦)	中期後葉	
76	45	DJ	23	II 沈線	十腰内I	
76	46	DJ	24	II 櫛歯状沈線	十腰内I	
76	47	DI	24	II RL(横)	中～後期	
76	48	DI	24	II RL(縦)	中～後期	
76	49	DC	28	I LR(横)、沈線	大洞A	
76	50	CX	25	II RL帯縄文	続縄文	
76	51	CX	25	II RL帯縄文	続縄文	

## B区 土製品観察表

図	No	出土地点	層位	文様	種類	備考
33	1	EB	21	I 貼付、L押、RL(横)	ミニチュア土器	円筒上層d・e
33	2	EW	21	I RL(縦)、沈線?	ミニチュア土器	
33	3	FK	17	III 無文、台部	ミニチュア土器	
33	4	B区		排土 無文	ミニチュア土器	

## C区 土製品観察表

図	No	出土地点	層位	文様	種類	備考
69	91	CSK	33	フク土 無文	三角形土製品	
70	104	CSK	41	底面 RL、沈線	ミニチュア土器	
76	52	CY	23	III 無文	三角形土製品	

B区 剥片石器観察表

図	番号	器種	出土遺構		グリッド	層位	S番	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石質	備考	整番	
4	7	削器Ⅲ類	05	BSI	101		覆土	4	52.0	46.0	15.0	19.6	珩質頁岩		ハク96
17	16	削器Ⅱ類	05	BSK	112		1	3	46.0	34.0	14.0	23.2	珩質頁岩		ハク99
17	17	削器Ⅲ類	05	BSK	112		底面	1	76.0	54.0	15.0	40.8	珩質頁岩		ハク97
17	18	削器Ⅲ類	05	BSK	112		底面	2	53.0	56.0	17.0	39.4	珩質頁岩		ハク98
18	25	石鏃	05	BSK	115		3	3	29.3	11.4	5.7	1.4	珩質頁岩	火バネによる欠損。	ハク100
23	21	石筥	04	BSX	1	EO 22	ヘルト <sup>②</sup> 黒	×	59.7	38.4	13.9	31.0	珩質頁岩		ハク14
23	22	削器Ⅱ類	04	BSX	1		黒	×	42.0	42.0	18.0	23.8	珩質頁岩		ハク15
23	23	削器Ⅲ類	04	BSX	1	EM 21	黒	7	46.0	40.0	12.0	16.7	珩質頁岩		ハク16
29	1	石鏃	04	B区	沢A	FK 15	3	1	42.0	20.0	10.0	6.9	石英	未製品。	ハク28
29	2	石匙	04	B区	沢A	FM 16	4	94	83.6	41.8	13.8	37.6	石英	アスファルト付着。	ハク22
29	3	石筥	04	B区	沢A	FL 16	5	92	35.3	32.5	13.2	13.8	珩質頁岩	欠損。	ハク24
29	4	石筥	04	B区	沢A	FK 15	3	63	57.6	35.6	14.6	21.9	珩質頁岩	未製品。	ハク29
29	5	石鏃	04	B区	沢A	FM 16	4	120	51.8	33.2	10.5	8.3	珩質頁岩		ハク21
29	6	搔器	04	B区	沢A	FL 13	3	28	54.0	53.0	19.0	40.6	珩質頁岩		ハク25
29	7	削器Ⅱ類	05	B区	沢A	FM 17	3	×	67.0	50.0	15.0	41.5	凝灰質珩質頁岩		ハク111
29	8	削器Ⅱ類	04	B区	沢A	FL 13	4	×	75.2	58.5	25.3	113.4	珩質頁岩	刃部に強度の摩耗有り。	ハク17
29	9	削器Ⅱ類	04	B区	沢A	FM 16	4	93	27.0	28.0	16.0	7.8	凝灰質珩質頁岩		ハク18
29	10	削器Ⅱ類	04	B区	沢A	FM 16	4	93	38.0	28.0	12.0	10.1	石英		ハク20
29	11	削器Ⅱ類	04	B区	沢A	FM 16	4	93	35.5	43.7	13.3	19.8	珩質頁岩		ハク23
29	12	削器Ⅱ類	04	B区	沢A	FM 15	4	152	38.6	40.5	15.0	21.4	珩質頁岩		ハク26
32	1	石槍	05	B区	沢B	ED 19	Ⅲ	×	47.6	25.4	12.5	12.6	珩質頁岩		ハク123
38	1	石鏃	04	B区		FM 17	Ⅲ	81	34.7	14.3	6.6	2.9	珩質頁岩		ハク84
38	2	石鏃	04	B区		FK 16	Ⅲ	260	25.7	10.8	5.4	1.6	珩質頁岩	未製品？欠損。	ハク33
38	3	石鏃	04	B区		FL 16	Ⅲ	95	34.4	14.7	8.1	3.2	珩質頁岩		ハク53
38	4	石鏃	04	B区		FL 18	Ⅲ	215	41.0	16.7	7.0	4.0	珩質頁岩		ハク45
38	5	石鏃	04	B区		FN 18	Ⅲ	282	29.9	13.6	6.0	2.1	瑪瑙		ハク88
38	6	石鏃+石鏃	04	B区		FK 18	Ⅲ	51	32.1	14.2	7.3	2.7	珩質頁岩	石鏃を石鏃に転用している。	ハク30
38	7	石鏃	04	B区		FK 16	Ⅲ	131	27.4	14.0	4.6	1.2	珩質頁岩	火バネによる欠損。	ハク39
38	8	石槍	04	B区		FL 19	Ⅲ	184	51.9	20.4	9.1	8.9	珩質頁岩	未製品。	ハク46
38	9	石槍	04	B区		FK 18	Ⅲ	265	28.3	16.8	10.8	4.2	石英	未製品、欠損。	ハク32
38	10	石槍	04	B区		FK 16	Ⅲ	243	29.0	21.0	8.0	7.9	珩質頁岩	未製品、欠損。	ハク34
38	11	石槍	04	B区		FK 17	Ⅲ	118	54.6	22.4	9.1	11.9	珩質頁岩		ハク31
38	12	石槍	04	B区		FL 18	Ⅲ	199	72.1	26.6	12.8	22.5	珩質頁岩	未製品。	ハク47
38	13	石筥	05	B区		EG 22	Ⅲ	×	52.9	44.0	18.4	29.1	珩質頁岩	刃部を搔器状に加工。	ハク129
38	14	石筥	04	B区		EO 21	Ⅱ	×	57.4	26.4	10.2	12.9	珩質頁岩		ハク78
38	15	石筥	04	B区		FM 18	I	149	60.0	23.0	14.0	16.9	珩質頁岩	未製品。	ハク81
38	16	石筥	04	B区		EW 20	I	×	56.3	30.8	12.8	20.6	珩質頁岩	裏面下部に光沢あり。	ハク76
38	17	石鏃	05	B区		EJ 21	Ⅲ	×	55.1	44.3	15.0	24.9	珩質頁岩		ハク119
38	18	石鏃	05	B区		EA 20	I	×	33.9	27.6	10.1	9.0	珩質頁岩	鏃部摩耗。	ハク103
38	19	石鏃	05	B区		EG 19	Ⅲ	×	45.7	22.1	15.5	9.3	珩質頁岩		ハク113
38	20	石鏃	04	B区		FM 19	Ⅲ	279	44.3	31.6	10.7	10.2	珩質頁岩		ハク83
38	21	搔器	04	B区		EM 20	Ⅱ	×	64.2	50.4	21.0	31.7	珩質頁岩		ハク82
38	22	搔器	05	B区		DX 24	Ⅲ	×	62.0	45.9	13.1	24.6	石英	両面加工石器から剥離された剥片か？	ハク110
38	23	搔器+削器Ⅰ類	05	B区		EG 20	Ⅲ	×	40.8	73.2	10.0	19.4	黒色片岩	刃部が搔器状をなす。裏面下部を鏃としても使用か？	ハク109
39	24	搔器	04	B区		FL 19	Ⅲ	292	54.0	44.0	17.0	37.2	珩質頁岩		ハク44
39	25	搔器	04	B区		FK 16	Ⅲ	126	33.0	38.0	8.0	11.6	珩質頁岩	欠損。	ハク38
39	26	搔器	05	B区		EB 21	I	×	41.5	30.7	12.8	16.5	流紋岩	欠損。	ハク108
39	27	削器Ⅰ類	04	B区		FL 18	Ⅲ	73	51.7	43.0	11.0	26.7	珩質頁岩		ハク55
39	28	削器Ⅰ類	04	B区		EL 20	I	×	74.2	35.2	10.0	19.3	珩質頁岩		ハク42
39	29	削器Ⅰ類	04	B区		FK 16	Ⅲ	123	45.7	40.3	13.9	22.6	石英	アスファルト付着。その刃辺は素刃か？微小剥離層。	ハク40
39	30	削器Ⅰ類	04	B区		FL 18	Ⅲ	65	53.0	61.0	15.0	34.3	珩質頁岩		ハク50
39	31	削器Ⅱ類	04	B区		FL 18	Ⅲ	218	59.7	53.2	13.4	37.3	珩質頁岩	裏面右辺に使用光沢あり。	ハク48
39	32	削器Ⅱ類	04	B区		FL 18	Ⅲ	63	38.5	36.2	11.4	12.4	珩質頁岩		ハク51
39	33	削器Ⅱ類	05	B区		EB 21	I	×	39.6	37.4	12.5	13.3	珩質頁岩		ハク120
39	34	削器Ⅱ類	04	B区		FJ 16	Ⅲ	100	68.0	40.0	13.0	29.6	珩質頁岩		ハク86
39	35	削器Ⅱ類	04	B区		EL 20	I	×	32.0	47.0	10.0	8.8	珩質頁岩	ノッチとして使用？欠損。	ハク43
39	36	削器Ⅱ類	04	B区		EO 21	Ⅱ	×	62.5	29.8	7.3	10.6	珩質頁岩		ハク79
39	37	削器Ⅱ類	04	B区		FL 18	Ⅲ	70	26.0	22.0	7.0	3.4	珩質頁岩		ハク49
39	38	削器Ⅱ類	04	B区		FL 15	Ⅱ	×	62.0	40.3	11.1	18.5	珩質頁岩	つまみを作出した石鏃未製品の可能性あり。	ハク54
39	39	削器Ⅱ類	04	B区		FK 16	Ⅲ	233	52.0	28.0	8.0	7.5	珩質頁岩		ハク35
39	40	削器Ⅱ類	04	B区		FL 16	Ⅲ	90	60.0	20.0	10.0	7.8	珩質頁岩		ハク52
40	41	削器Ⅱ類	05	B区		ED 21	I	×	79.0	49.0	21.0	55.4	凝灰質珩質頁岩		ハク102
40	42	削器Ⅱ類	05	B区		DY 21	I	×	58.6	51.6	13.9	38.3	珩質頁岩		ハク116
40	43	削器Ⅱ類	04	B区		FK 16	Ⅲ	247	40.3	53.2	16.0	25.6	珩質頁岩		ハク37
40	44	削器Ⅱ類	05	B区		EA 20	I	×	43.5	51.2	11.3	19.0	珩質頁岩	アスファルト付着	ハク122
40	45	削器Ⅲ類	05	B区		EB 20	I	×	71.0	43.0	15.0	30.6	凝灰質珩質頁岩		ハク107
40	46	削器Ⅲ類	05	B区		EA 20	I	×	93.0	42.0	20.0	70.5	珩質頁岩		ハク106
40	47	削器Ⅲ類	04	B区		EJ 21	Ⅱ	×	38.0	41.0	13.0	11.5	珩質頁岩		ハク75
40	48	削器Ⅲ類	05	B区		DW 21	I	×	50.0	54.0	12.0	21.8	珩質頁岩		ハク118
40	49	剥片	04	B区		ER 20	攪乱	×	41.0	30.0	25.0	12.5	珩質頁岩	火バネによって剥落。ノッチとして使用。	ハク80
40	50	剥片	04	B区		FJ 17	Ⅲ	102	54.0	51.0	13.0	44.2	石英	敲石から剥離された剥片。	ハク87
40	51	石核	04	B区		FK 18	Ⅲ	50	53.1	52.8	20.5	63.9	珩質頁岩	円盤状石核、二次調整あり。	ハク41
40	52	石核	05	B区		EF 22	Ⅲ	×	103.0	97.0	38.0	381.6	泥岩	被熱。右辺を刃部とする機器の可能性有り。	レキ235

B区 礫石器観察表

図	番号	器種	出土遺構		グリッド	層位	S番	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石質	備考	整番			
7	12	礫	05	BSI	102 Pit1			×	49.0	97.5	15.0	67.5	デイサイト	敲磨器類の一部か？剥落片。	キ221		
7	13	磨石+敲石Ⅰ類	05	BSI	102 Pit1			×	156.0	72.0	36.0	605.2	緑色凝灰岩		キ222		
8	3	敲石Ⅱ類	05	BSI	103			×	125.5	62.0	40.0	352.9	凝灰岩		キ223		
17	12	磨石+敲石Ⅱ類+凹石	05	BSK	111			×	103.0	55.0	40.0	370.1	デイサイト		キ226		
19	39	磨石	05	BSK	125	EF	22	3	2	151.0	79.0	33.5	689.9	緑色凝灰岩		キ224	
23	24	敲石Ⅱ類	04	BSX	1	EM	21	黒	111	75.0	44.0	17.0	79.2	凝灰岩		キ126	
30	13	磨製石斧	04	B区	沢A	FL	13	4	×	88.0	38.0	13.0	70.5	片岩		キ168	
30	14	磨製石斧	04	B区	沢A	FL	13	4	×	118	44.0	29.0	18.0	43.9	玢岩	擦り切り痕あり。欠損。	キ144
30	15	磨製石斧	04	B区	沢A	FM	16	4	73	29.0	14.0	11.0	2.8	片岩	剥落片。	キ199	
30	16	磨製石斧	04	B区	沢A	FK	13	3	31	87.0	22.0	9.0	17.6	緑色片岩	剥落片。	キ227	
30	17	磨石	04	B区	沢A	FM	15	4	137	209.0	116.0	25.0	623.2	デイサイト		キ158	
30	18	磨石	04	B区	沢A	EL	21	Ⅱ	×	134.0	68.0	50.0	674.0	流紋岩		キ128	
30	19	磨石	04	B区	沢A	FM	15	4	139	119.0	90.0	75.0	945.0	凝灰岩		キ159	
30	20	磨石	04	B区	沢A	FM	15	4	109	68.0	80.0	49.0	328.8	流紋岩	ミガキあり。欠損。	キ155	
30	21	磨石+敲石Ⅱ類	04	B区	沢A	FM	15	3	56	108.0	74.0	48.0	551.1	流紋岩		キ135	
30	22	磨石+敲石Ⅱ類	04	B区	沢A	FM	16	3	49	190.0	78.0	60.0	1,182.1	流紋岩		キ140	
30	23	敲石Ⅰ・Ⅱ類	04	B区	沢A	FM	15	4	149	99.0	78.0	23.0	187.7	流紋岩		キ162	
30	24	敲石Ⅰ類？	05	B区	沢A	FL	14	×	68.5	46.0	30.0	46.3	凝灰岩	線刻・擦痕あり	キ238		
30	25	敲石Ⅰ類	04	B区	沢A	FM	15	5	104	93.0	55.0	36.0	257.8	流紋岩	欠損した石器を再利用。	キ153	
30	26	敲石Ⅰ類	04	B区	沢A	FM	15	4	146	48.0	46.0	26.0	41.8	細粒凝灰岩	擦痕あり。敲打による欠損(剥落)。	キ161	
30	27	敲石Ⅱ類	05	B区	沢A	FL	14	×	95.0	66.0	52.0	423.4	デイサイト		キ230		
30	28	敲石Ⅱ類	04	B区	沢A	FM	15	4	111	109.0	42.0	38.0	253.5	流紋岩		キ156	
31	29	敲石Ⅱ類	04	B区	沢A	FM	15	3	57	160.0	73.0	50.0	868.3	粗粒玄武岩		キ136	
31	30	敲石Ⅱ類	04	B区	沢A	FL	15	5	114, 128	143.0	71.0	50.0	651.3	デイサイト	S-114は4層、S-128は5層からの出土	キ150	
31	31	敲石Ⅱ類	04	B区	沢A	FM	15	4	150	123.0	92.0	56.0	530.9	流紋岩		キ163	
31	32	敲石Ⅱ類	04	B区	沢A	FK	13	4	185	78.0	73.0	35.0	199.7	流紋岩		キ166	
31	33	敲石Ⅱ類+凹石	04	B区	沢A	FL	14	4	188	74.0	42.0	22.0	81.2	細粒凝灰岩	欠損。	キ169	
31	34	敲石Ⅱ類	04	B区	沢A	FM	15	4	155	118.0	54.0	42.0	325.8	凝灰岩		キ173	
31	35	凹石+石錘	04	B区	沢A	FL	15	3	×	111.0	90.0	23.0	184.0	凝灰岩		キ170	
31	36	石皿+台石+凹石	04	B区	沢A	FM	16	3	47	207.0	155.0	65.0	1,305.5	細粒凝灰岩	凹み、擦痕、敲きあり。欠損。	キ137	
31	37	石皿	04	B区	沢A	EN	20	Ⅱ	×	135.0	69.0	51.0	400.7	デイサイト	欠損。	キ130	
31	38	石皿	04	B区	沢A	FM	16	3	48	111.0	95.0	28.0	328.9	流紋岩	欠損。	キ139	
31	39	石皿+敲石	04	B区	沢A	FM	15	4	145	70.0	88.0	65.0	476.4	流紋岩	欠損。	キ160	
31	40	擦切具	04	B区	沢A	FM	16	3	46	81.0	70.0	9.0	58.9	ホルンフェルス		キ138	
32	2	石皿	05	B区	沢B	FC-FD	17	7	×	269.0	167.0	29.0	1,498.8	流紋岩	擦痕・磨りあり。	キ249	
41	53	磨製石斧	04	B区		FN	17	Ⅰ	150	100.0	41.0	92.0	144.2	緑色細粒凝灰岩	刃部欠損。	キ100	
41	54	磨製石斧+凹石	05	B区		DX	24	Ⅲ	×	126.0	57.0	32.0	416.0	緑色凝灰岩	刃部欠損、欠損部で敲打している。	キ240	
41	55	扁平打製石器？	05	B区		EL	19	攪乱	×	94.0	75.0	27.5	259.8	デイサイト	欠損。	キ225	
41	56	扁平打製石器	05	B区		EE	21	Ⅰ	×	72.0	59.0	18.0	95.6	凝灰岩	剥落片。	キ237	
41	57	挟入扁平打製石器	04	B区		FL	17	Ⅳ	251	64.0	86.0	32.0	199.4	流紋岩	欠損。	キ114	
41	58	北海道式石冠	04	B区		FK	19	Ⅲ	175	132.0	71.0	48.0	739.4	安山岩		キ92	
41	59	北海道式石冠	05	B区		EB	20	Ⅰ	×	89.0	86.0	59.0	542.5	デイサイト	欠損。	キ228	
41	60	北海道式石冠	05	B区		EA	20	Ⅰ	×	66.0	70.0	44.5	287.6	デイサイト	欠損。	キ241	
41	61	北海道式石冠	05	B区		EA	20	Ⅰ	×	95.0	66.0	50.0	376.4	ヒン岩	欠損。	キ246	
41	62	北海道式石冠	05	B区		DX	24	Ⅲ	×	113.0	73.5	38.0	447.1	粗粒玄武岩		キ244	
41	63	磨石+凹石	05	B区		EB	20	Ⅰ	×	97.0	70.5	48.5	443.2	デイサイト	欠損。	キ232	
41	64	磨石	05	B区		EH	22	Ⅲ	×	81.0	91.0	38.0	384.6	凝灰岩	欠損。	キ245	
41	65	磨石	05	B区		EB	21	Ⅰ	×	72.0	64.0	50.0	317.4	デイサイト	欠損。	キ243	
41	66	磨石	04	B区		FM	17	Ⅲ	221	164.0	92.0	36.0	923.4	玢岩		キ122	
41	67	磨石	04	B区		FL	18	Ⅲ	214	154.0	78.0	35.0	673.6	安山岩		キ116	
42	68	磨石	05	B区		EA	22	Ⅰ	×	134.0	66.5	29.0	310.0	緑色凝灰岩		キ247	
42	69	磨石	05	B区		DX	24	Ⅲ	×	63.5	54.5	36.5	138.4	デイサイト	欠損。	キ233	
42	70	磨石	05	B区		EF	20	Ⅲ	×	57.0	67.0	32.5	136.8	凝灰岩	欠損。	キ248	
42	71	磨石	04	B区		FM	15	Ⅰ	×	48.0	74.0	49.0	514.3	砂岩	欠損。	キ75	
42	72	磨石	05	B区		DY	20	Ⅰ	×	89.5	60.5	32.5	145.3	流紋岩	欠損。	キ242	
42	73	磨石	04	B区		FL	19	Ⅲ	188	198.0	66.0	44.0	661.0	流紋岩	欠損？	キ96	
42	74	磨石+敲石Ⅱ類	04	B区		FK	16	Ⅲ	190	66.0	81.0	55.0	362.5	凝灰質砂岩	被熱、火バネによる欠損。	キ106	
42	75	磨石+敲石Ⅰ・Ⅱ類+凹石	04	B区		FL	15	Ⅱ	×	96.0	71.0	57.0	496.1	流紋岩	欠損部で敲打している。	キ80	
42	76	敲石Ⅰ・Ⅱ類	04	B区		FL	17	Ⅲ	193	102.0	60.0	47.0	446.4	流紋岩		キ112	
42	77	磨石+敲石Ⅰ類+凹石	04	B区		FK	17	Ⅲ	242	120.0	84.0	50.0	551.6	流紋岩		キ110	
42	78	敲石Ⅰ類+凹石	04	B区		FM	17	Ⅲ	225	137.0	49.0	31.0	223.2	流紋岩		キ121	
42	79	敲石Ⅰ・Ⅱ類	05	B区		EE	21	Ⅰ	×	105.5	77.0	47.0	500.5	流紋岩		キ234	
42	80	敲石Ⅰ類	04	B区		FK	19	Ⅲ	174	66.0	41.0	30.0	101.3	珪質頁岩		キ91	
43	81	敲石Ⅰ類	05	B区		DX	20	Ⅰ	×	72.5	48.5	45.0	213.1	流紋岩		キ239	
43	82	敲石Ⅰ類	05	B区		DX	24	Ⅲ	×	59.9	63.4	27.6	118.3	珪質頁岩		キ121	
43	83	敲石Ⅱ類	05	B区		EH	20	Ⅲ	×	69.0	48.0	14.0	55.5	砂岩	欠損。	キ227	
43	84	敲石Ⅱ類	04	B区		FK	15	Ⅰ	×	124.0	66.0	35.0	297.7	デイサイト	欠損。	キ78	
43	85	敲石Ⅱ類	04	B区		FN	17	Ⅲ	159	144.0	56.0	39.0	344.4	流紋岩	欠損。	キ104	
43	86	敲石Ⅱ類	04	B区		FL	18	Ⅳ	276	148.0	76.0	61.0	1,038.2	流紋岩		キ118	
43	87	敲石Ⅱ類	04	B区		FM	17	Ⅳ	277	134.0	61.0	47.0	446.6	流紋岩		キ123	
43	88	敲石Ⅱ類	04	B区		FK	17	Ⅲ	231	118.0	48.0	42.0	316.3	流紋岩		キ108	
43	89	敲石Ⅱ類	04	B区		FK	17	Ⅲ	62	121.0	52.0	35.0	249.0	安山岩	欠損。	キ83	
43	90	敲石Ⅱ類	04	B区		FN	17	Ⅰ	151	72.0	52.0	46.0	207.4	安山岩		キ101	
43	91	敲石Ⅱ類	04	B区		FK	18	Ⅲ	59	71.0	54.0	34.0	119.2	頁岩		キ88	
43	92	敲石Ⅲ類+凹石	04	B区		FL	18	Ⅳ	293	103.0	80.0	62.0	530.8	流紋岩		キ124	
43	93	敲石Ⅲ類	05	B区		EC	23	Ⅲ	×	55.0	64.0	55.0	271.4	石英		キ236	
43	94	凹石	04	B区		FK	17	Ⅲ	191	130.0	102.0	39.0	381.6	砂岩	凹みが貫通している。	キ107	
43	95	凹石	04	B区		FK	19	Ⅲ	172	88.0	54.0	35.0	129.7	流紋岩	欠損。	キ90	
43	96	凹石	04	B区		FL	18	Ⅲ	200	87.0	61.0	49.0	216.4	流紋岩		キ115	
43	97	石錘？	05	B区		DW	21	Ⅰ	×	145.0	86.0	35.0	669.4	斑岩	磨石の未使用品？	キ229	
44	98	石皿	05	B区		EB	25	Ⅱ	×	350.0	249.0	131.0	10,820.0	デイサイト	欠損。	キ250	
44	99	石皿	04	B区		FM	18	Ⅱ	144	217.0	127.0	61.0	2,511.7	花崗砂岩		キ99	
44	100	石皿	04	B区		FM	18	Ⅳ	294	293.0	223.0	106.0	8,600.0	デイサイト		キ210	
44	101	石皿	05	B区		EE	22	Ⅰ	×	125.0	78.0	49.0	710.9	ヒン岩	欠損。	キ231	
44	102	台石	04	B区		FM	19	Ⅳ	295, 296	349.0	190.0	87.0	4,454.6	粗粒玄武岩	弱い敲き、欠損。	キ125	
44	103	台石	04	B区		FK	17	Ⅲ	160	171.0	123.0	48.0	1,169.8	安山岩	凹みあり、欠損。	キ84	
44	104	石皿	04	B区			17	Ⅲ	194	124.0	93.0	36.0	297.0	流紋岩	欠損。	キ113	

## B区 石製品観察表

図	番号	器種	出土遺構			グリッド	層位	S番	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石質	備考	整番	
31	41	軽石製品	04	B区	沢A	FJ	14	3	45	42.0	42.0	40.0	15.2	軽石	分銅型。	レキ132
31	42	石製品	04	B区	沢A	FM	16	3	54	70.0	24.0	20.0	28.0	細粒凝灰岩	装身具？貫通孔2ヶ、上端に穴1ヶ。	レキ141
44	105	石製品	05	B区		EG	22	Ⅲ	×	60.0	33.0	4.0	10.0	千枚岩	未製品？、欠損。	ハク101

## C区 剥片石器観察表

図	番号	器種	出土遺構			グリッド	層位	S番	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石質	備考	整番	
48	8	石匙	04	CSI	01		床直	22	52.0	14.0	5.4	2.6	珩質頁岩		ハク2	
48	9	石篋	04	CSI	01		床面	4	41.4	22.6	8.5	6.6	珩質頁岩		ハク3	
51	10	石鏃	04	CSI	02			1	34.6	14.7	5.3	2.4	珩質頁岩	アスファルト付着。	ハク4	
64	6	石鏃	04	CSK	02			3	×	35.4	13.9	7.7	2.8	珩質頁岩	欠損？	ハク5
64	10	削器Ⅲ類	04	CSK	03			1	1	47.0	42.0	14.0	25.1	珩質頁岩		ハク6
64	16	石槍	04	CSK	08			1	1	84.0	27.8	15.2	29.0	珩質頁岩		ハク7
65	36	石鏃	04	CSK	18			2	×	33.8	14.0	5.7	1.3	珩質頁岩	火バネによる欠損。	ハク9
65	37	搔器	04	CSK	18			6	×	42.0	35.0	11.0	21.6	珩質頁岩		ハク8
66	50	削器Ⅱ類	04	CSK	21		確認面	×	×	20.0	25.0	5.0	2.6	珩質頁岩		ハク10
66	51	石槍	04	CSK	22		確認面	×	×	71.8	23.1	11.2	15.0	珩質頁岩		ハク11
68	75	削器Ⅰ類	04	CSK	23		覆土	×	×	83.7	37.7	10.6	26.2	珩質頁岩		ハク12
70	100	削器Ⅱ類	05	CSK	40		覆土上位	×	×	20.0	21.0	3.0	1.0	石英		ハク91
70	101	削器Ⅱ類	05	CSK	40			3	2	51.0	31.0	17.0	25.9	珩質頁岩		ハク92
70	102	剥片	05	CSK	40			2	3	31.4	51.8	11.3	11.0	珩質頁岩		ハク93
73	1	削器Ⅱ類	05	CSD	01		覆土	×	×	48.3	32.4	16.0	16.5	珩質頁岩	基部を作出し、石鏃としようとした可能性有り。	ハク94
77	1	石鏃	04	C区		DC	25	I	×	29.8	14.2	5.1	1.8	珩質頁岩	欠損。	ハク61
77	2	石鏃	04	C区		DB	25	I	×	23.9	9.6	2.8	0.7	珩質頁岩	欠損。	ハク60
77	3	石鏃	04	C区	攪乱			41	×	44.2	15.0	7.8	4.4	珩質頁岩		ハク65
77	4	石鏃	04	C区		DH	24	I	×	41.7	13.9	6.0	3.5	珩質頁岩	欠損。	ハク68
77	5	石鏃	04	C区		CQ	24	Ⅳ	×	37.3	17.1	6.5	2.6	珩質頁岩		ハク89
77	6	石鏃	04	C区		DJ	26	Ⅱ	32	47.3	14.7	5.3	3.2	珩質頁岩	基部にアスファルト付着。	ハク66
77	7	石槍	04	C区		DB	23	I	×	48.9	23.7	13.4	15.1	珩質頁岩	未製品。	ハク72
77	8	石匙	04	C区	攪乱	DG	27	×	×	72.4	32.8	9.1	15.4	珩質頁岩		ハク69
77	9	石篋	04	C区		DH	23	Ⅱ	13	61.7	27.5	13.7	18.5	珩質頁岩	未製品。	ハク59
77	10	石篋？	04	C区		DE	27	Ⅱ	×	19.3	37.7	9.9	6.1	珩質頁岩	刃部の断片？	ハク71
77	11	搔器	04	C区		DA	25	I	×	27.0	49.0	12.0	13.9	珩質頁岩		ハク74
77	12	削器Ⅰ類	04	C区		DB	23	I	×	49.6	40.1	14.2	21.3	珩質頁岩		ハク73
77	13	削器Ⅰ類	04	C区		DE	27	Ⅱ	×	21.0	35.0	10.0	6.6	珩質頁岩	火バネ。	ハク70
77	14	削器Ⅱ類	04	C区		DC	25	I	×	27.0	37.0	12.0	9.0	珩質頁岩		ハク62
77	15	削器Ⅱ類	04	C区		DH	26	Ⅱ	×	56.0	41.0	10.0	13.3	珩質頁岩		ハク67
77	16	削器Ⅱ類	04	C区		DB	28	I	×	28.0	24.0	6.0	2.9	珩質頁岩		ハク63
77	17	削器Ⅱ類	05	C区		CB	26	I	×	71.0	38.0	19.0	31.3	珩質頁岩		ハク95
77	18	削器Ⅱ類+石鏃	04	C区		DJ	24	Ⅱ	×	52.5	69.7	11.0	25.3	珩質頁岩	刃部に光沢あり。	ハク64
78	19	削器Ⅲ類	04	C区		CV	24	Ⅱ	7	53.0	42.0	12.0	18.1	珩質頁岩		ハク58
78	20	石核	04	C区		DJ	24	Ⅱ	11	51.0	44.0	41.0	66.3	珩質頁岩		ハク57

C区 礫石器観察表

図	番号	器種	出土遺構		グリッド	層位	S番	長さ (mm)	巾 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石質	備考	整備
49	10	敲石Ⅱ類	04	CSI 01		床面(炉)	28	114.0	88.0	65.0	736.2	デイサイト		レキ11
49	11	台石	04	CSI 01		床直	8	178.0	129.0	74.0	1,961.9	安山岩	擦痕あり。	レキ4
49	12	台石	04	CSI 01		床面(炉)	30	147.0	83.0	73.0	631.7	粗粒玄武岩	擦痕あり。	レキ13
49	13	台石(玉砥石?)	04	CSI 01		床面(炉)	25	211.0	152.0	58.0	2,356.9	デイサイト	玉類等を研いだような溝状の凹みあり。	レキ8
49	14	台石	04	CSI 01		床面(炉)	32	203.0	165.0	85.0	4,807.3	安山岩		レキ15
49	15	台石(凹石)	04	CSI 01		床直	10	193.0	161.0	77.0	2,210.6	凝灰岩	敲打による凹み多数。	レキ5
49	16	石皿	04	CSI 01		床直	23,24	264.0	245.0	76.0	3,255.4	流紋岩	外面敲き、内面は敲きと磨りにより整形。	レキ6
51	11	北海道式石冠	04	CSI 02		1	1	136.0	87.0	52.0	732.1	デイサイト	磨り面なし、未製品。	レキ20
51	12	磨石	04	CSI 02		1	4	52.0	65.0	28.0	130.4	粗粒玄武岩	欠損。	レキ19
51	13	敲石Ⅲ類	04	CSI 02		1	2	78.0	78.0	61.0	419.7	安山岩	欠損。	レキ18
53	8	敲石Ⅲ類	04	CSI 03		1	4	108.0	86.0	54.0	661.8	粗粒玄武岩	被熱、黒色物付着。	レキ22
53	9	被熱礫	04	CSI 03		1	2	103.0	78.0	60.0	536.7	流紋岩	全体的に被熱し、ハジケによる剥落。	レキ21
53	10	石皿	04	CSI 03		床面(炉)	1	122.0	86.0	72.0	955.4	安山岩	内面は部分的に凹み、外面は磨り整形。	レキ23
55	6	敲石Ⅲ類	04	CSI 04		床面	1	66.0	54.0	34.0	132.3	玉髓		レキ24
55	7	敲石Ⅱ類	04	CSI 04		床面	2	234.0	83.0	63.0	1,996.1	流紋岩		レキ25
65	22	台石	04	CSK 09		2	1	79.0	72.0	61.0	362.8	デイサイト	欠損。	レキ26
65	24	磨石	04	CSK 10	DD 26	確認面	×	135.0	82.0	45.0	794.2	安山岩		レキ27
66	44	磨製石斧	04	CSK 19		壁面	×	106.0	44.0	18.0	119.7	緑色細粒凝灰岩		レキ31
66	45	敲石Ⅰ類	04	CSK 19		底面	2	250.0	75.0	46.0	1,064.3	デイサイト		レキ30
66	46	石皿	04	CSK 19		2	×	198.0	132.0	51.0	1,639.1	流紋岩	欠損。表面はわずかに波打つ。	レキ29
66	52	石皿	04	CSK 22	DG 25	底面	×	329.0	228.0	86.0	7,100.0	デイサイト	磨り・敲きあり。	レキ34
68	76	磨石+敲石Ⅱ類+石錘	04	CSK 23		覆土	×	118.0	70.0	28.0	218.4	流紋岩	欠損。	レキ32
68	77	敲石Ⅰ類	04	CSK 23		覆土	×	71.0	55.0	34.0	166.1	チャート	欠損。	レキ33
68	78	敲石Ⅰ・Ⅱ類	04	CSK 23		11	×	122.0	71.0	66.0	792.8	チャート		レキ37
68	79	扁平打製石器	04	CSK 23		11	×	63.0	54.0	23.0	66.0	頁岩	欠損。	レキ39
68	80	石皿	04	CSK 23		覆土	×	124.0	183.0	90.0	2,543.6	安山岩	磨り顕著、欠損。	レキ35
68	81	石皿	04	CSK 23		7	×	269.0	160.0	91.0	5,300.0	凝灰岩	欠損。	レキ36
69	84	磨製石斧	04	CSK 26		覆土	×	32.0	53.0	12.0	26.1	緑色凝灰岩	欠損。	レキ113
69	86	磨石	04	CSK 31		2	1	65.0	68.0	39.0	182.5	凝灰岩	欠損。	レキ40
69	87	敲石Ⅱ類+凹石	04	CSK 31		1	4	207.0	102.0	65.0	2,143.3	頁岩		レキ44
69	88	敲石Ⅱ類	04	CSK 31		2	?	76.0	58.0	45.0	237.0	デイサイト	欠損。	レキ43
69	89	敲石Ⅱ類	04	CSK 31		2	2	88.0	47.0	13.0	156.2	安山岩	欠損。	レキ41
69	90	石皿	04	CSK 31		2?	3	204.0	108.0	115.0	3,490.9	流紋岩	片面磨り顕著、欠損。	レキ42
70	105	北海道式石冠+敲石Ⅰ類	05	CSK 41		底面直上	1	93.0	60.0	48.0	408.9	緑色凝灰岩	欠損。	レキ219
70	109	敲石Ⅰ類	05	CSK 48		1	1	175.0	107.0	57.0	1,328.8	凝灰岩		レキ220
72	4	石皿	04	CSX 01		覆土	×	142.0	138.0	73.0	1,556.3	凝灰岩	裏面剥落、欠損。	レキ45
78	21	磨製石斧	04	C区	CY 26	Ⅱ	6	75.0	50.0	12.0	72.0	緑色細粒凝灰岩		レキ193
78	22	磨製石斧	04	C区	DG 23	Ⅱ	16	42.0	27.0	9.0	15.2	片岩	欠損。	レキ181
78	23	磨製石斧	04	C区	DJ 24	Ⅱ	×	27.0	14.0	3.0	1.7	緑色片岩	剥落片。	レキ90
78	24	北海道式石冠	04	C区	DJ 23	Ⅱ	26	75.0	74.0	36.0	267.4	安山岩	欠損。	レキ188
78	25	北海道式石冠	04	C区	DD 24	Ⅰ	×	141.0	72.0	52.0	877.4	安山岩	欠損。	レキ196
78	26	北海道式石冠	04	C区	DB 26	Ⅰ	×	123.0	70.0	58.0	765.0	安山岩		レキ195
78	27	北海道式石冠	04	C区	DD 24	攪乱	×	130.0	78.0	55.0	902.0	デイサイト		レキ197
78	28	磨石	04	C区	DE 26	Ⅱ	×	142.0	83.0	35.0	649.1	安山岩		レキ200
78	29	磨石	04	C区	CW 26	Ⅱ	4	111.0	62.0	30.0	276.3	安山岩	欠損。	レキ192
78	30	磨石	04	C区	DD 26	Ⅱ	×	102.0	68.0	44.0	452.2	安山岩	欠損。	レキ199
78	31	磨石	04	C区	DG 27	Ⅱ	×	63.0	97.0	37.0	307.7	安山岩	欠損。	レキ202
79	32	磨石	04	C区	CW 26	Ⅱ	3	147.0	93.0	71.0	902.4	安山岩		レキ191
79	33	磨石	04	C区	DH 23	Ⅱ	14	82.0	59.0	39.0	242.2	安山岩		レキ182
79	34	磨石	04	C区	DJ 27	Ⅱ	35	56.0	49.0	49.0	162.7	安山岩	欠損。	レキ208
79	35	磨石+敲石Ⅱ類	05	C区	CD 24	Ⅰ	×	168.0	62.0	36.0	558.6	緑色凝灰岩	敲打による剥落あり。	レキ218
79	36	敲石Ⅰ・Ⅱ類	04	C区	DH 23	Ⅱ	17	137.0	50.0	44.0	484.7	流紋岩		レキ183
79	37	敲石Ⅰ・Ⅱ類+凹石	04	C区	DI 23	Ⅱ	10	86.0	65.0	52.0	425.1	砂岩	弱い敲きあり。	レキ203
79	38	敲石Ⅰ類	04	C区	DB 23	Ⅰ	×	23.0	40.0	24.0	23.7	砂岩	欠損。	レキ194
79	39	敲石Ⅱ類	04	C区	DJ 27	Ⅱ	36	159.0	78.0	61.0	1,107.9	流紋岩	側面に擦痕あり。敲き弱い。	レキ209
79	40	敲石Ⅱ類	04	C区	DI 22	Ⅱ	21	104.0	75.0	55.0	552.4	流紋岩	敲き弱い。裏に磨り	レキ185
79	41	敲石Ⅰ・Ⅱ類	04	C区	CV 26	Ⅱ	2	69.0	71.0	50.0	284.7	デイサイト	欠損。	レキ189
79	42	敲石Ⅱ類+凹石	04	C区	DJ 27	Ⅱ	30	136.0	85.0	47.0	641.3	安山岩	敲き、擦痕有。	レキ206
79	43	石皿	04	C区	DI 23	Ⅱ	28	167.0	110.0	63.0	1,058.1	流紋岩	スス付着、欠損。	レキ186
79	44	敲石Ⅱ類	04	C区	DG 27	Ⅱ	×	102.0	50.0	21.0	135.8	流紋岩	欠損。	レキ201
79	45	礫	04	C区	DJ 27	Ⅱ	31	83.0	66.0	21.0	133.8	流紋岩	擦痕あり。	レキ207

参考文献

青森県教育委員会 1978年 『三内澤部遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第41集  
 青森県教育委員会 1998年 『三内丸山遺跡XⅠ』青森県埋蔵文化財調査報告書第251集  
 青森県教育委員会 2002年 『近野遺跡Ⅵ』青森県埋蔵文化財調査報告書第315集  
 青森県教育委員会 2005年 『三内沢部(3)遺跡・柴山(1)遺跡・洗平(2)遺跡』  
 青森県埋蔵文化財調査報告書第390集  
 青森県教育委員会 2003年 『近野遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第68集  
 青森県教育委員会 2004年 『江渡遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第75集  
 島口 天 2005年 「遺跡の地形的・地質的環境」  
 『三内沢部(3)遺跡・柴山(1)遺跡・洗平(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第390集  
 山口 義伸 1998年 「遺跡内の基本層序」『三内丸山遺跡X』青森県埋蔵文化財調査報告書第250集  
 山口 義伸 2004年 「近野遺跡周辺の地形及び地質について」  
 『三内丸山(5)遺跡Ⅱ・近野遺跡Ⅶ』青森県埋蔵文化財調査報告書第370集

# 写 真 图 版



第 B101 号竖穴住居跡完掘



第 B101 号竖穴住居跡土層断面



第 B102 号竖穴住居跡完掘



第 B102 号竖穴住居跡炉確認



第 B103 号竖穴住居跡完掘



第 C 1 号掘立柱建物跡完掘



第 C 1 号掘立柱建物跡  
Pit1 土層断面



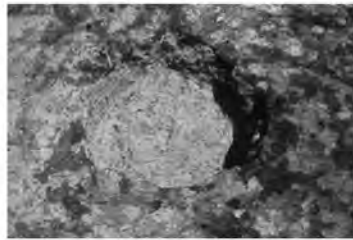
第 C 1 号掘立柱建物跡  
Pit5 土層断面



第 B1 号土坑完掘



第 B2 号土坑完掘



第 B3 号土坑完掘



第 B5 号土坑完掘



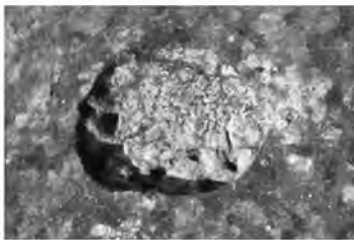
第 B6 号土坑完掘



第 B7 号土坑完掘



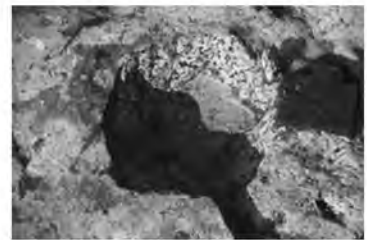
第 B107 号土坑完掘



第 B109 号土坑完掘

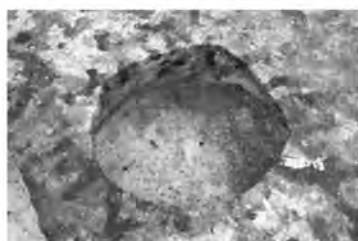


第 B110 号土坑遺物出土状況



第 B111 号土坑完掘

写真1 B区検出遺構(1)



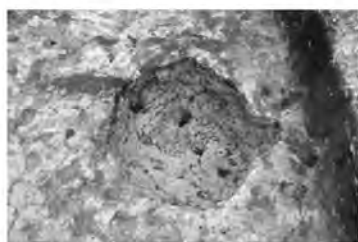
第 B112 号土坑完掘



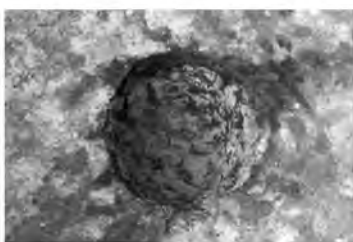
第 B113 号土坑完掘



第 B114 号土坑完掘



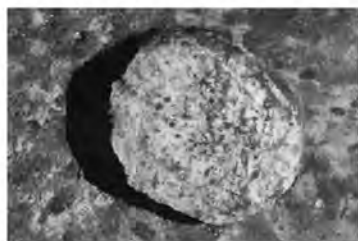
第 B116 号土坑完掘



第 B118 号土坑完掘



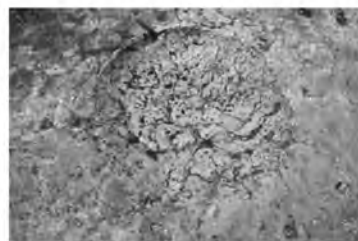
第 B119 号土坑完掘



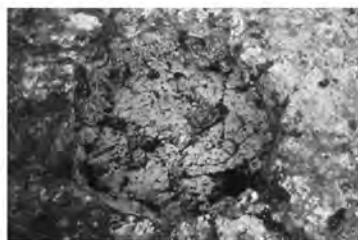
第 B120 号土坑完掘



第 B122 号土坑完掘



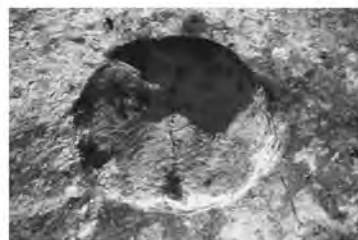
第 B123 号土坑完掘



第 B125 号土坑完掘



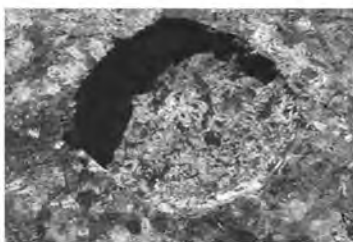
第 B126 号土坑完掘



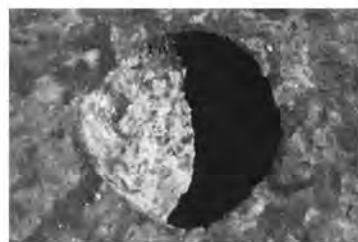
第 B128 号土坑完掘



第 B129 号土坑完掘



第 B131 号土坑完掘



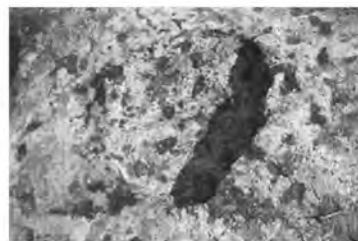
第 B132 号土坑完掘



第 B133 号土坑完掘



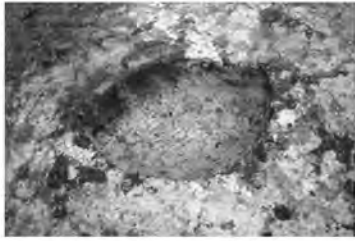
第 B138 号土坑完掘



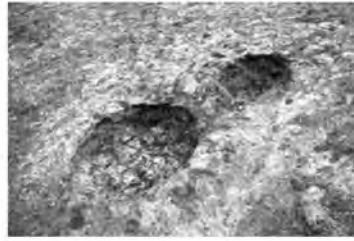
第 B139 号土坑完掘

写真 2 B区検出遺構(2)

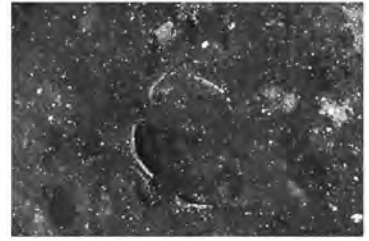




第 B140 号土坑完掘



第 B141 号土坑完掘



第 B 1 号土器埋設遺構確認



第 B 1 号土器埋設遺構断面



第 B 1 号性格不明遺構完掘



第 B 1 号性格不明遺構西側完掘



第 B 1 号性格不明遺構東側完掘



第 B 1 号性格不明遺構土層断面



第 B 1 号性格不明遺構土層断面



第 B 1 号性格不明遺構土層断面



第 B 1 号性格不明遺構壁面状況



第 B 1 号性格不明遺構壁面状況



B 区沢 A 完掘



B 区沢 A 土層堆積状況



B 区沢 A 土層堆積状況



B 区沢 A 作業風景



B 区沢 B 完掘



B 区沢 B 調査風景

写真3 B区検出遺構(3)



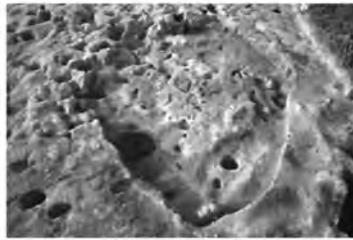
第 C1 号竖穴住居跡完掘



第 C1 号竖穴住居跡土層断面



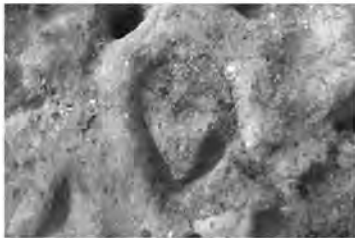
第 C1 号竖穴住居跡炉完掘



第 C2 号竖穴住居跡完掘



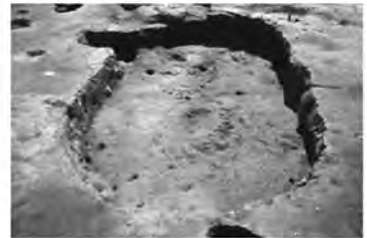
第 C2 号竖穴住居跡土層断面



第 C2 号竖穴住居跡炉完掘



第 C3 号竖穴住居跡炉完掘



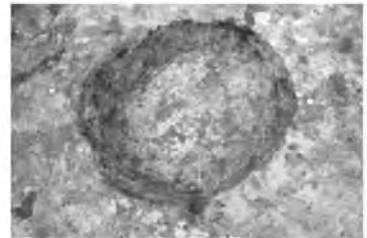
第 C4 号竖穴住居跡完掘



第 C4 号竖穴住居跡土層断面



第 C1 号掘立柱建物跡完掘



第 C1 号土坑完掘



第 C2 号土坑完掘



第 C3 号土坑完掘



第 C4 号土坑完掘



第 C5 号土坑完掘



第 C8 号土坑完掘

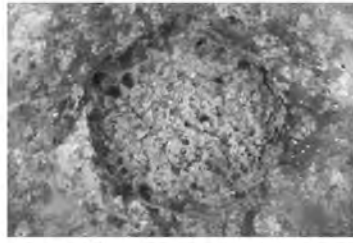


第 C9 号土坑完掘

写真 4 C区検出遺構(1)



第 C10 号土坑完掘



第 C12 号土坑完掘



第 C15 号土坑完掘



第 C16 号土坑完掘



第 C17 号土坑完掘



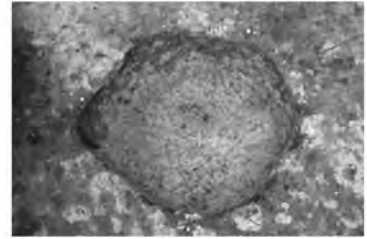
第 C18 号土坑完掘



第 C19 号土坑完掘



第 C20 号土坑完掘



第 C21 号土坑完掘



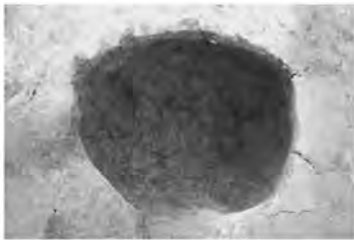
第 C23 号土坑完掘



第 C26 号土坑完掘



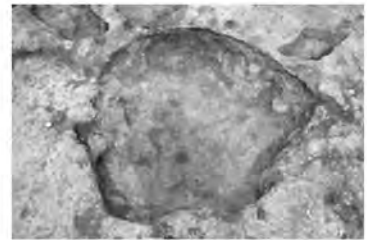
第 C27 号土坑完掘



第 C28 号土坑完掘



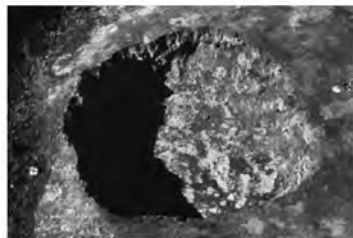
第 C30 号土坑完掘



第 C32 号土坑完掘



第 C35 号土坑完掘



第 C38 号土坑完掘



第 C39 号土坑完掘

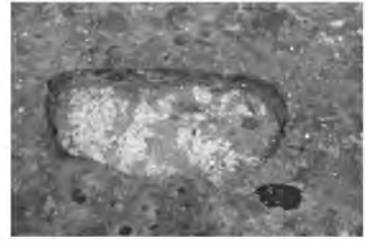
写真5 C区検出遺構(2)



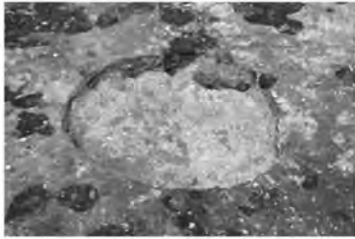
第 C40 号土坑完掘



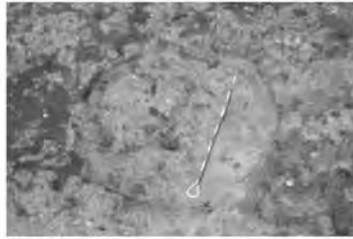
第 C41 号土坑完掘



第 C42 号土坑完掘



第 C44 号土坑完掘



第 C46 号土坑完掘



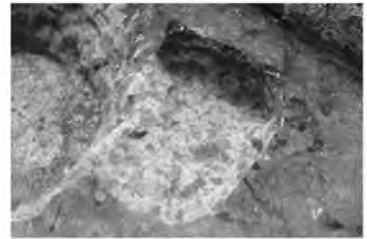
第 C47 号土坑完掘



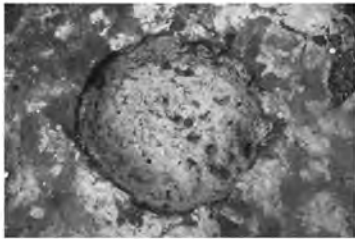
第 C48 号土坑完掘



第 C50 号土坑完掘



第 C51 号土坑完掘



第 C52 号土坑完掘



第 C 1 号土器埋設遺構確認



第 C 1 号土器埋設遺構側面



作業風景

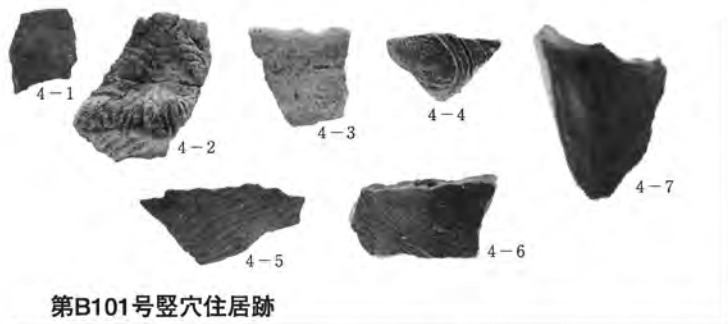


作業風景

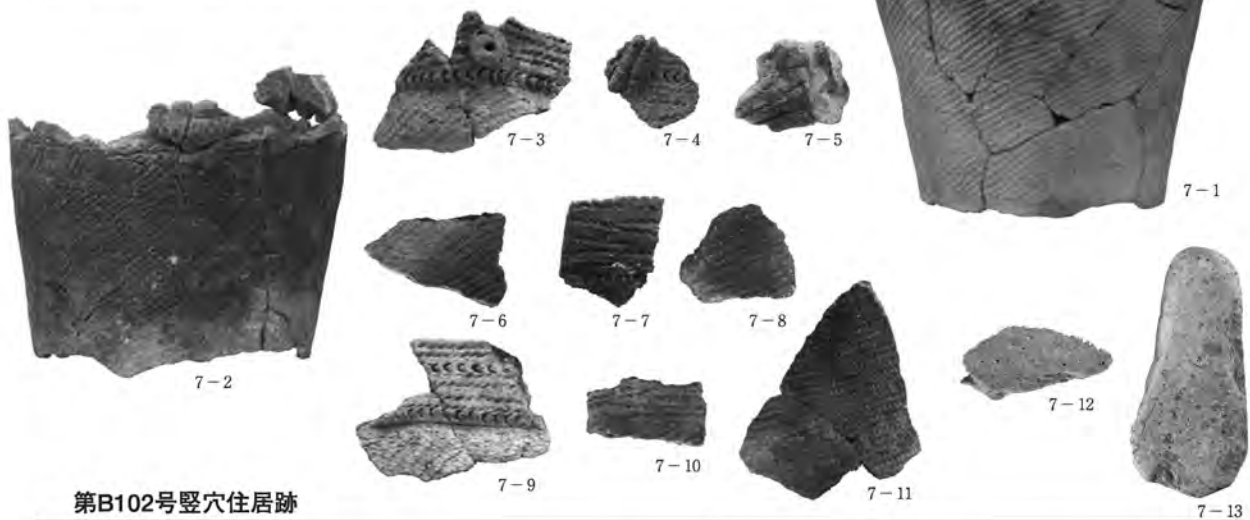


C 区全体写真

写真 6 C区検出遺構(3)



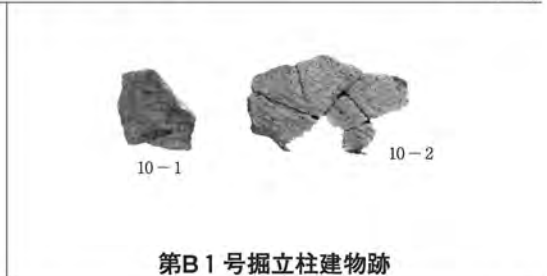
第B101号竖穴住居跡



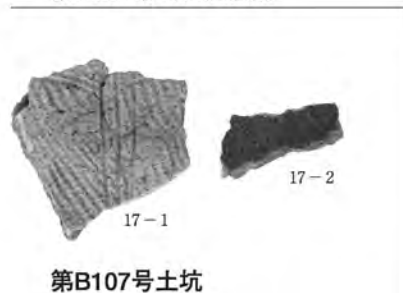
第B102号竖穴住居跡



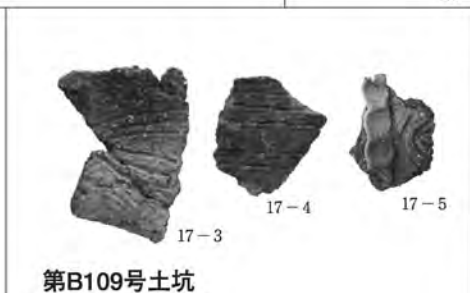
第B103号竖穴住居跡



第B1号掘立柱建物跡



第B107号土坑



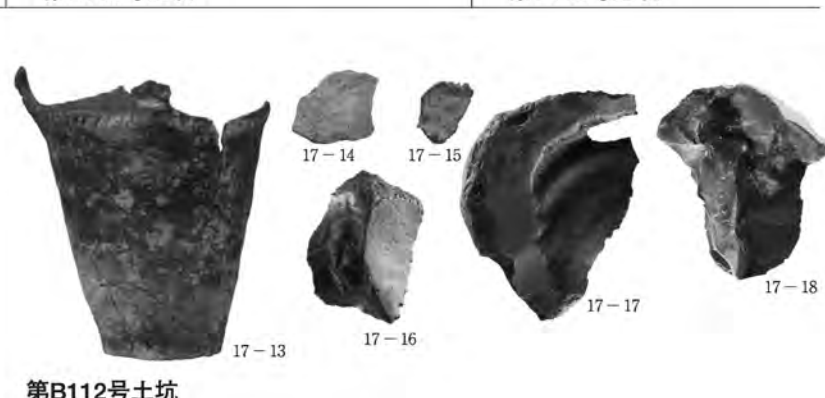
第B109号土坑



第B110号土坑



第B111号土坑



第B112号土坑

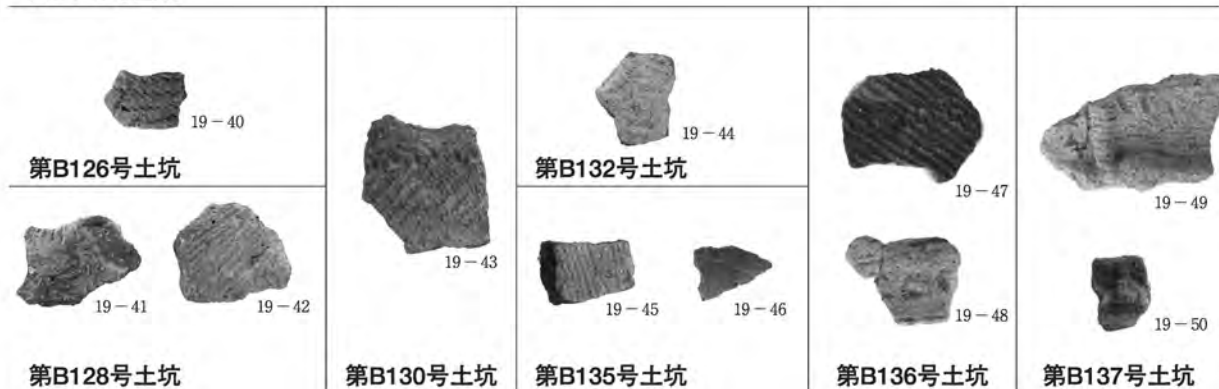
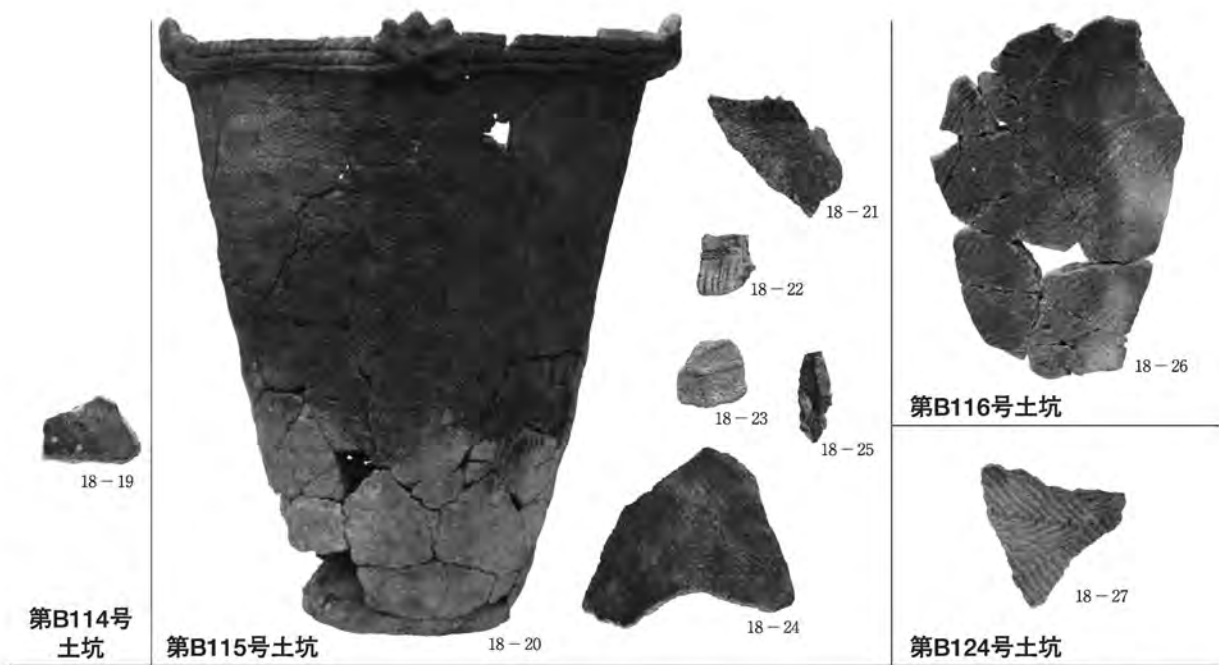


写真8 B区出土遗物(2)

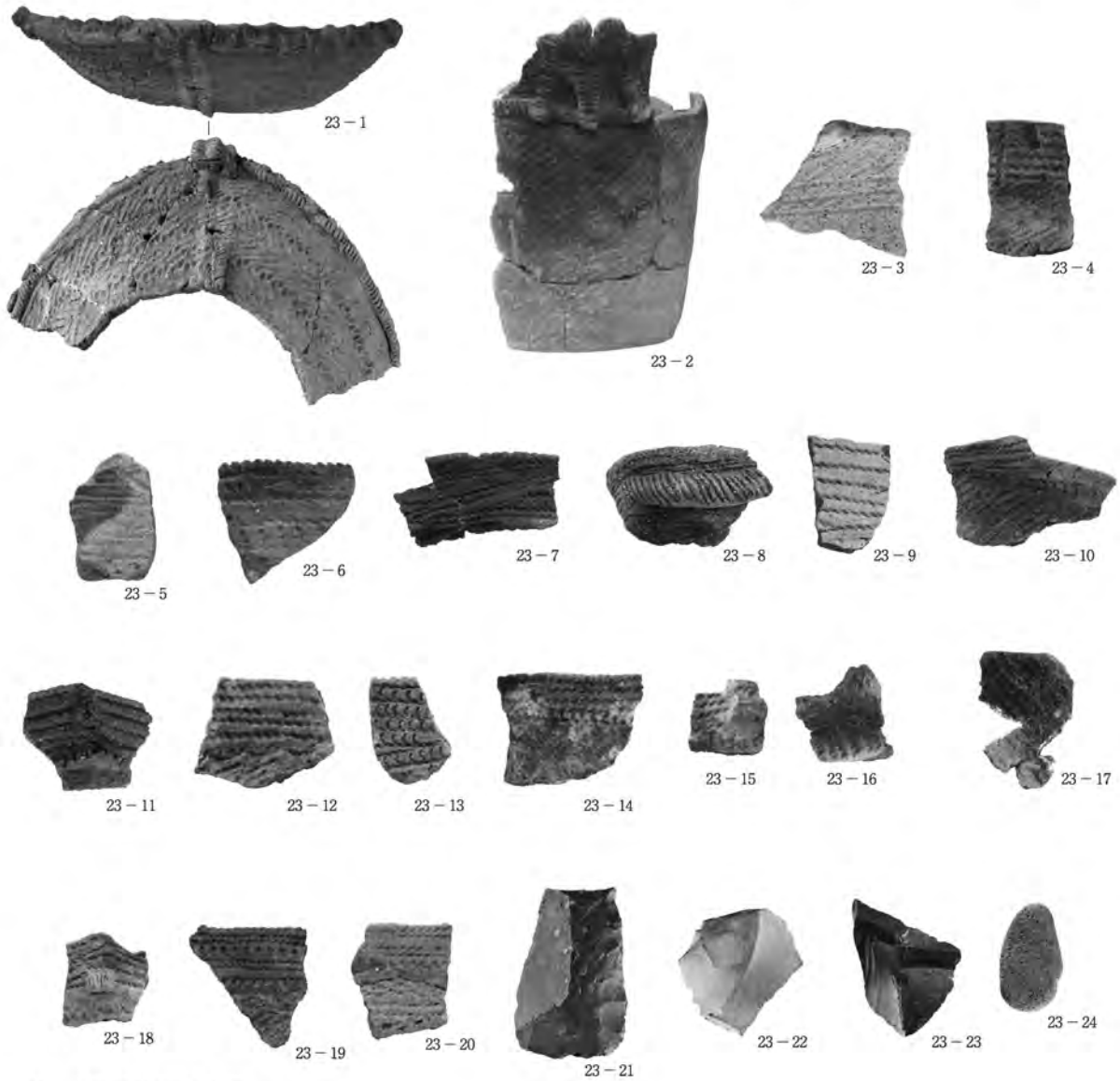


写真9 B区出土遺物(3)



沢A

写真10 B区出土遺物(4)



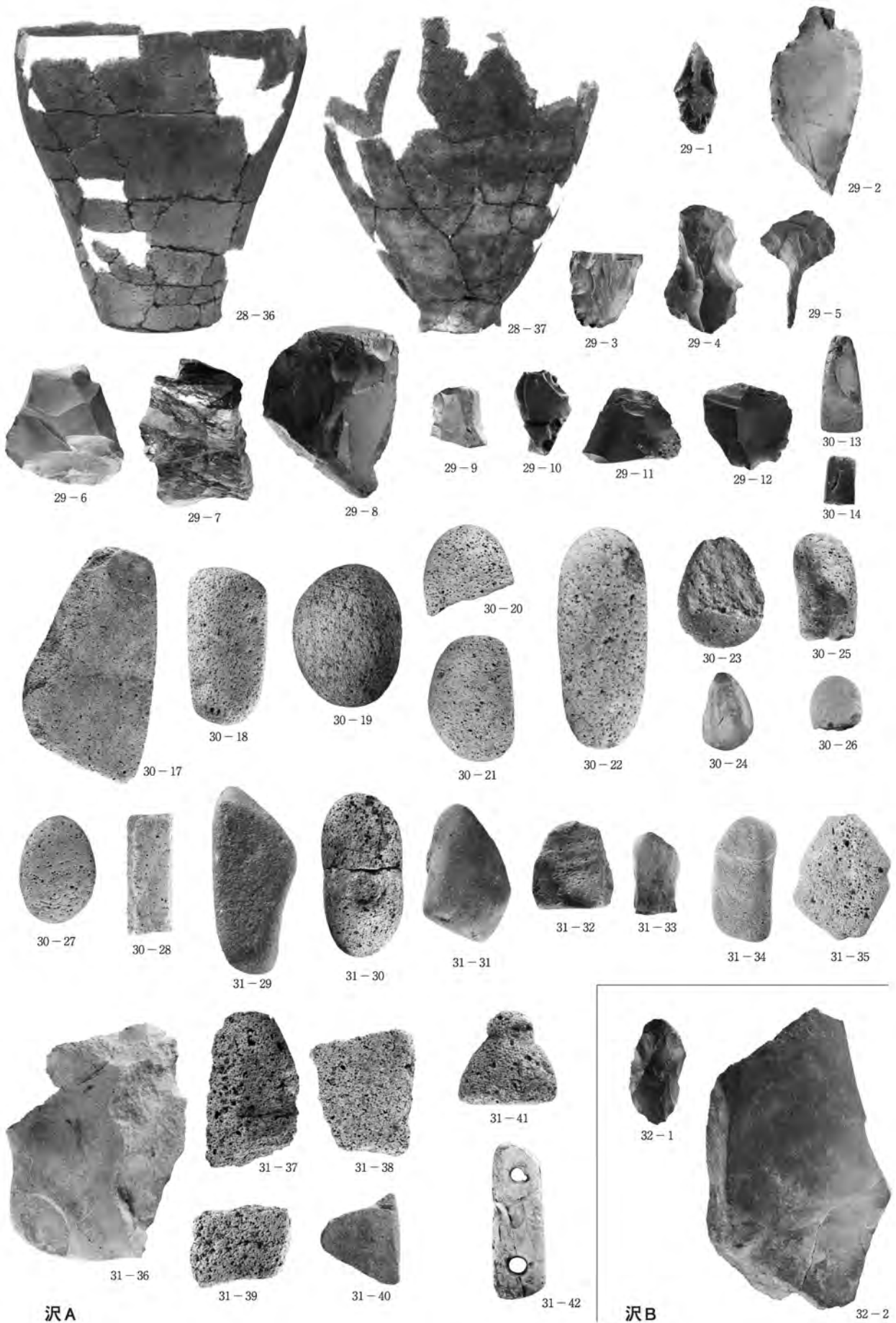
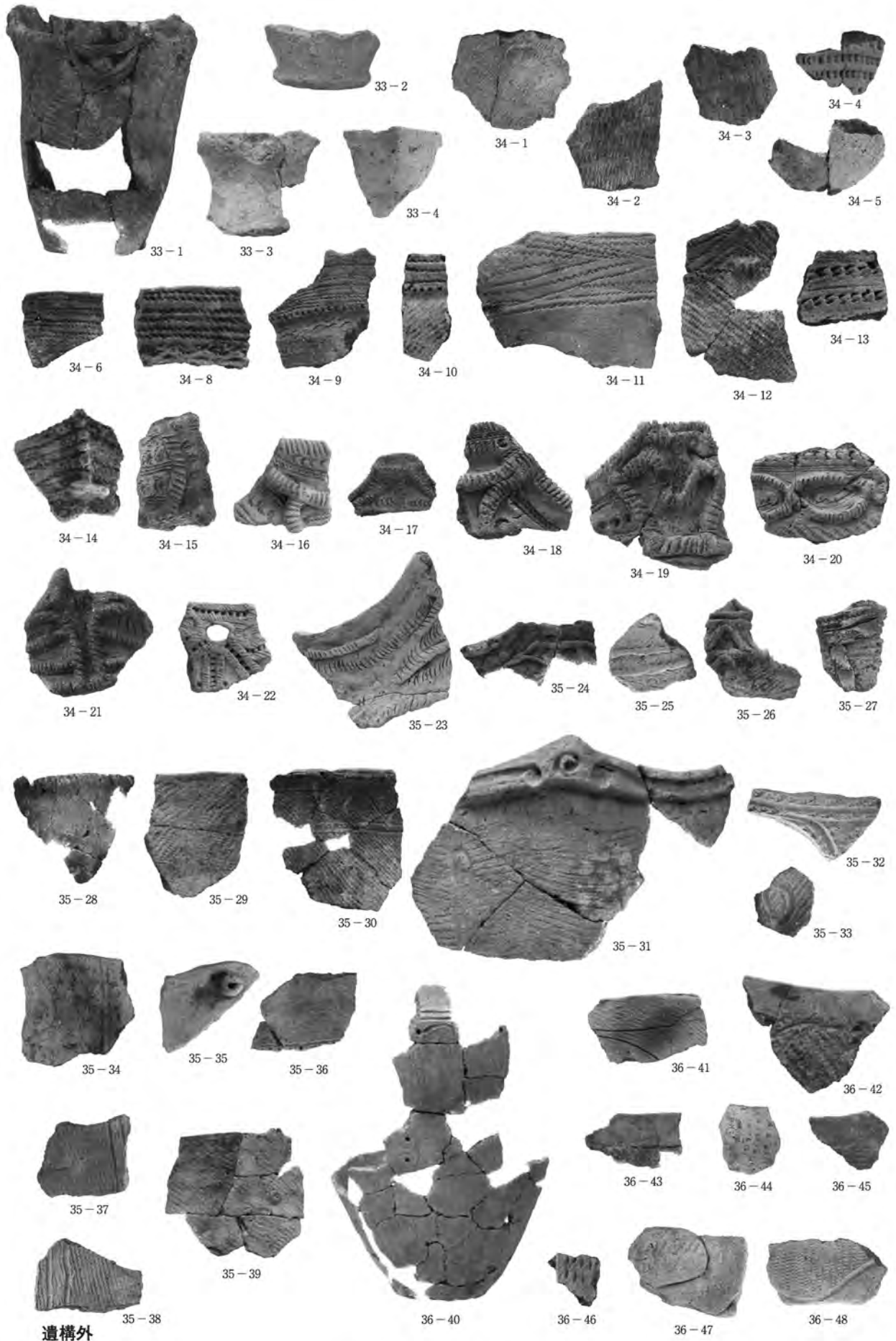
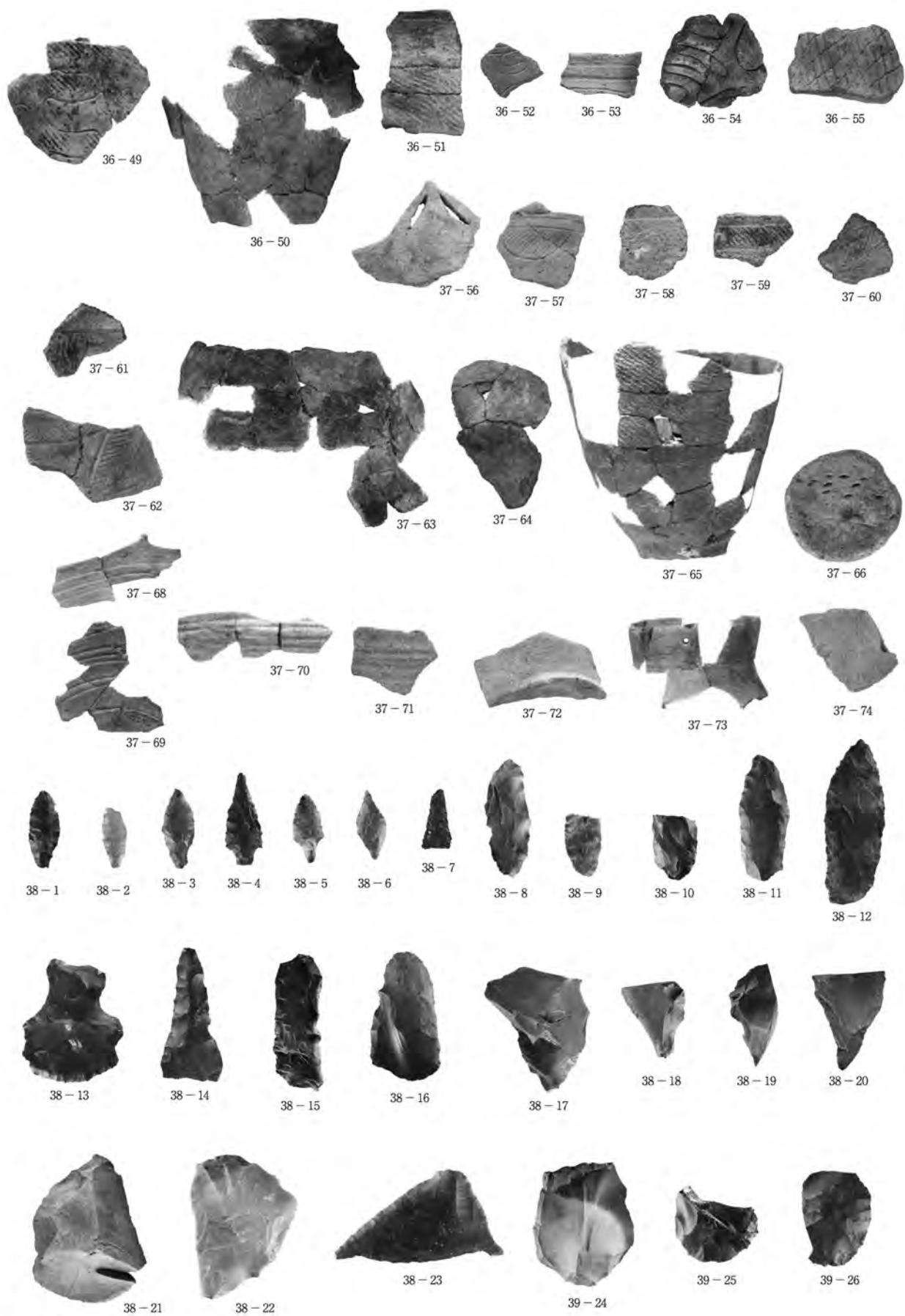


写真11 B区出土遺物(5)



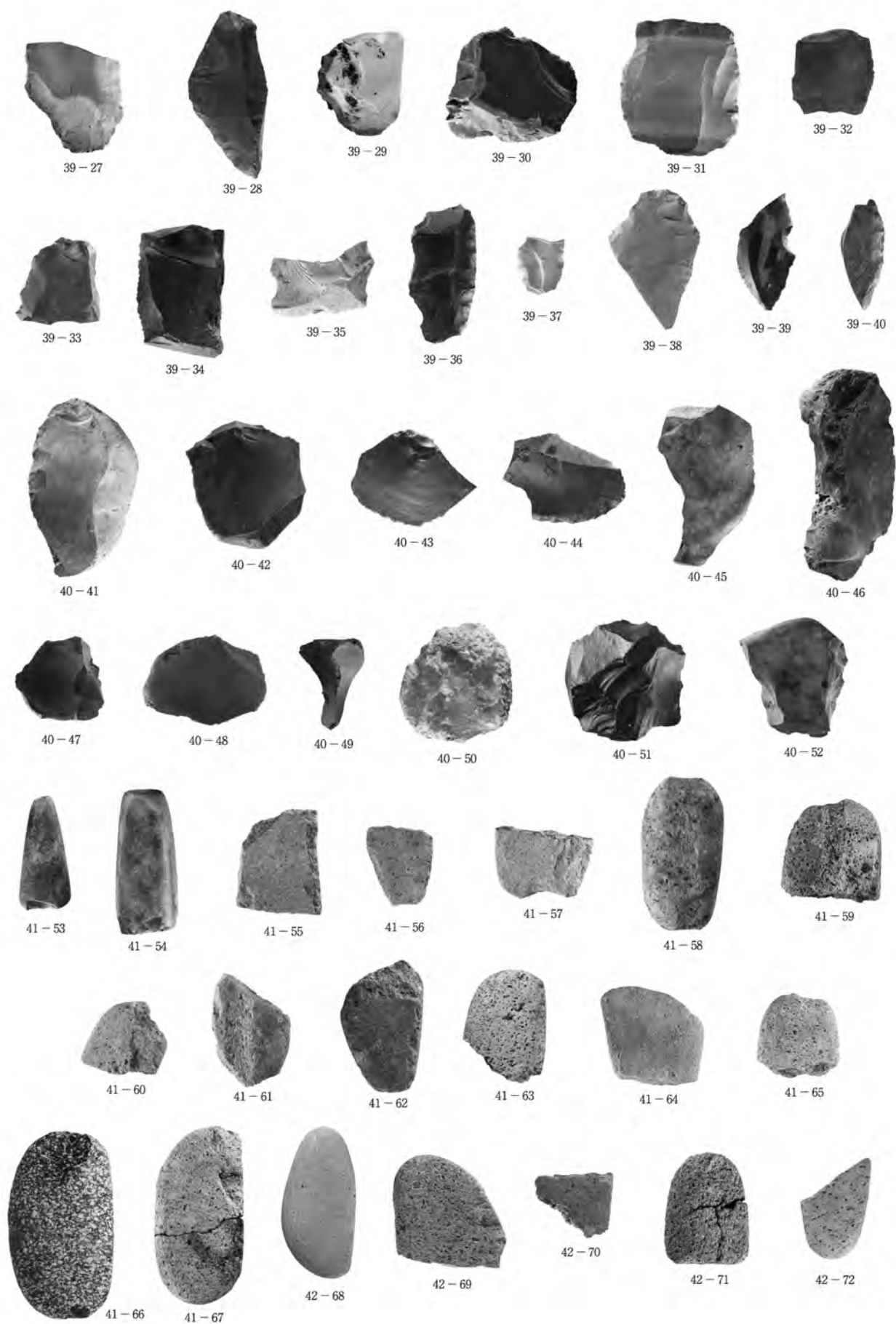
遺構外

写真12 B区出土遺物(6)



遺構外

写真13 B区出土遺物(7)



遺構外

写真14 B区出土遺物(8)

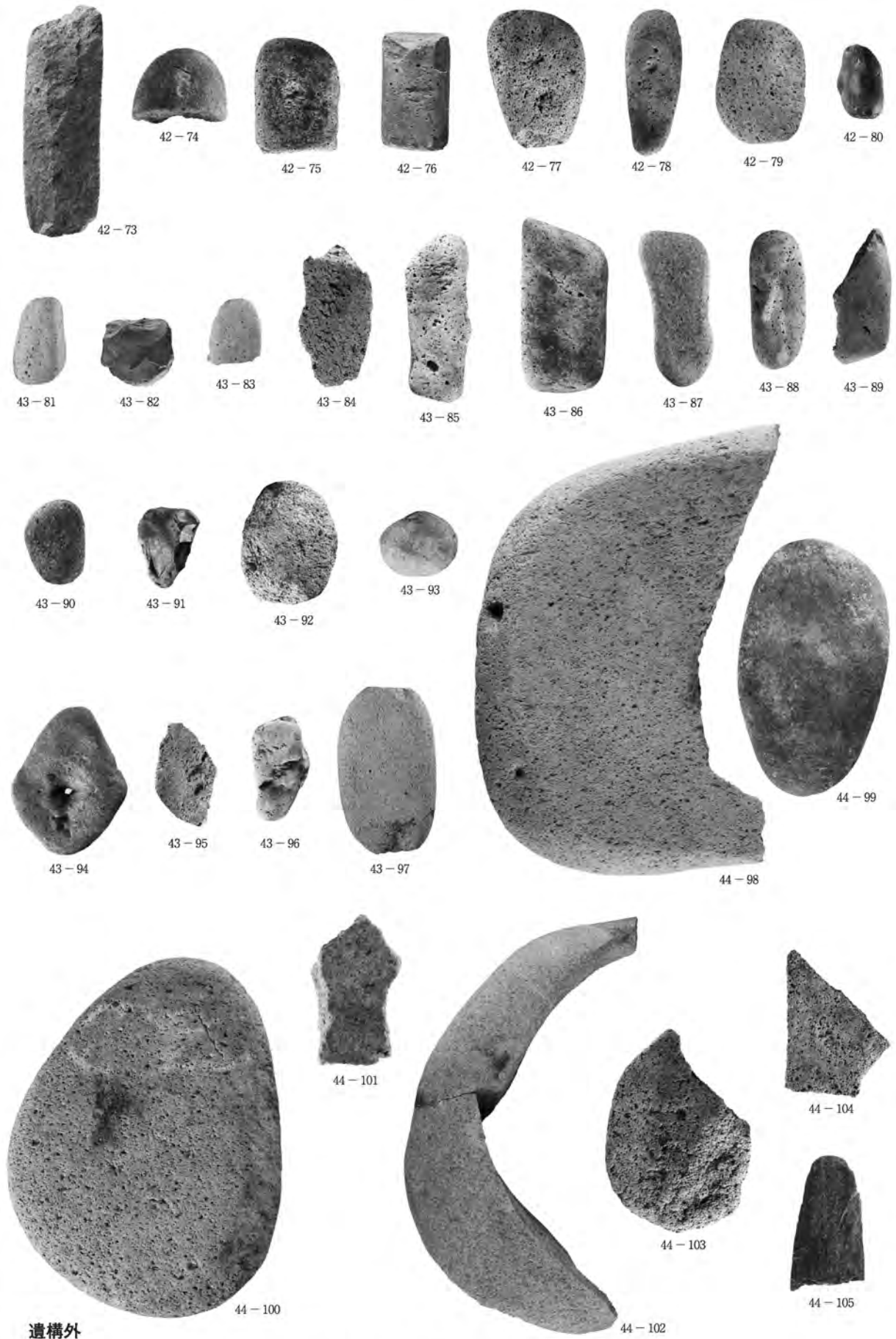
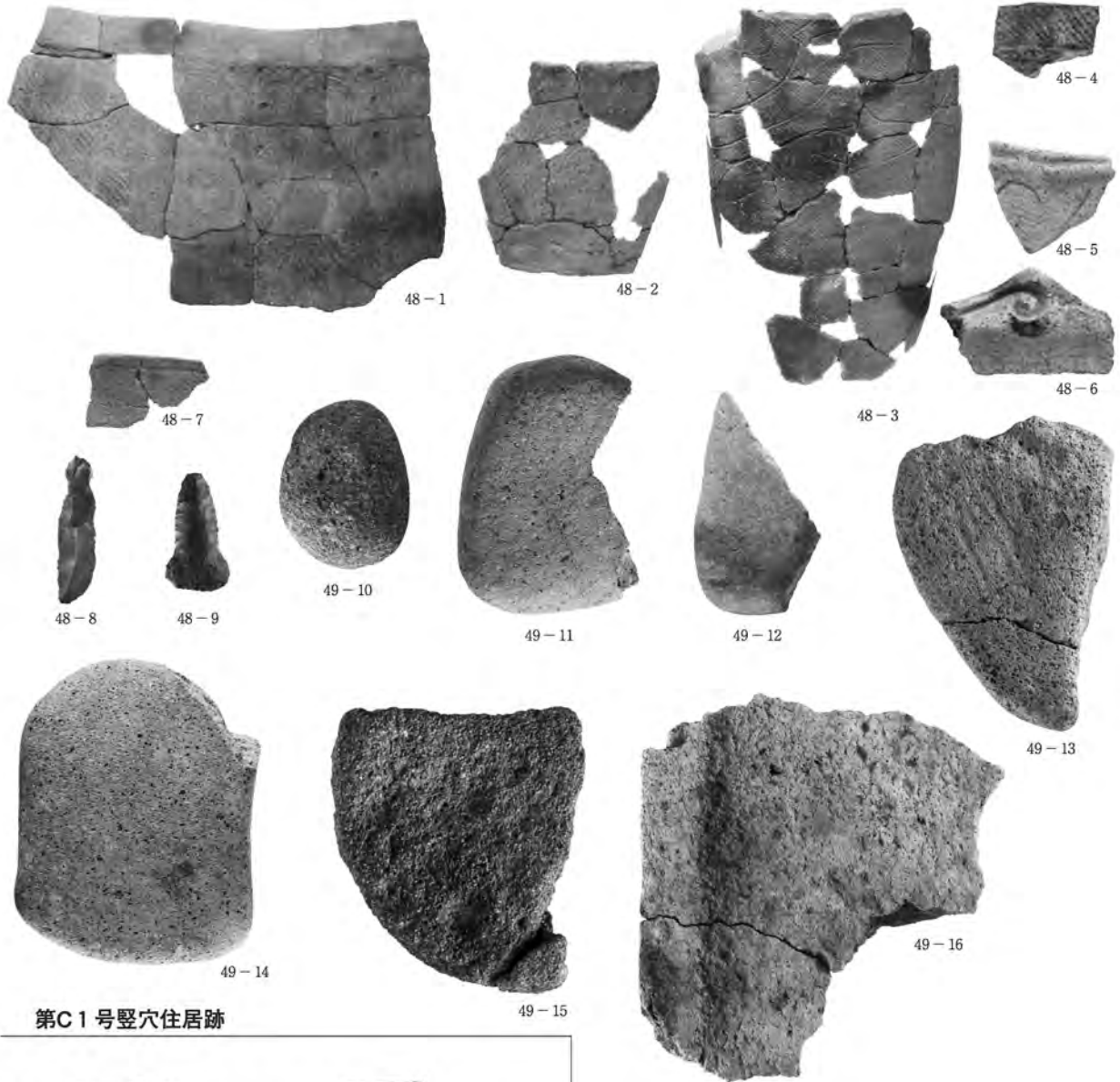
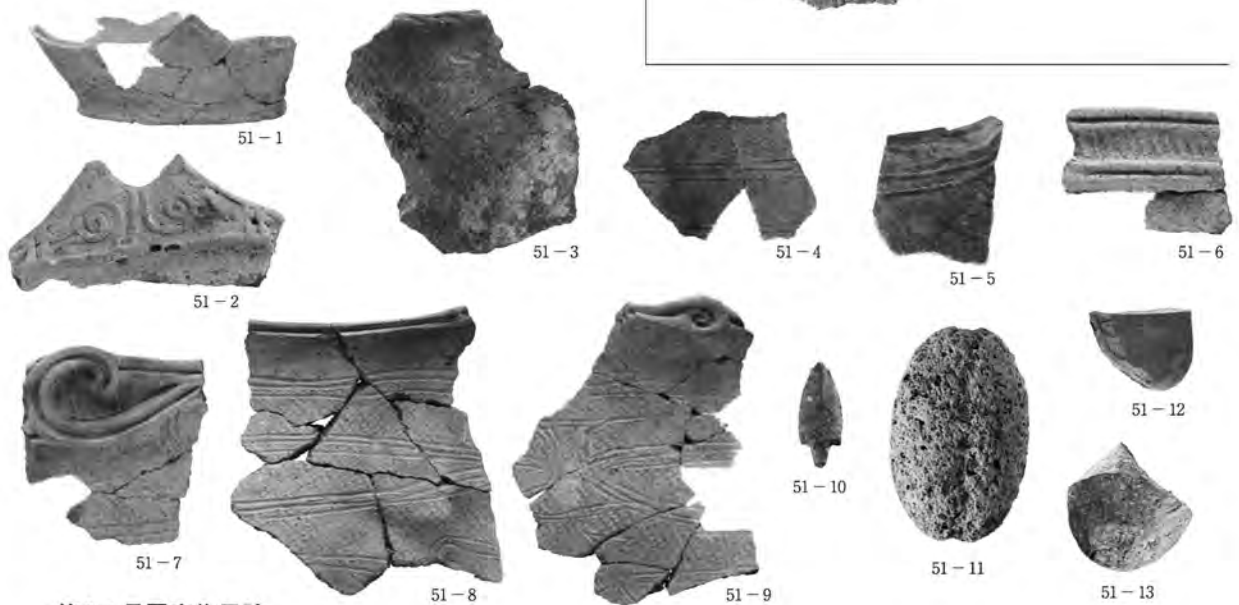


写真15 B区出土遺物(9)



第C1号竖穴住居跡

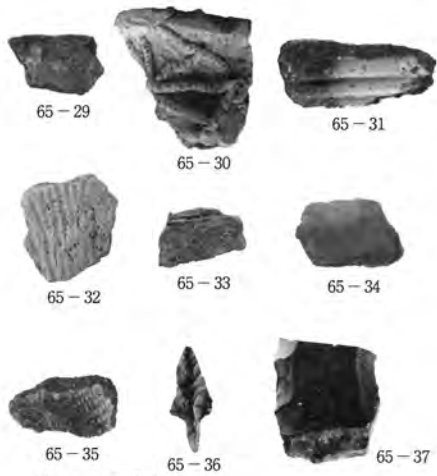


第C2号竖穴住居跡

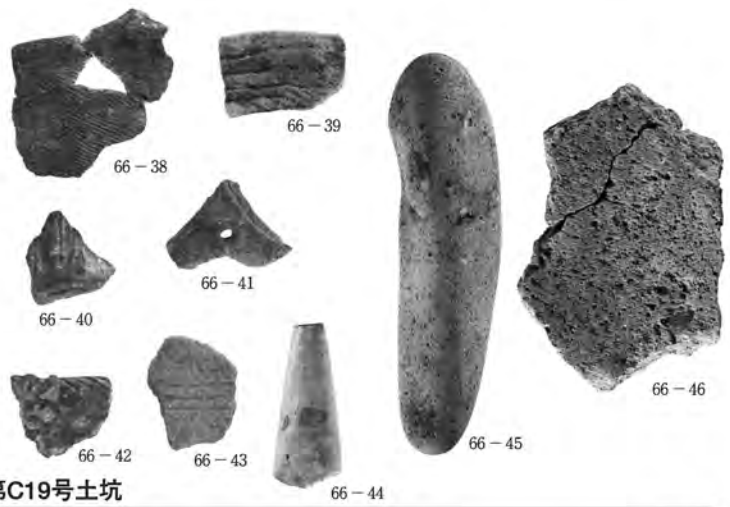
写真16 C区出土遺物(1)



写真17 C区出土遺物(2)



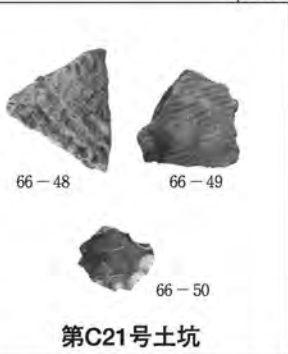
第C18号土坑



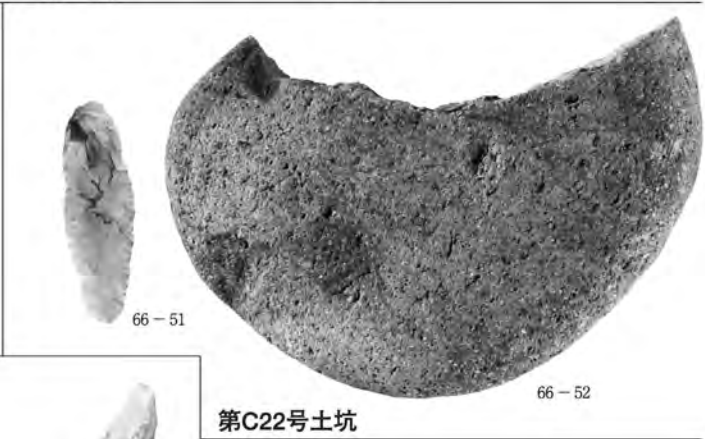
第C19号土坑



第C20号土坑



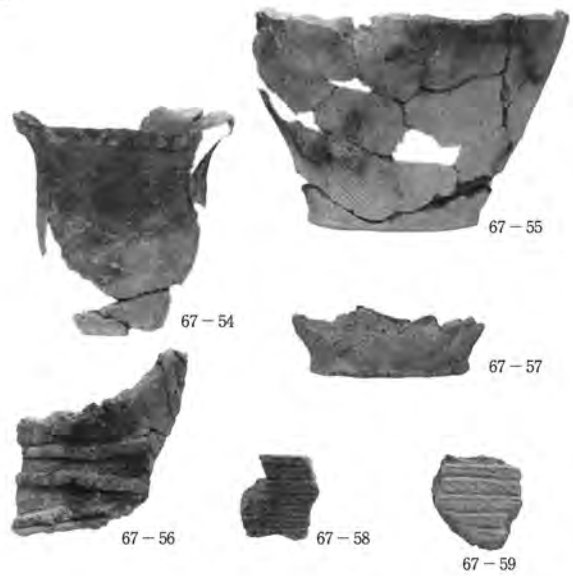
第C21号土坑



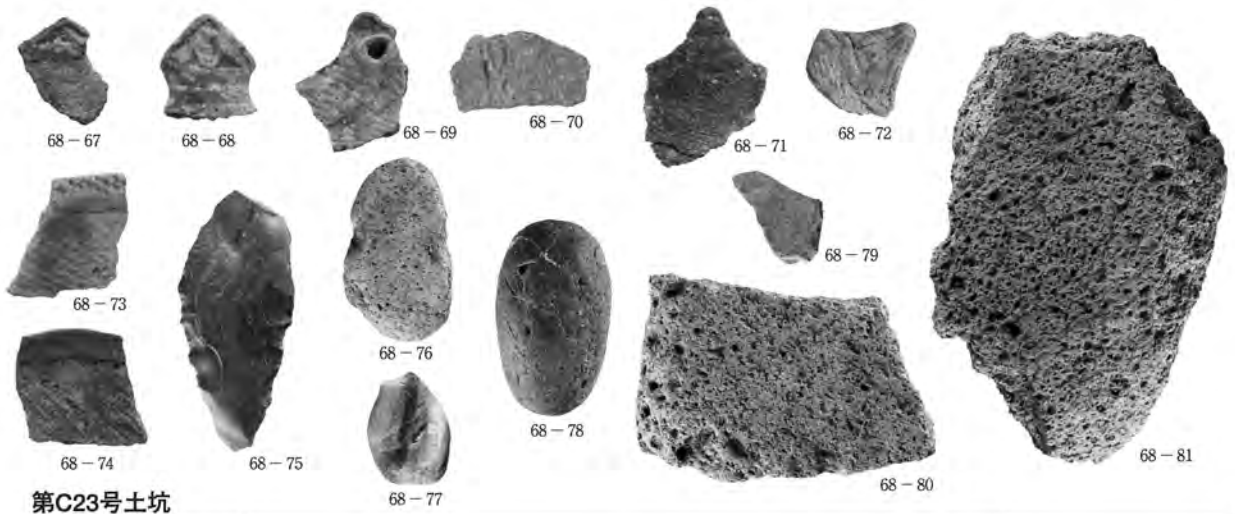
第C22号土坑



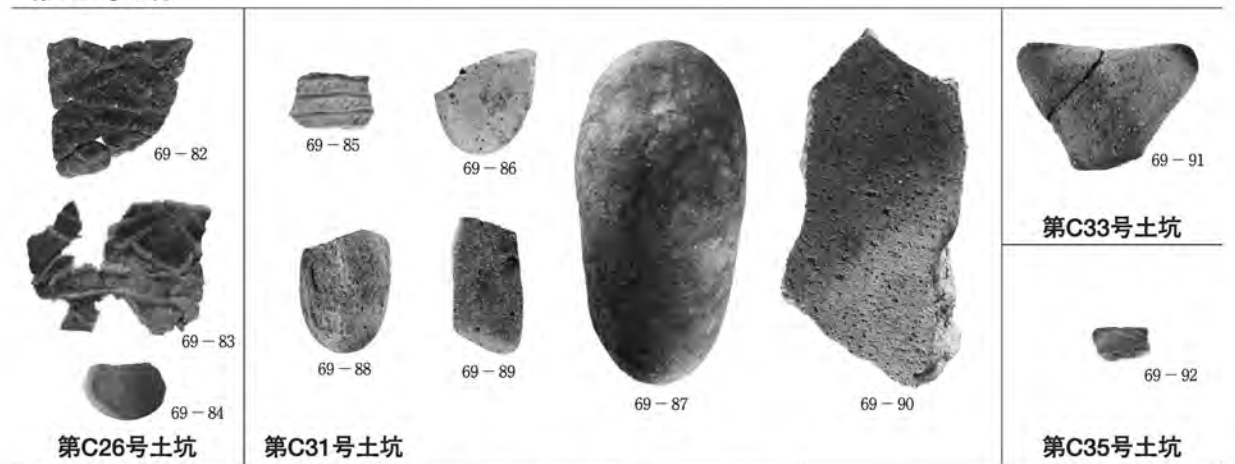
第C23号土坑







第C23号土坑

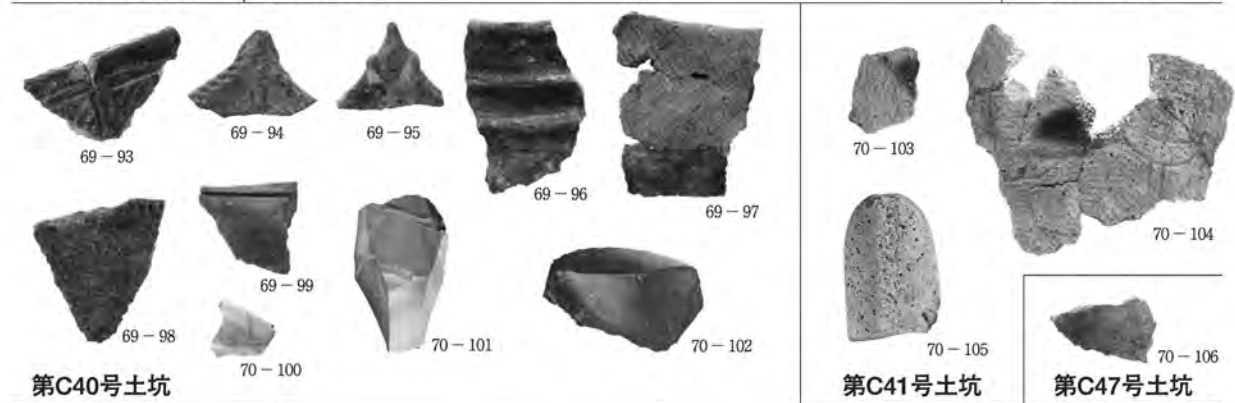


第C26号土坑

第C31号土坑

第C33号土坑

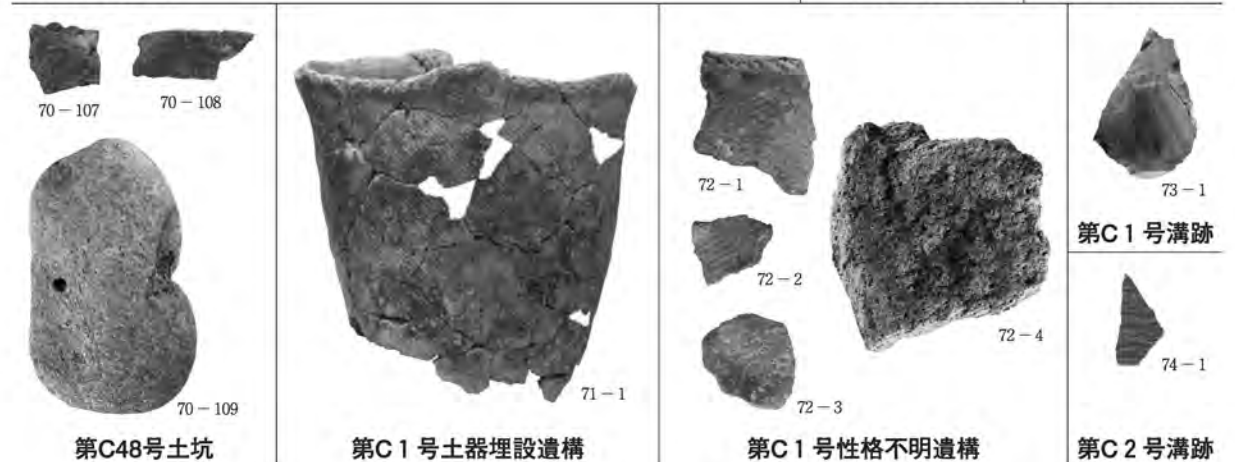
第C35号土坑



第C40号土坑

第C41号土坑

第C47号土坑



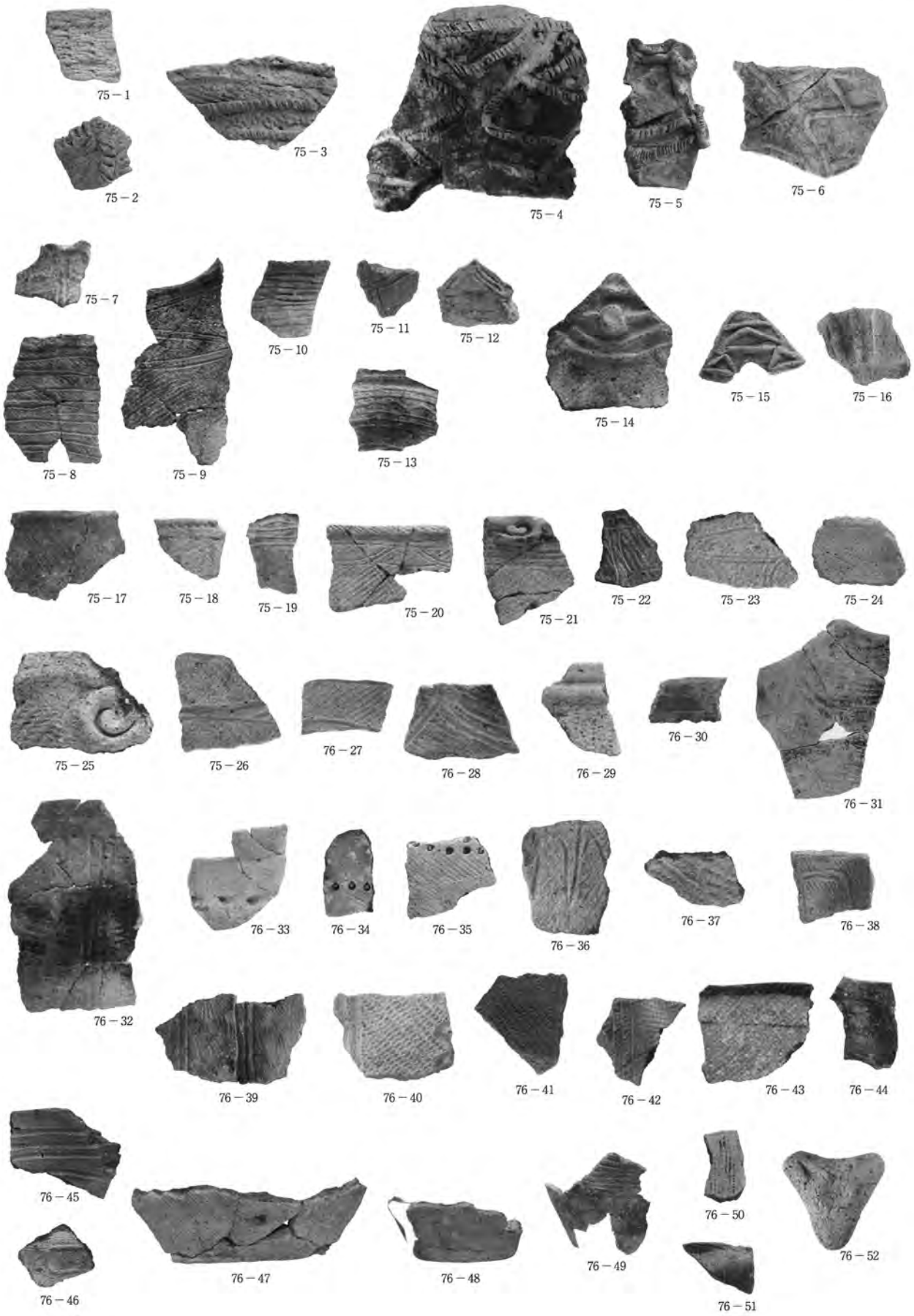
第C48号土坑

第C1号土器埋設遺構

第C1号性格不明遺構

第C1号溝跡

第C2号溝跡



遺構外

写真20 C区出土遺物(5)

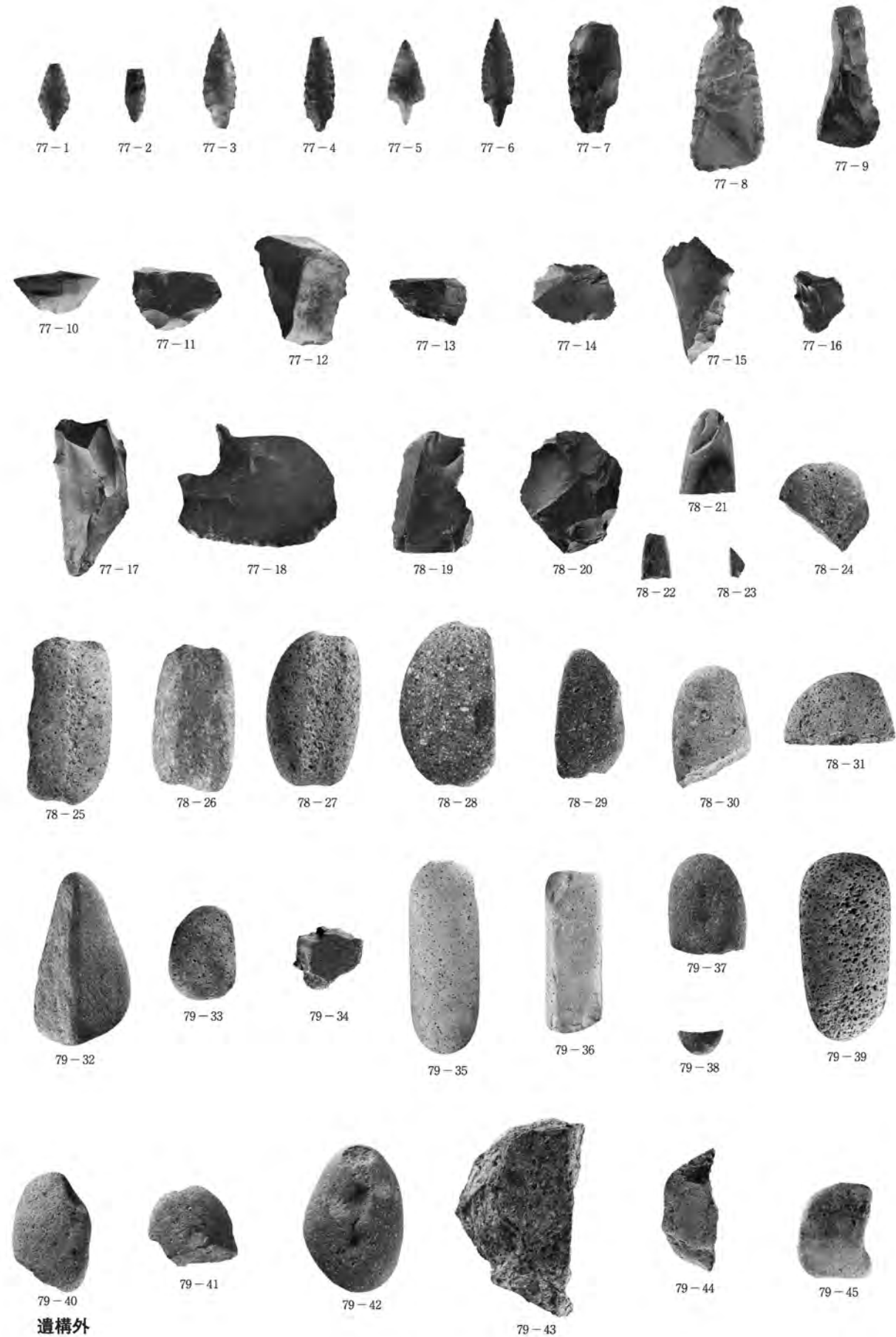


写真21 C区出土遺物(6)

## 報告書抄録

ふりがな	さんないさわべ(3)いせき 2							
書名	三内沢部(3)遺跡 II							
副書名	東北新幹線建設事業に伴う発掘調査報告							
巻次								
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第426集							
編著者名	小笠原 雅行・小山内 将淳・神 康夫							
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒038-0042 青森市新城字天田内152-15 TEL 017-788-5701							
発行年月日	2007年3月2日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		日本測地系 (Tokyo Datum)		調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
さんないさわべ 三内沢部(3) いせき 遺跡	あおもりけんあおもりしさんないあざ 青森県青森市三内字 さわべ 沢部313-7、外	02201	01239	40°	140°	20040422 20041022 20050418 20051019 20060420 20061025	5,900	東北新幹線 建設
				48′	41′			
				52″	47″			
				世界測地系 (JGD 2000)				
				北緯	東経			
				40°	140°			
				48′	41′			
				60″	35″			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
三内沢部(3) 遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居跡 7棟 掘立柱建物跡 2棟 土坑 89基 土器埋設遺構 2基 性格不明遺構 2基 捨て場 2ヶ所	縄文土器、石器、 土・石製品、弥生 土器	・初現的な特殊施設をも つ竪穴住居跡 ・壁面が横掘りされ、特 異な堆積状況を示す性格 不明遺構(粘土採掘坑?)			
要約	三内沢部(3)遺跡は縄文時代の集落跡である。平成15年度に調査を行った沖館川縁からは、中期後半期の集落跡が検出された。今回の調査は台地上が主な調査区であるが、中期前葉から後葉を主体とした集落跡が検出された。竪穴住居跡は、土器型式に照らせば、各型式ごとに1~2軒程度である。調査区が限定されていることを考慮しても、竪穴住居が大規模に広がる集落だったことは考えにくい。その他の遺構としては、掘立柱建物跡、フラスコ状土坑、土器埋設遺構があるが、竪穴住居跡の軒数同様、少数である。検出数が多いものとして、径1m・深さ30cmほどの円形土坑があるが、性格は明確にできなかった。土器の完形個体が出土しているものもあることから、副葬品の要素が高いものと思われるが、数が限定されており、さらに類例の増加を待つ必要がある。また、B区性格不明遺構とした大規模な遺構は、平面や壁面の形状から粘土採掘坑の可能性が高いものと考えられる。 三内沢部(3)遺跡の沖館川を隔てた南側には、特別史跡三内丸山遺跡がある。集落存続時期としても重複するものである。両遺跡には継続期間・集落構成・遺物量、想定される集落規模など差異は明確である。今後、三内丸山遺跡周辺に点在する集落跡との時間的・規模的な差異なども検討していかなければならない。							

---

青森県埋蔵文化財調査報告書 第426集

## 三内沢部(3)遺跡Ⅱ

—東北新幹線建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

発行年月日 2007年3月2日

発行 青森県教育委員会

編集 青森県埋蔵文化財調査センター

〒038-0042 青森市新城字天田内152-15

TEL 017-788-5701 FAX 017-788-5702

印刷所 株式会社 精工プロセス

〒030-0964 青森市南佃1丁目17-41

TEL 017-741-3011 FAX 017-741-2577

---